

＜集計分析結果＞

(クロス集計版)

在宅介護実態調査の集計結果

～第10期介護保険事業計画の策定に向けて～

令和8年7月

＜石狩市＞

目次

1 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討	[P. 1]
1.1 集計・分析の狙い	[P. 1]
1.2 集計結果と着目すべきポイント	[P. 2]
(1) 基礎集計	[P. 2]
(2) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化	[P. 4]
(3) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化	[P. 7]
(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係	[P. 12]
(5) 「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係	[P. 16]
(6) 「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」の関係	[P. 19]
(7) 「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係	[P. 23]
1.3 考察	[P. 30]
2 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討	[P. 31]
2.1 集計・分析の狙い	[P. 31]
2.2 集計結果と着目すべきポイント	[P. 32]
(1) 基本集計	[P. 32]
(2) 就労状況別の、主な介護者が行っている介護と就労継続見込み	[P. 36]
(3) 「介護保険サービスの利用状況」・「主な介護者が不安に感じる介護」と「就労継続見込み」の関係	[P. 41]
(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係	[P. 45]
(5) 就労状況別の、保険外の支援・サービスの利用状況と、施設等検討の状況	[P. 48]
(6) 就労状況別の、介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援	[P. 52]
2.3 考察	[P. 57]
3 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討	[P. 58]
3.1 集計・分析の狙い	[P. 58]
3.2 集計結果と着目すべきポイント	[P. 59]
(1) 基礎集計	[P. 59]
(2) 世帯類型別の、保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス	[P. 61]
(3) 「世帯類型」×「要介護度」×「保険外の支援・サービスの利用状況」	[P. 64]
(4) 「世帯類型」×「要介護度」×「必要と感じる支援・サービス」	[P. 69]
3.3 考察	[P. 74]

4 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討	[P. 75]
4.1 集計・分析の狙い	[P. 75]
4.2 集計結果と着目すべきポイント	[P. 76]
(1) 基礎集計	[P. 76]
(2) 「要介護度別・世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」	[P. 78]
(3) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」	[P. 81]
(4) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」	[P. 85]
4.3 考察	[P. 90]
5 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討	[P. 91]
5.1 集計・分析の狙い	[P. 91]
5.2 集計結果と着目すべきポイント	[P. 92]
(1) 基礎集計	[P. 92]
(2) 訪問診療の利用割合	[P. 96]
(3) 訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ	[P. 99]
(4) 訪問診療の利用の有無別の訪問系・通所系・短期系サービスの利用の有無	[P. 101]
5.3 考察	[P. 104]
6 サービス未利用の理由など	[P. 105]
6.1 集計・分析の狙い	[P. 105]
6.2 集計結果（参考）	[P. 106]
(1) 要介護度別・世帯類型別のサービス未利用の理由	[P. 106]
(2) 認知症自立度別・世帯類型別のサービス未利用の理由	[P. 110]
(3) 認知症自立度別の今後の在宅生活に必要と感じる支援・サービス	[P. 114]
(4) 本人の年齢別・主な介護者の年齢	[P. 118]
(5) 要介護度別の抱えている傷病	[P. 119]
(6) 訪問診療の利用の有無別の抱えている傷病	[P. 120]

※図表タイトルの「★」は、オプション調査項目であることを示しています。

I 介護保険事業計画の策定に向けた検討

1 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

1.1 集計・分析の狙い

- ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「在宅生活の継続」と「介護者不安の軽減」の2つの視点からの集計を行っています。
- それぞれ、「どのようなサービス利用パターンの場合」に、「在宅生活を継続することができるのか」、もしくは「介護者の不安が軽減されているのか」を分析するために、「サービス利用パターン」とのクロス集計を行っています。
- なお、「サービス利用パターン」は、「サービス利用の組み合わせ」と「サービス利用の回数」の2つからなります。
- また、在宅限界点についての分析を行うという主旨から、多くの集計は要介護3以上、もしくは認知症高齢者の日常生活自立度Ⅲ以上の方に限定して集計をしています。

1.2 集計結果と着目すべきポイント

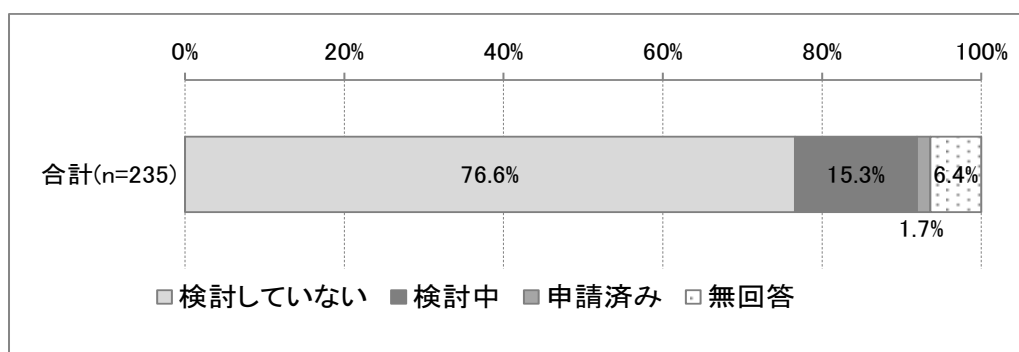
(1) 基礎集計

○ 施設等の検討状況に係る、基礎的な集計を行っています（図表 1-1～図表 1-3）。

【施設等検討の状況】

「検討していない」の割合が最も高く 76.6%となっている。次いで、「検討中（15.3%）」、「申請済み（1.7%）」となっている。

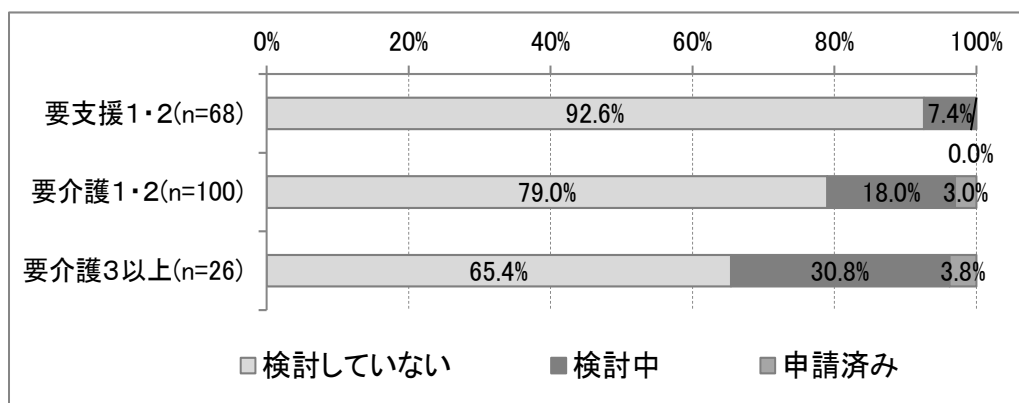
図表 1-1 施設等検討の状況



【要介護度別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「検討していない」が 92.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が 7.4%、「申請済み」が 0.0%となっている。「要介護1・2」では「検討していない」が 79.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が 18.0%、「申請済み」が 3.0%となっている。「要介護3以上」では「検討していない」が 65.4%と最も割合が高く、次いで「検討中」が 30.8%、「申請済み」が 3.8%となっている。

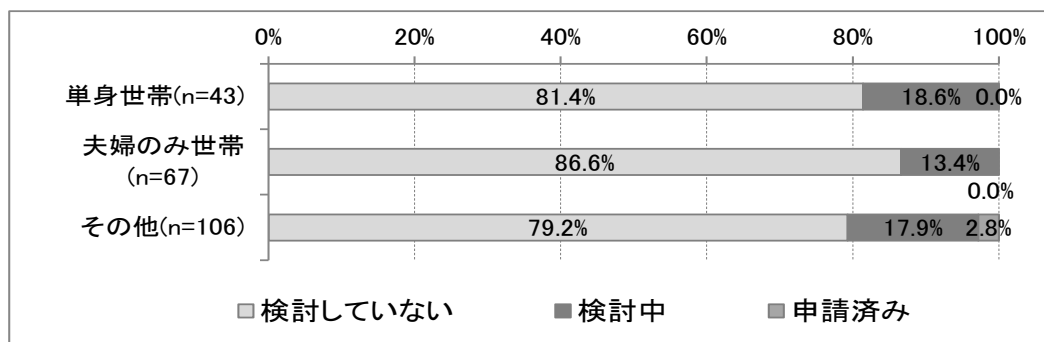
図表 1-2 要介護度別・施設等検討の状況<*>



【世帯類型別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「検討していない」が81.4%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が18.6%、「申請済み」が0.0%となっている。「夫婦のみ世帯」では「検討していない」が86.6%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が13.4%、「申請済み」が0.0%となっている。「その他」では「検討していない」が79.2%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が17.9%、「申請済み」が2.8%となっている。

図表 1-3 世帯類型別・施設等検討の状況



(2) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化

【着目すべきポイント】

- 要介護度と認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化について、集計分析をしています（図表 1-4、図表 1-5）。
- ここでの「主な介護者が不安に感じる介護」とは、「現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者が不安に感じる介護等」のことです。なお、ここで選択される介護は、現状で行っている介護であるか否かは問われていません。
- ここから、要介護度・認知症自立度別の、主な介護者が不安に感じる介護等を把握することができます。
- また、主な介護者の不安が相対的に大きな介護や、重度化に伴い主な介護者の不安が大きくなる介護等に着目することで、在宅限界点に大きな影響を与えと考えられる「主な介護者が不安に感じる介護」を推測することも可能になります。

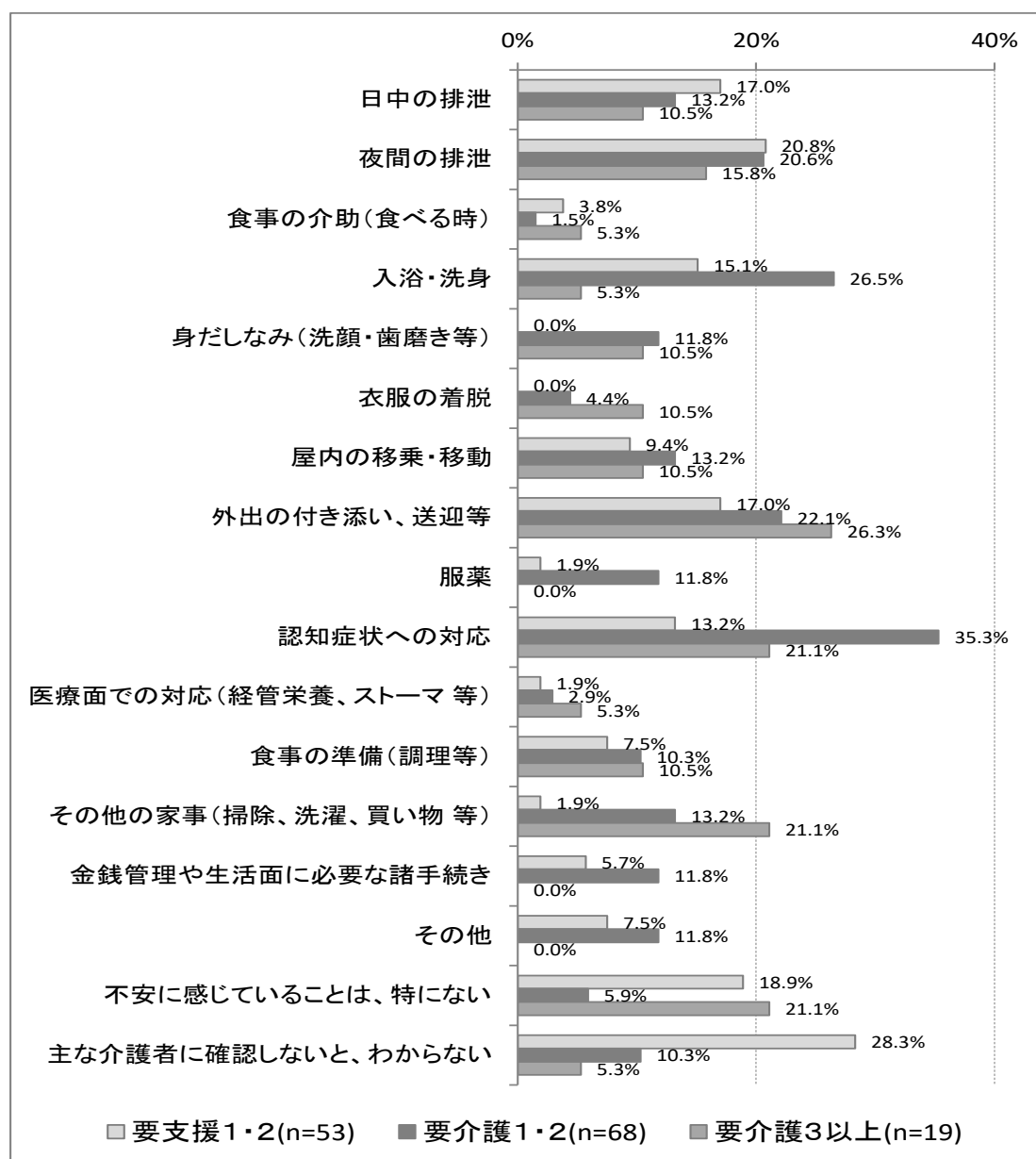
【要介護度別・介護者が不安に感じる介護】

介護者が不安に感じる介護を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「主な介護者に確認しないと、わからない」が28.3%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が20.8%、「不安に感じていることは、特にない」が18.9%となっている。

「要介護１・２」では「認知症状への対応」が35.3%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」が26.5%、「外出の付き添い、送迎等」が22.1%となっている。

「要介護３以上」では「外出の付き添い、送迎等」が26.3%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」、「不安に感じていることは、特にない」が21.1%、「夜間の排泄」が15.8%となっている。

図表 1-4 要介護度別・介護者が不安に感じる介護



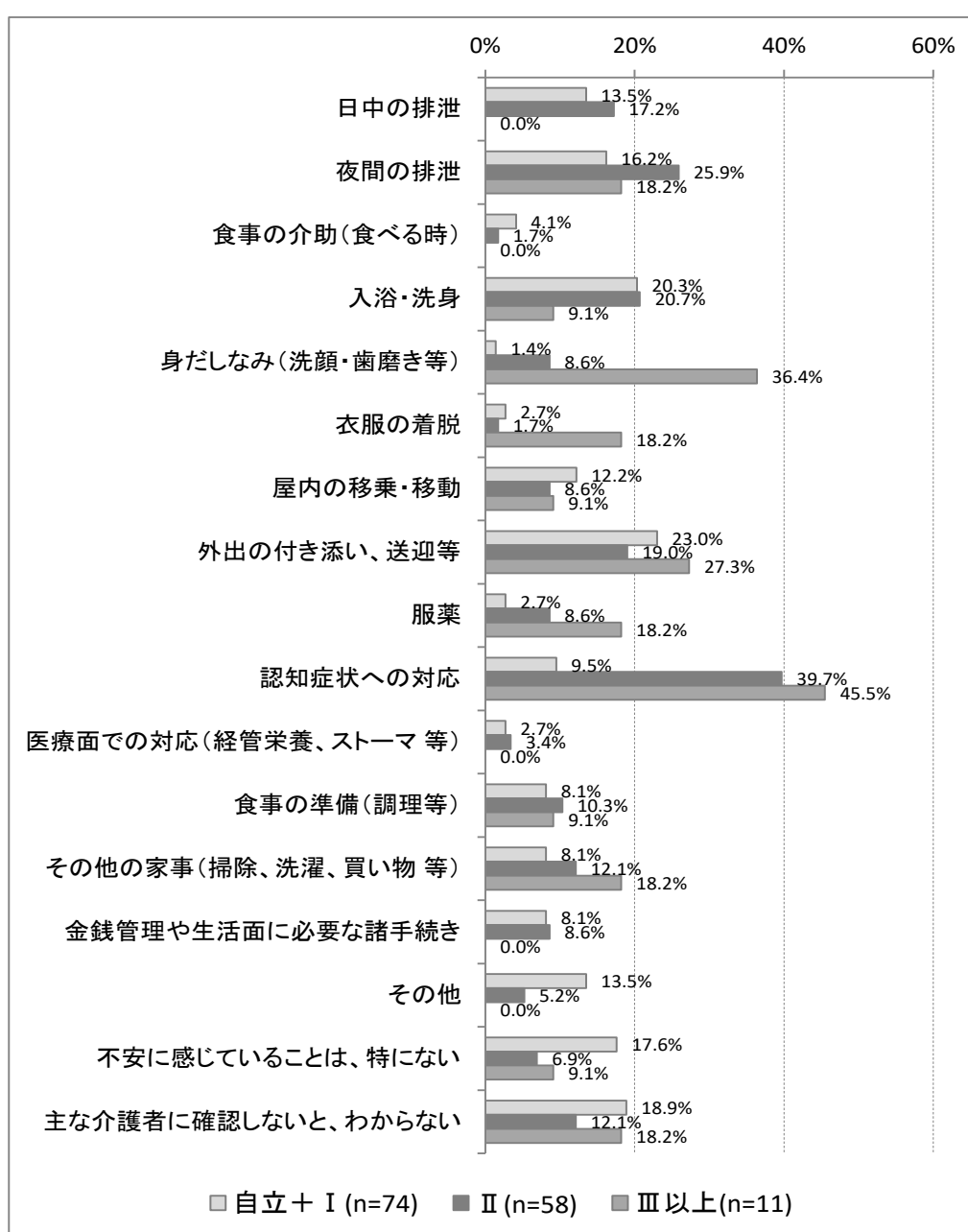
【認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護】

介護者が不安に感じる介護を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「外出の付き添い、送迎等」が23.0%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」が20.3%、「主な介護者に確認しないと、わからない」が18.9%となっている。

「Ⅱ」では「認知症状への対応」が39.7%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が25.9%、「入浴・洗身」が20.7%となっている。

「Ⅲ以上」では「認知症状への対応」が45.5%と最も割合が高く、次いで「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」が36.4%、「外出の付き添い、送迎等」が27.3%となっている。

図表 1-5 認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護



(3) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化

【着目すべきポイント】

- ここでは、要介護度・認知症自立度別の「サービス利用の組み合わせ」について、集計分析をしています（図表 1-6、図表 1-7）。
- 特に、重度化に伴い、どのようなサービス利用の組み合わせが増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような組み合わせのサービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを把握することができます。
- さらに、例えば今後の中重度の要介護者の増加に伴い、どのような「サービス利用の組み合わせ」のニーズが大きくなると考えられるかを推測することも可能になります。

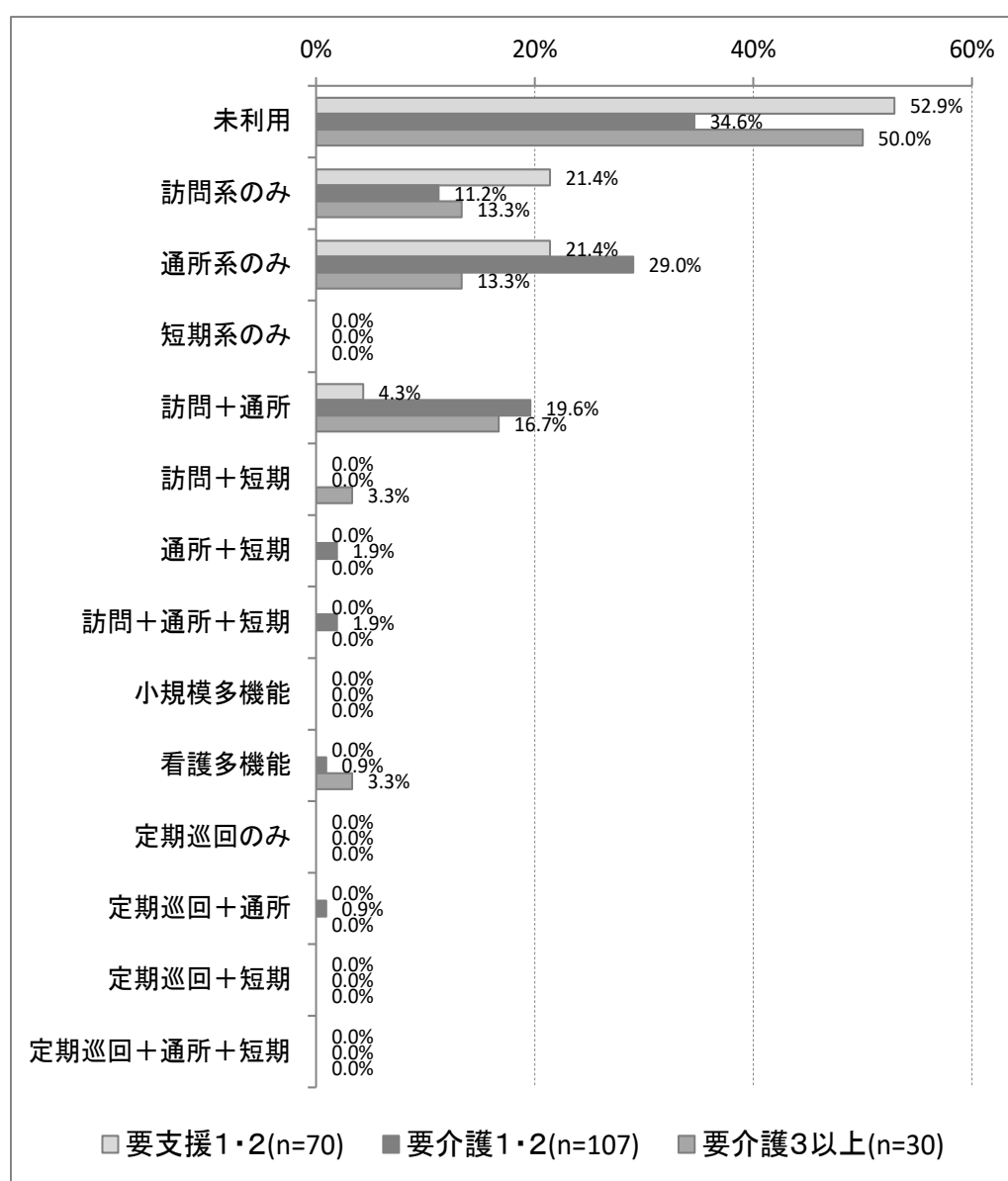
【要介護度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「未利用」が 52.9%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」、「通所系のみ」が 21.4%、「訪問＋通所」が 4.3%となっている。

「要介護１・２」では「未利用」が 34.6%と最も割合が高く、次いで「通所系のみ」が 29.0%、「訪問＋通所」が 19.6%となっている。

「要介護３以上」では「未利用」が 50.0%と最も割合が高く、次いで「訪問＋通所」が 16.7%、「訪問系のみ」、「通所系のみ」が 13.3%となっている。

図表 1-6 要介護度別・サービス利用の組み合わせ



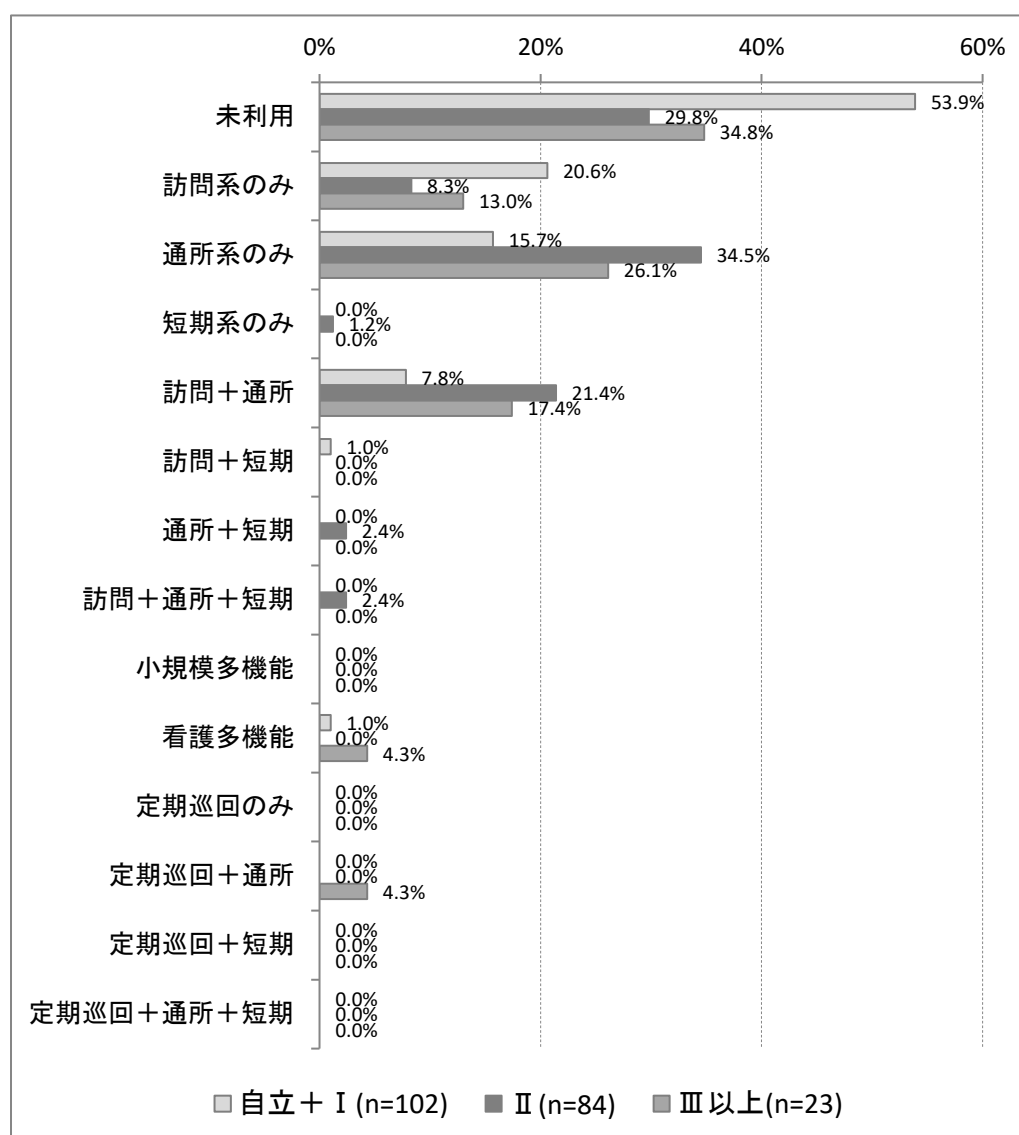
【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「未利用」が53.9%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が20.6%、「通所系のみ」が15.7%となっている。

「Ⅱ」では「通所系のみ」が34.5%と最も割合が高く、次いで「未利用」が29.8%、「訪問＋通所」が21.4%となっている。

「Ⅲ以上」では「未利用」が34.8%と最も割合が高く、次いで「通所系のみ」が26.1%、「訪問＋通所」が17.4%となっている。

図表 1-7 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ



【着目すべきポイント】

- ここでは、要介護度・認知症自立度別の「サービス利用の組み合わせ」について、組み合わせのパターンを簡略化した集計分析をしています（図表 1-8、図表 1-9）。
- 具体的には、サービス利用の組み合わせを、「訪問系のみ」のサービス利用と、レスパイト機能をもつ「通所系」および「短期系」のみのサービス利用、さらにその2つを組み合わせた「訪問系を含むサービス利用」の3種類（未利用除く）に分類したものです。
- 組み合わせのパターンが細分化された集計分析（図表 1-6、図表 1-7）と比較して、上記のような視点から、重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化の傾向等を分かりやすく示すことを目的としたものです。
- 前掲の集計分析（図表 1-6、図表 1-7）と同様に、重度化に伴い、どのようなサービス利用の組み合わせが増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような組み合わせのサービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを把握することができます。
- また、中重度の要介護者の増加に伴い、どのような「サービス利用の組み合わせ」のニーズが大きくなると考えられるかを推測することも可能になります。

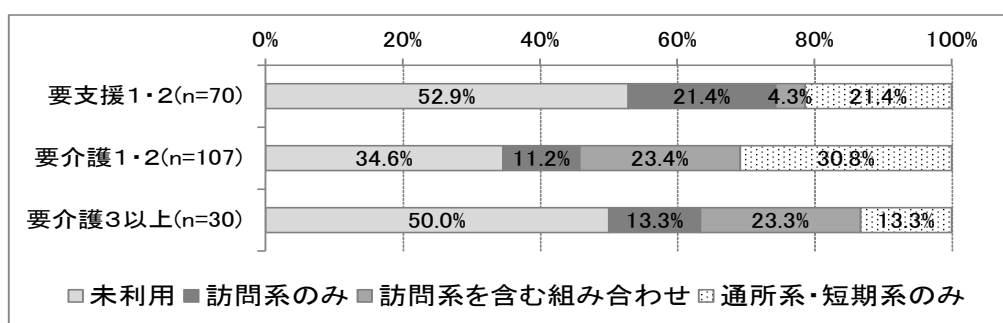
【要介護度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「未利用」が 52.9%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」、「通所系・短期系のみ」が 21.4%、「訪問系を含む組み合わせ」が 4.3%となっている。

「要介護１・２」では「未利用」が 34.6%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が 30.8%、「訪問系を含む組み合わせ」が 23.4%となっている。

「要介護３以上」では「未利用」が 50.0%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が 23.3%、「訪問系のみ」、「通所系・短期系のみ」が 13.3%となっている。

図表 1-8 要介護度別・サービス利用の組み合わせ



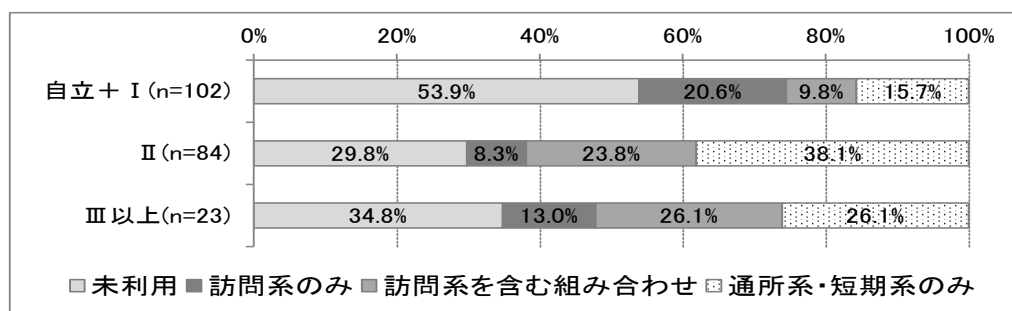
【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「未利用」が 53.9%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が 20.6%、「通所系・短期系のみ」が 15.7%となっている。

「Ⅱ」では「通所系・短期系のみ」が 38.1%と最も割合が高く、次いで「未利用」が 29.8%、「訪問系を含む組み合わせ」が 23.8%となっている。

「Ⅲ以上」では「未利用」が 34.8%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」、「通所系・短期系のみ」が 26.1%、「訪問系のみ」が 13.0%となっている。

図表 1-9 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ



(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係

【着目すべきポイント】

- ここでは、「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係について、集計分析をしています。それぞれ、要介護3以上と要介護4以上、認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「サービス利用の組み合わせ」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。
- 図表1-10～図表1-12は、「サービス利用の組み合わせ」別に「施設等検討の状況」の割合を集計分析したもので、特に「サービス利用の組み合わせ」ごとの「施設等検討の状況」の比較が容易です。
- また、図表1-13～図表1-15は、表側と表頭を逆にして集計したもので、「施設等検討の状況」別の「サービス利用の組み合わせ」をみることができます。これにより、例えば施設等への入所・入居を「検討していない」ケースのような「適切な在宅生活の継続を実現している」と考えられる要介護者について、実際に「どのような組み合わせのサービスを利用しているか」を把握することができます。
- したがって、例えば「検討中」や「申請済み」と比較して、「検討していない」ケースで多くみられるような「サービス利用の組み合わせ」を推進するような支援・サービスの整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

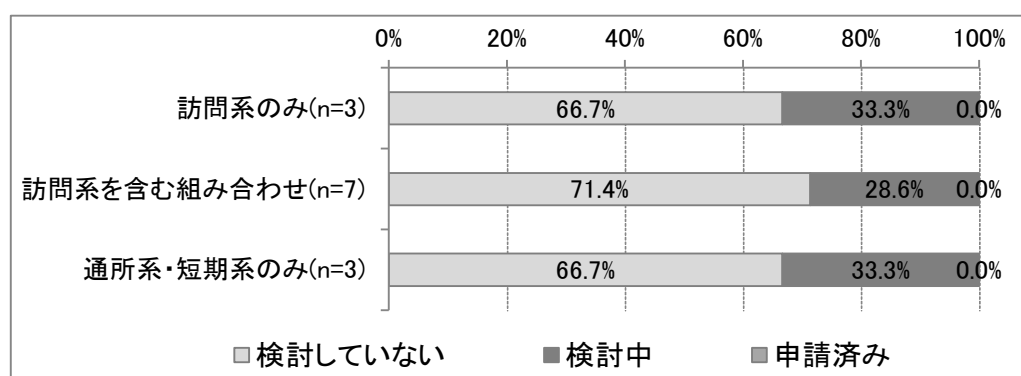
【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護3以上)】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」が66.7%と最も割合が高く、次いで「検討中」が33.3%、「申請済み」が0.0%となっている。

「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が71.4%と最も割合が高く、次いで「検討中」が28.6%、「申請済み」が0.0%となっている。

「通所系・短期系のみ」では「検討していない」が66.7%と最も割合が高く、次いで「検討中」が33.3%、「申請済み」が0.0%となっている。

図表 1-10 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）



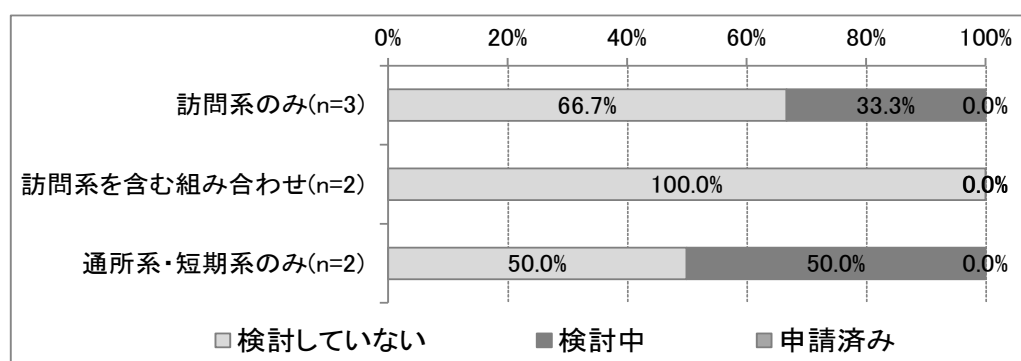
【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護4以上)】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」が66.7%と最も割合が高く、次いで「検討中」が33.3%、「申請済み」が0.0%となっている。

「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が100.0%となっている。

「通所系・短期系のみ」では「検討していない」、「検討中」が50.0%となっている。

図表 1-11 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）



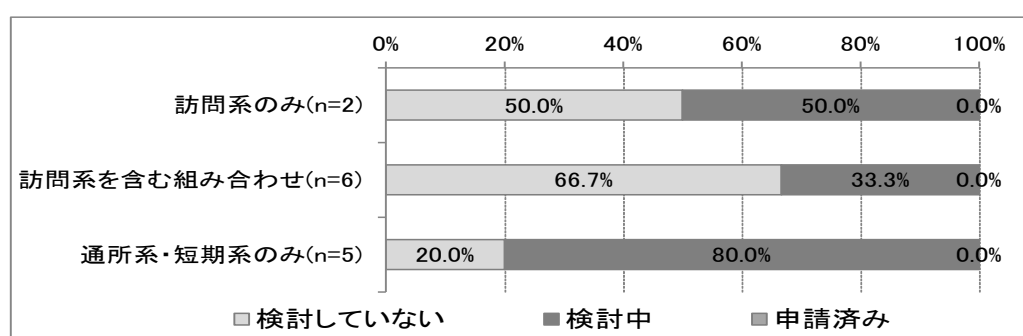
【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(認知症Ⅲ以上)】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」、「検討中」が50.0%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が0.0%となっている。

「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が66.7%と最も割合が高く、次いで「検討中」が33.3%、「申請済み」が0.0%となっている。

「通所系・短期系のみ」では「検討中」が80.0%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が20.0%、「申請済み」が0.0%となっている。

図表 1-12 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）



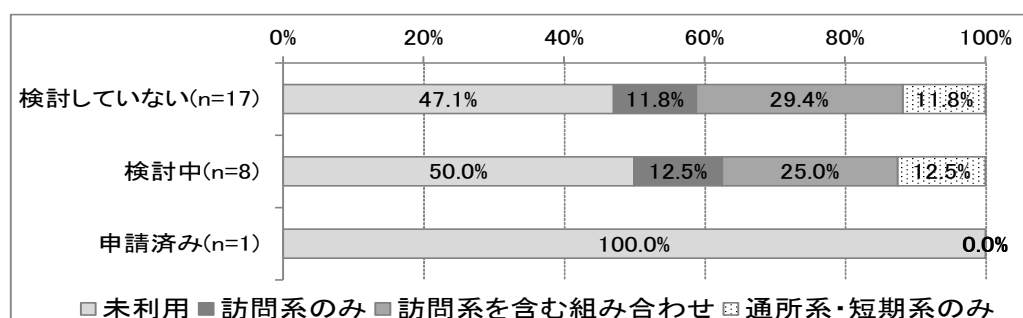
【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護3以上)】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「未利用」が47.1%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が29.4%、「訪問系のみ」、「通所系・短期系のみ」が11.8%となっている。

「検討中」では「未利用」が50.0%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が25.0%、「訪問系のみ」、「通所系・短期系のみ」が12.5%となっている。

「申請済み」では「未利用」が100.0%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」、「訪問系を含む組み合わせ」、「通所系・短期系のみ」が0.0%となっている。

図表 1-13 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）



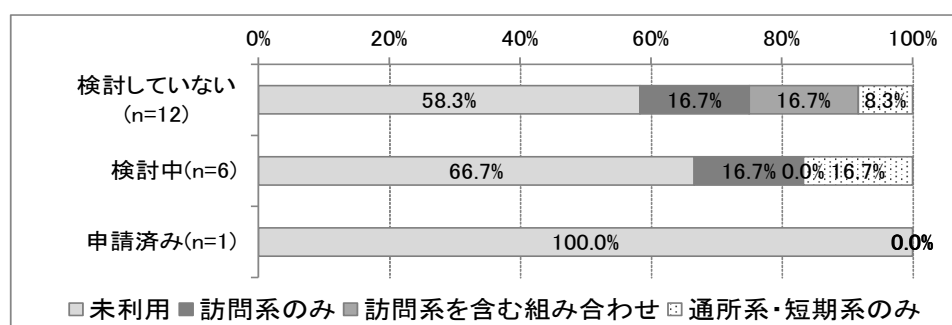
【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護4以上)】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「未利用」が58.3%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」、「訪問系を含む組み合わせ」が16.7%、「通所系・短期系のみ」が8.3%となっている。

「検討中」では「未利用」が66.7%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」、「通所系・短期系のみ」が16.7%、「訪問系を含む組み合わせ」が0.0%となっている。

「申請済み」では「未利用」が100.0%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」、「訪問系を含む組み合わせ」、「通所系・短期系のみ」が0.0%となっている。

図表 1-14 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）



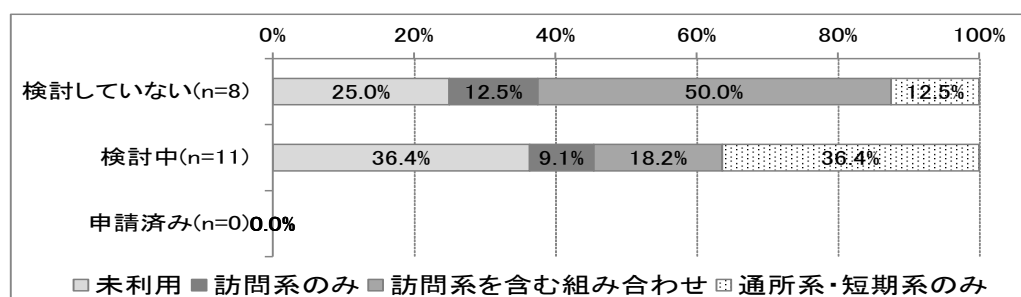
【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(認知症Ⅲ以上)】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「訪問系を含む組み合わせ」が50.0%と最も割合が高く、次いで「未利用」が25.0%、「訪問系のみ」、

「通所系・短期系のみ」が12.5%となっている。「検討中」では「未利用」、「通所系・短期系のみ」が36.4%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が18.2%、「訪問系のみ」が9.1%となっている。

「申請済み」では「未利用」、「訪問系のみ」、「訪問系を含む組み合わせ」、「通所系・短期系のみ」が0.0%と最も割合が高くなっている。

図表 1-15 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）



(5) 「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係

【着目すべきポイント】

- ここでは、「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係について、集計分析をしています（図表 1-16、図表 1-17）。それぞれ、要介護 3 以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「在宅生活の継続に向けてポイントとなる介護（主な介護者の不安が大きな介護 等）」について、「主な介護者が不安に感じる」割合を下げることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の 1 つです。
- ここでは「サービス利用の組み合わせ」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。
- したがって、「主な介護者の不安」が比較的小さくなるような「サービス利用の組み合わせ」を推進するようなサービス整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

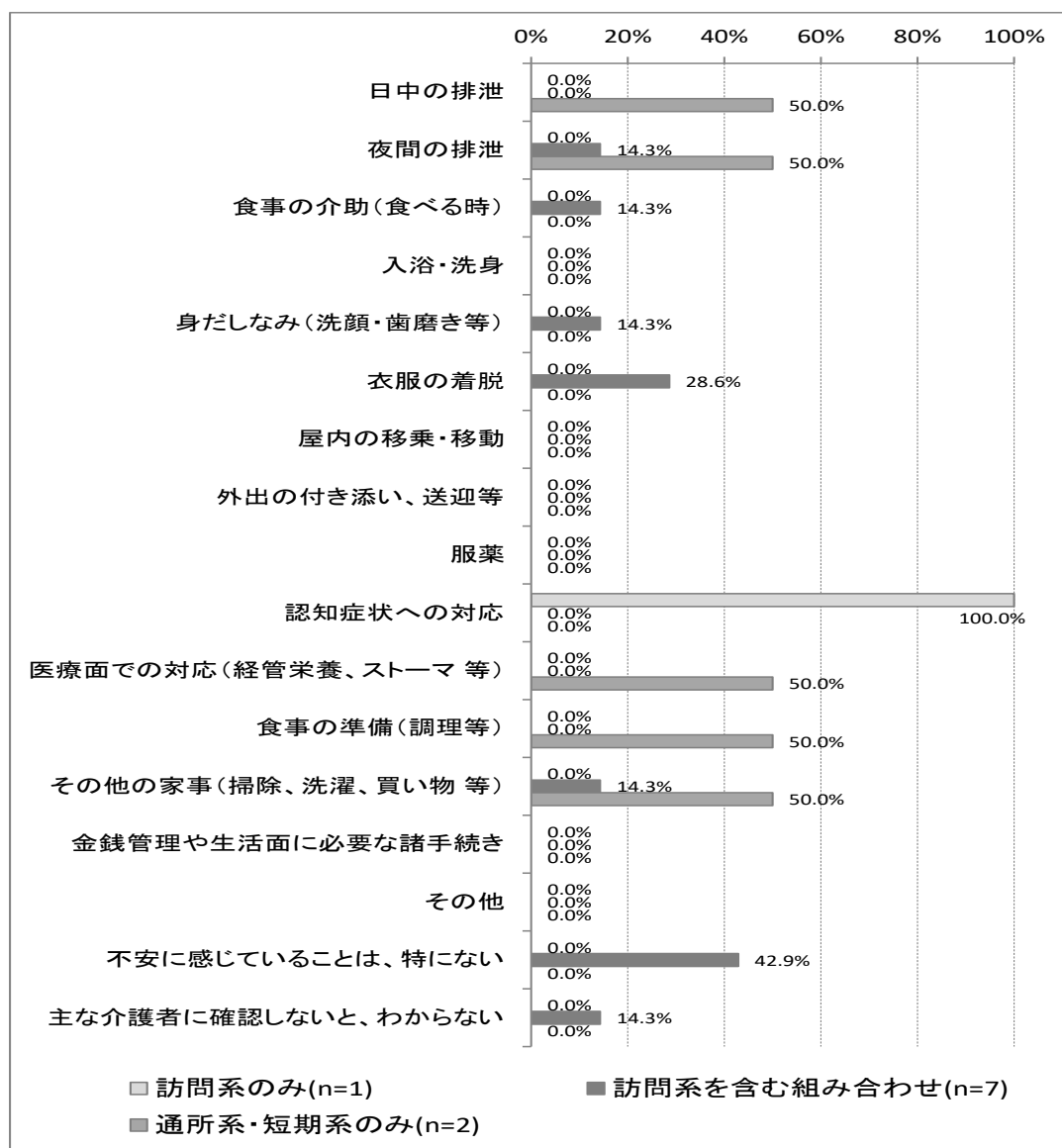
【サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（要介護3以上）】

介護者が不安を感じる介護をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「認知症状への対応」が100.0%と最も割合が高く、その他の項目はすべて0.0%となっている。

「訪問系を含む組み合わせ」では「不安に感じていることは、特にない」が42.9%と最も割合が高く、次いで「衣服の着脱」が28.6%、「夜間の排泄」、「食事の介助（食べる時）」、「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」、「主な介護者に確認しないと、わからない」が14.3%となっている。

「通所系・短期系のみ」では「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ 等）」、「食事の準備（調理等）」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が50.0%と最も割合が高く、その他の項目はすべて0.0%となっている。

図表 1-16 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（要介護3以上）



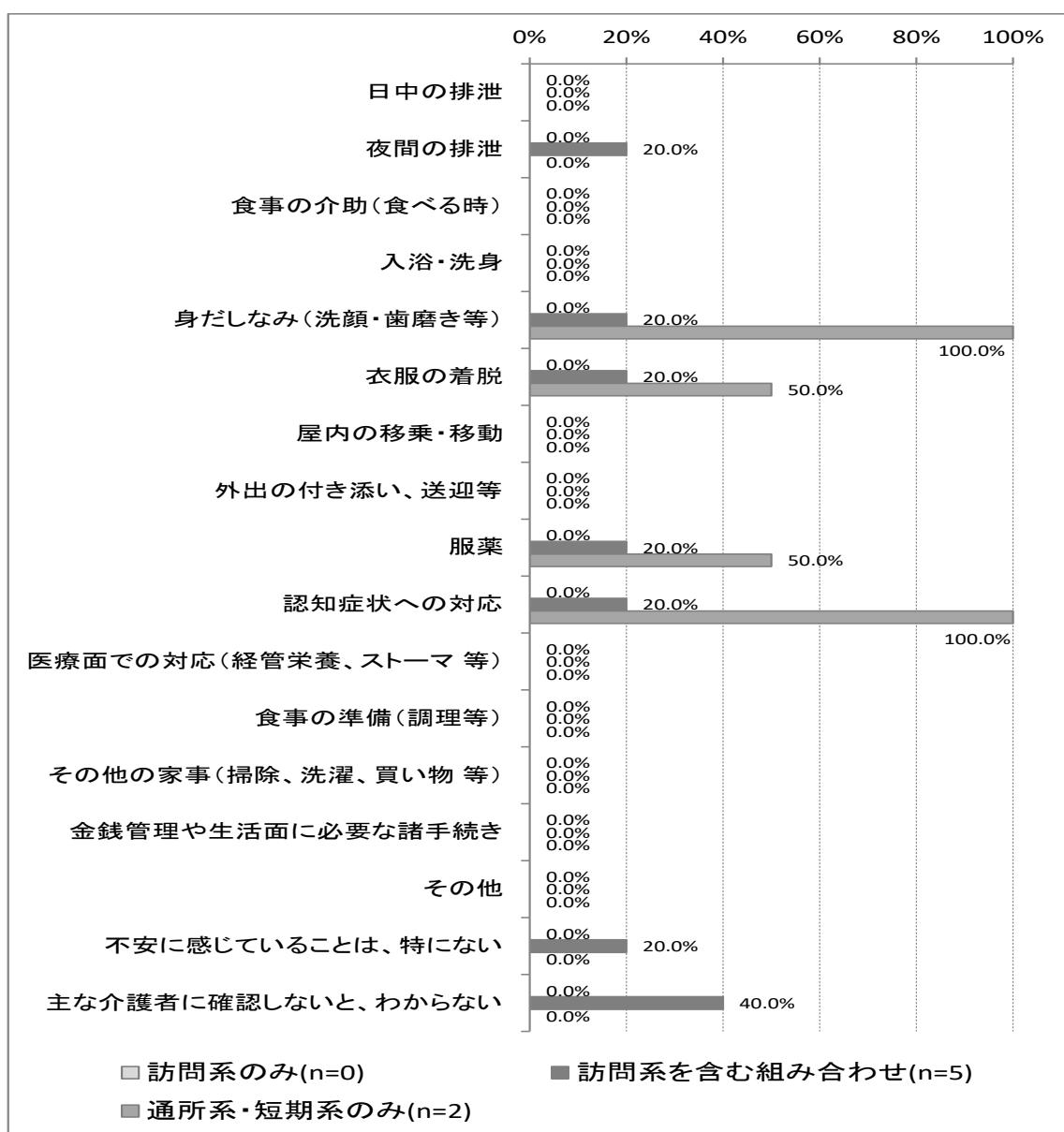
【サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（認知症Ⅲ以上）】

介護者が不安を感じる介護をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」の該当者なし。

「訪問系を含む組み合わせ」では「主な介護者に確認しないと、わからない」が40.0%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」、「衣服の着脱」、「服薬」、「認知症状への対応」、「不安に感じていることは、特にない」が20.0%、その他の項目はすべて0.0%となっている。

「通所系・短期系のみ」では「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」、「認知症状への対応」が100.0%と最も割合が高く、次いで「衣服の着脱」、「服薬」が50.0%、その他の項目はすべて0.0%となっている。

図表 1-17 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（認知症Ⅲ以上）



(6) 「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」の関係

【着目すべきポイント】

- (4)では、「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係を分析しましたが、ここでは「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」について、集計分析を行っています。それぞれ、要介護3以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「サービス利用の回数」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。
- 図表 1-18 と図表 1-19 が訪問系、図表 1-20 と図表 1-21 通所系、図表 1-22 と図表 1-23 が短期系について集計分析した結果です。
- 「サービス利用の回数」の増加に伴い、施設等への入所・入居を「検討していない」割合が高くなるような支援・サービスの整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

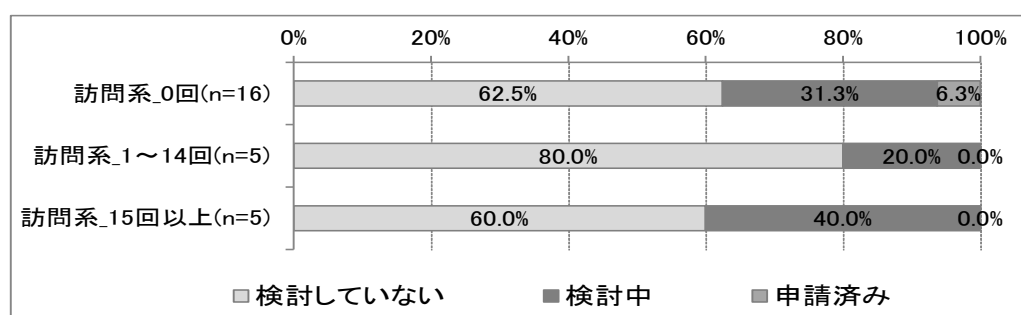
【サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、要介護3以上）】

施設等の検討状況を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「検討していない」が62.5%と最も割合が高く、次いで「検討中」が31.3%、「申請済み」が6.3%となっている。

「訪問系_1～14回」では「検討していない」が80.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が20.0%、「申請済み」が0.0%となっている。

「訪問系_15回以上」では「検討していない」が60.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が40.0%、「申請済み」が0.0%となっている。

図表 1-18 サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、要介護3以上）



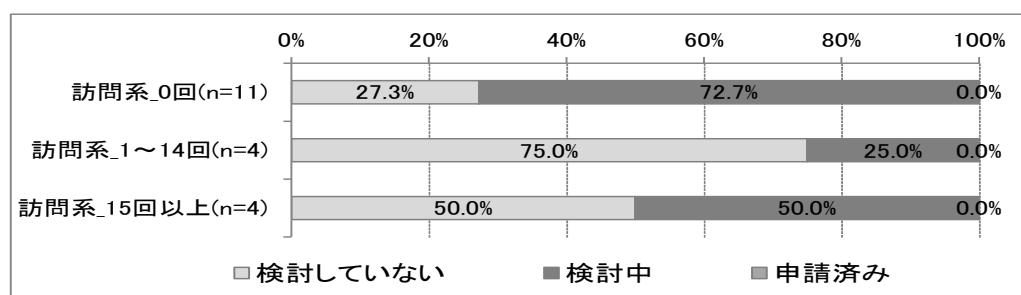
【サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、認知症Ⅲ以上）】

施設等の検討状況を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「検討中」が72.7%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が27.3%、「申請済み」が0.0%となっている。

「訪問系_1～14回」では「検討していない」が75.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が25.0%、「申請済み」が0.0%となっている。

「訪問系_15回以上」では「検討していない」、「検討中」が50.0%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が0.0%となっている。

図表 1-19 サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、認知症Ⅲ以上）



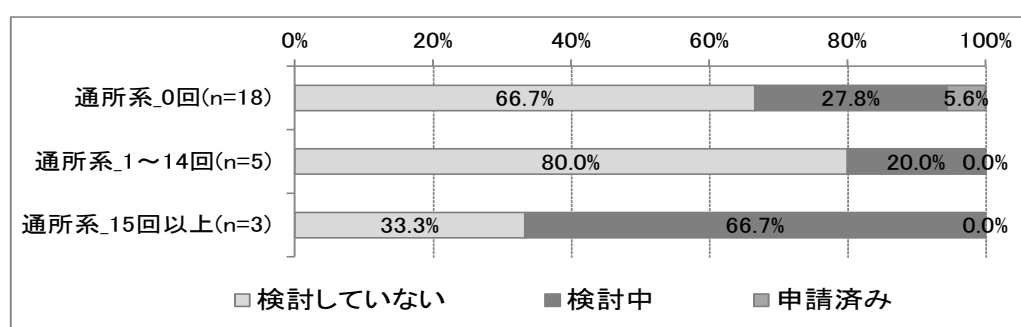
【サービス利用回数と施設等検討の状況(通所系、要介護3以上)】

施設等の検討状況を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「検討していない」が66.7%と最も割合が高く、次いで「検討中」が27.8%、「申請済み」が5.6%となっている。

「通所系_1～14回」では「検討していない」が80.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が20.0%、「申請済み」が0.0%となっている。

「通所系_15回以上」では「検討中」が66.7%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が33.3%、「申請済み」が0.0%となっている。

図表 1-20 サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、要介護3以上）



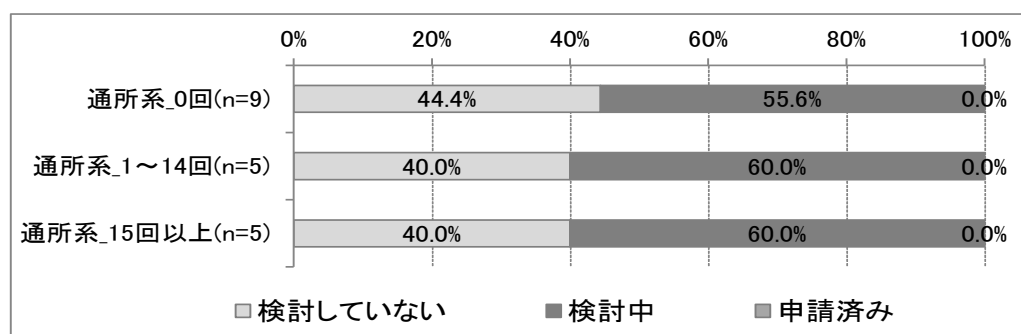
【サービス利用回数と施設等検討の状況(通所系、認知症Ⅲ以上)】

施設等の検討状況を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「検討中」が55.6%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が44.4%、「申請済み」が0.0%となっている。

「通所系_1～14回」では「検討中」が60.0%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が40.0%、「申請済み」が0.0%となっている。

「通所系_15回以上」では「検討中」が60.0%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が40.0%、「申請済み」が0.0%となっている。

図表 1-21 サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、認知症Ⅲ以上）



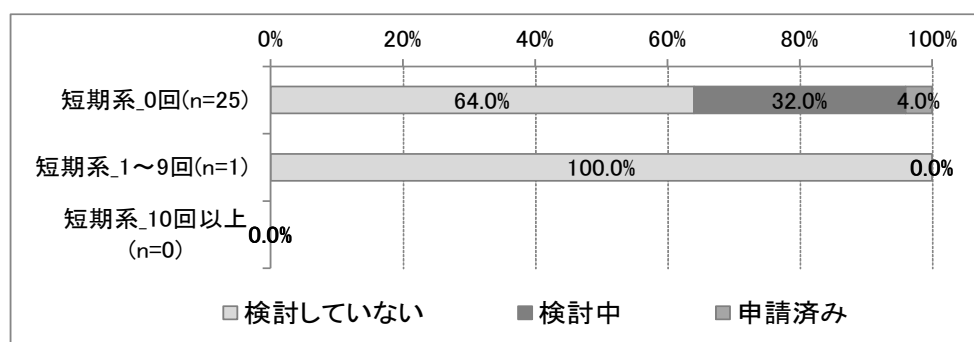
【サービス利用回数と施設等検討の状況(短期系、要介護3以上)】

施設等の検討状況を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0回」では「検討していない」が64.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が32.0%、「申請済み」が4.0%となっている。

「短期系_1～9回」では「検討していない」が100.0%となっている。

「短期系_10回以上」の該当者はなし。

図表 1-22 サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、要介護3以上）

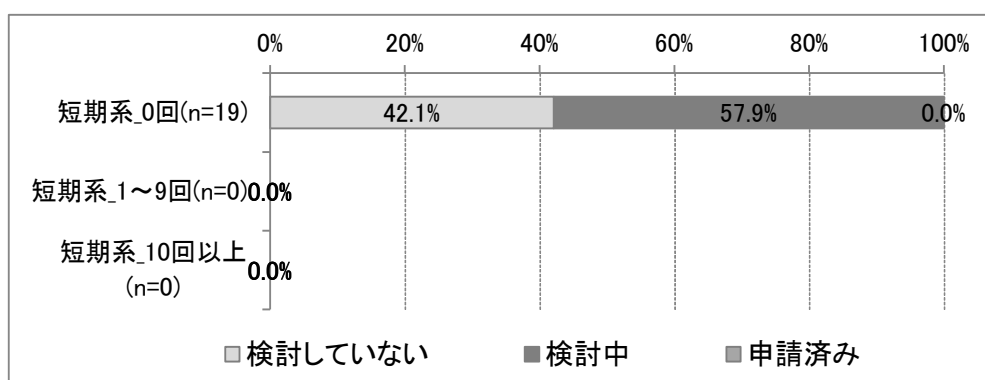


【サービス利用回数と施設等検討の状況(短期系、認知症Ⅲ以上)】

施設等の検討状況を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0回」では「検討中」が57.9%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が42.1%、「申請済み」が0.0%となっている。

「短期系_1～9回」及び「短期系_10回以上」は該当者なし。

図表 1-23 サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、認知症Ⅲ以上）



(7) 「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係

【着目すべきポイント】

- (5)では、「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係を分析しましたが、ここでは「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」について、集計分析を行っています。
- 「在宅生活の継続に向けてポイントとなる介護（主な介護者の不安が大きな介護 等）」について、「主な介護者が不安に感じる」割合を下げることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「サービス利用の回数」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。
- 図表 1-24 と図表 1-25 が訪問系、図表 1-26 と図表 1-27 が通所系、図表 1-28 と図表 1-29 が短期系について集計分析した結果です。それぞれ、要介護3以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「サービス利用の回数」の増加に伴い、「主な介護者が不安に感じる」割合が低くなるような支援・サービスの整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

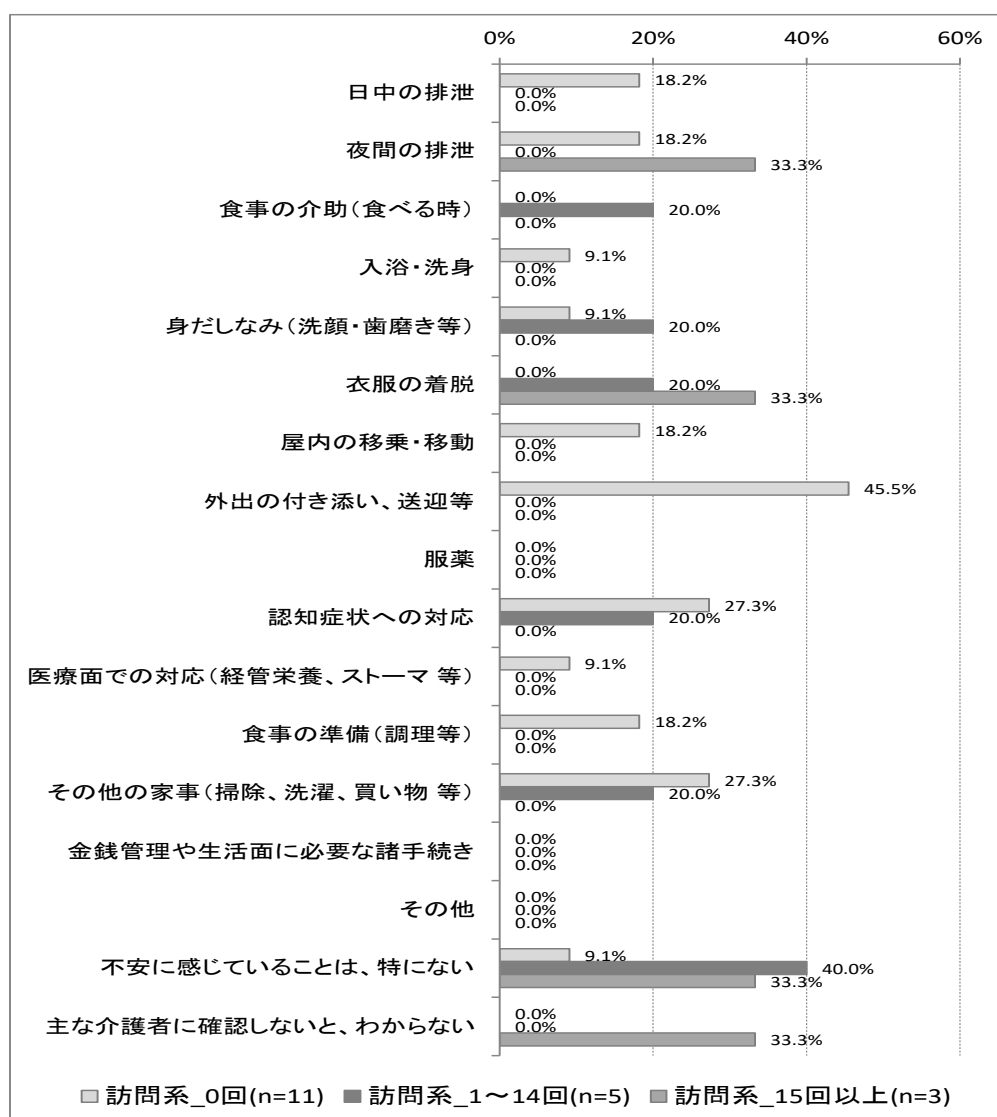
【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、要介護3以上）】

介護者が不安を感じる介護を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「外出の付き添い、送迎等」が45.5%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が27.3%、「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「屋内の移乗・移動」、「食事の準備（調理等）」が18.2%となっている。

「訪問系_1～14回」では「不安に感じていることは、特にない」が40.0%と最も割合が高く、次いで「食事の介助（食べる時）」、「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」、「衣服の着脱」、「認知症状への対応」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が20.0%、その他の項目はすべて0.0%となっている。

「訪問系_15回以上」では「夜間の排泄」、「衣服の着脱」、「不安に感じていることは、特にない」、「主な介護者に確認しないと、わからない」が33.3%と最も割合が高く、その他の項目はすべて0.0%となっている。

図表 1-24 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、要介護3以上）



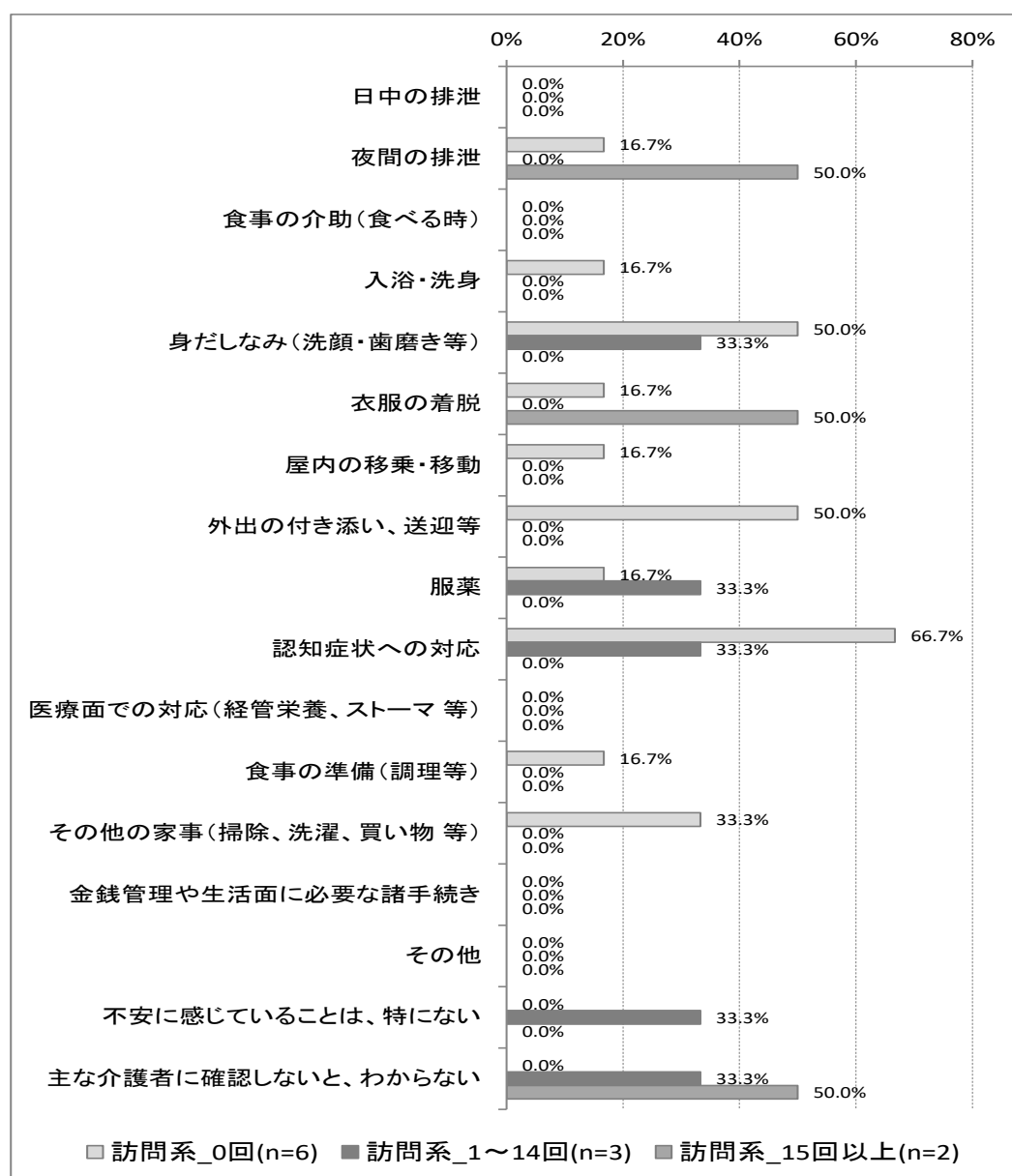
【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、認知症Ⅲ以上）】

介護者が不安を感じる介護を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「認知症状への対応」が66.7%と最も割合が高く、次いで「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」、「外出の付き添い、送迎等」が50.0%、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が33.3%となっている。

「訪問系_1～14回」では、「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」「服薬」「認知症状への対応」「不安に感じていることは、特にない」「主な介護者に確認しないと、わからない」が各33.3%で最も高く、その他の項目はすべて0.0%となっている。

「訪問系_15回以上」では「夜間の排泄」、「衣服の着脱」、「主な介護者に確認しないと、わからない」が50.0%と最も割合が高く、その他の項目はすべて0.0%となっている。

図表 1-25 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、認知症Ⅲ以上）



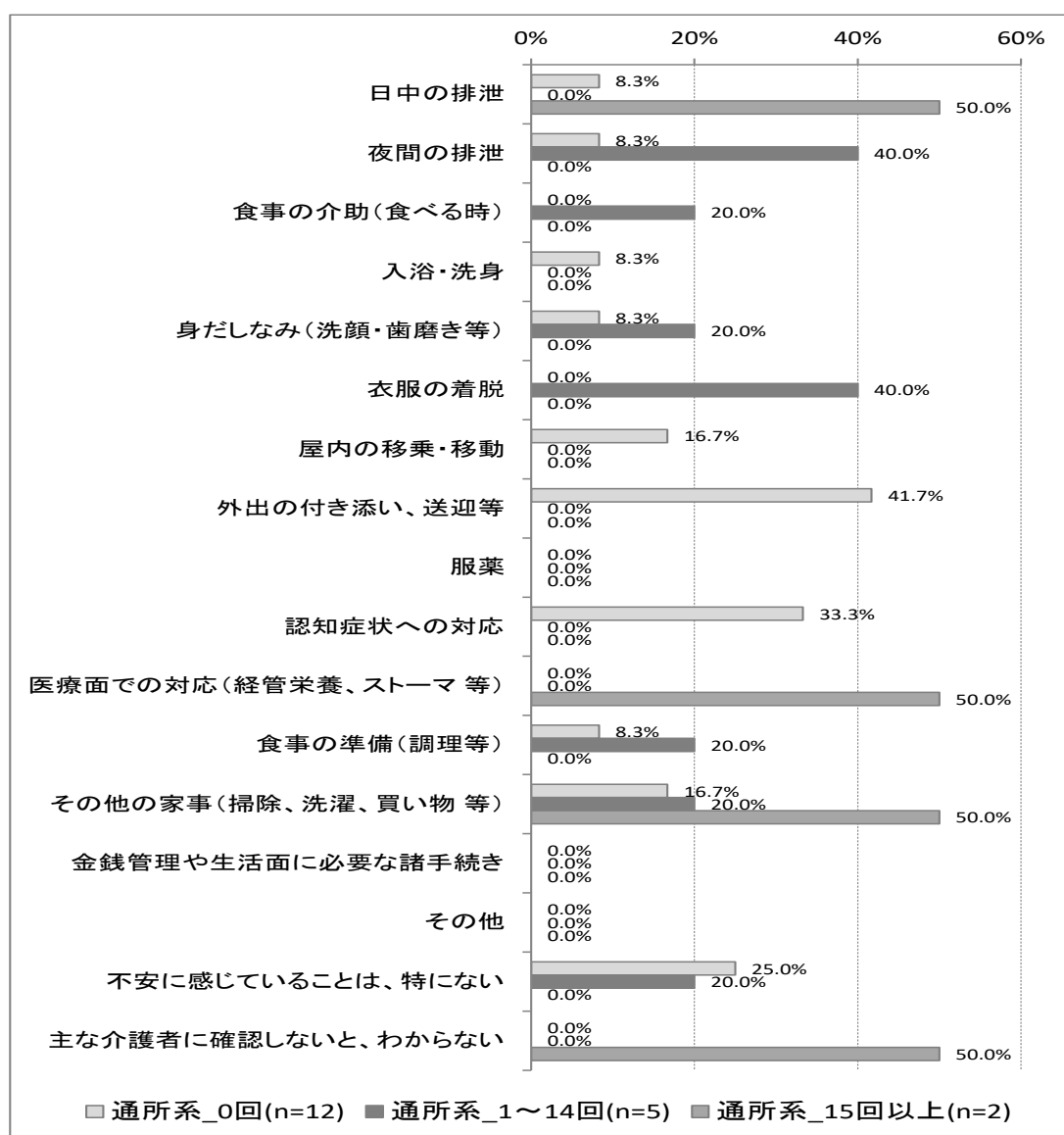
【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、要介護3以上）】

介護者が不安を感じる介護を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「外出の付き添い、送迎等」が41.7%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」が33.3%、「不安に感じていることは、特にない」が25.0%となっている。

「通所系_1～14回」では「夜間の排泄」、「衣服の着脱」が40.0%と最も割合が高く、次いで「食事の介助（食べる時）」、「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」、「食事の準備（調理等）」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」、「不安に感じていることは、特にない」が20.0%、その他の項目はすべて0.0%となっている。

「通所系_15回以上」では「日中の排泄」、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」、「主な介護者に確認しないと、わからない」が50.0%と最も割合が高く、その他の項目はすべて0.0%となっている。

図表 1-26 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、要介護3以上）



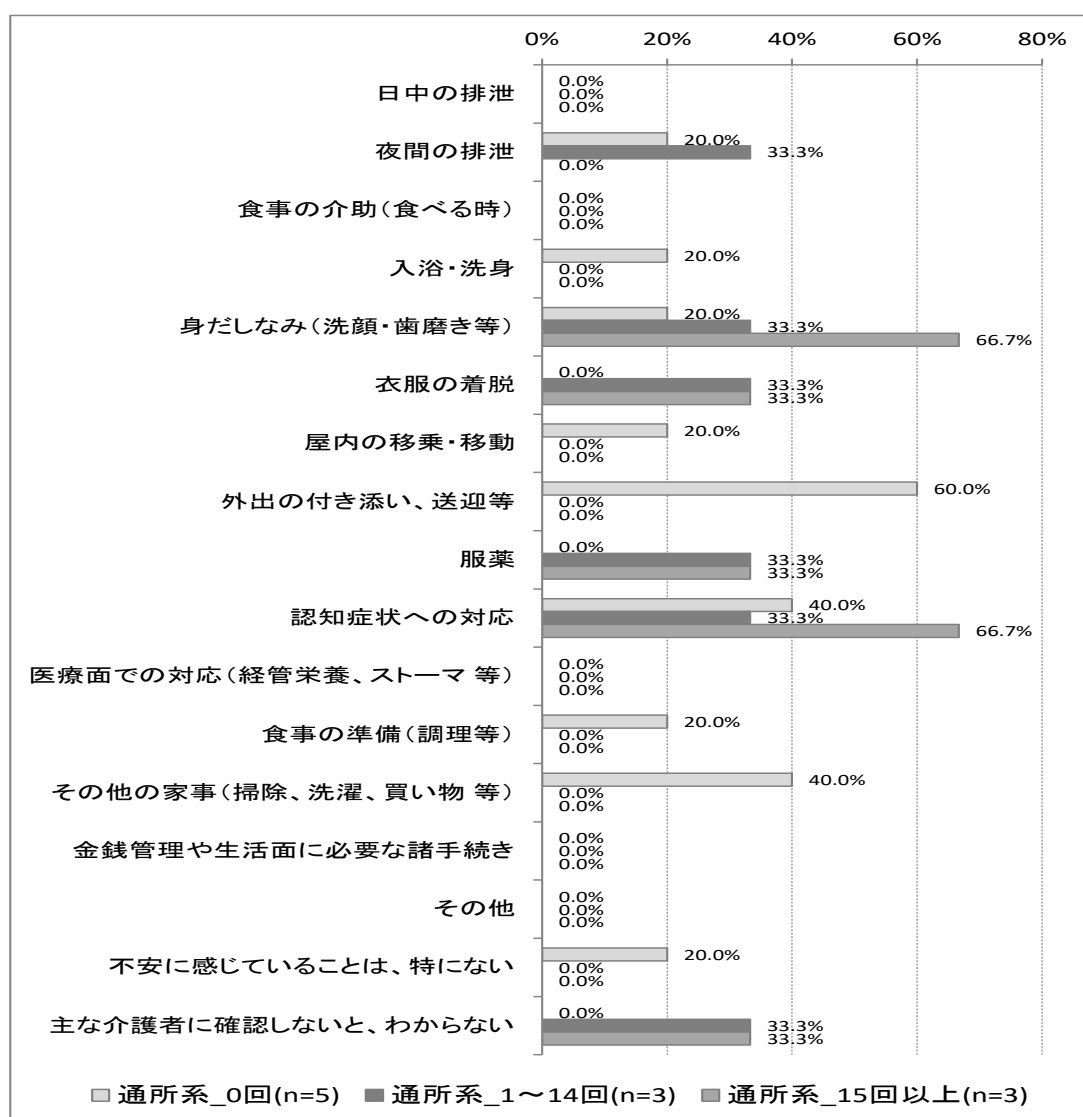
【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、認知症Ⅲ以上）】

介護者が不安を感じる介護を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「外出の付き添い、送迎等」が60.0%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が40.0%、「夜間の排泄」、「入浴・洗身」、「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」、「屋内の移乗・移動」、「食事の準備（調理等）」、「不安に感じていることは、特にない」が20.0%となっている。

「通所系_1～14回」では「夜間の排泄」、「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」、「衣服の着脱」、「服薬」、「認知症状への対応」、「主な介護者に確認しないと、わからない」が33.3%と最も割合が高く、その他の項目はすべて0.0%となっている。

「通所系_15回以上」では「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」、「認知症状への対応」が66.7%と最も割合が高く、次いで「衣服の着脱」、「服薬」、「主な介護者に確認しないと、わからない」が33.3%、その他の項目はすべて0.0%となっている。

図表 1-27 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、認知症Ⅲ以上）



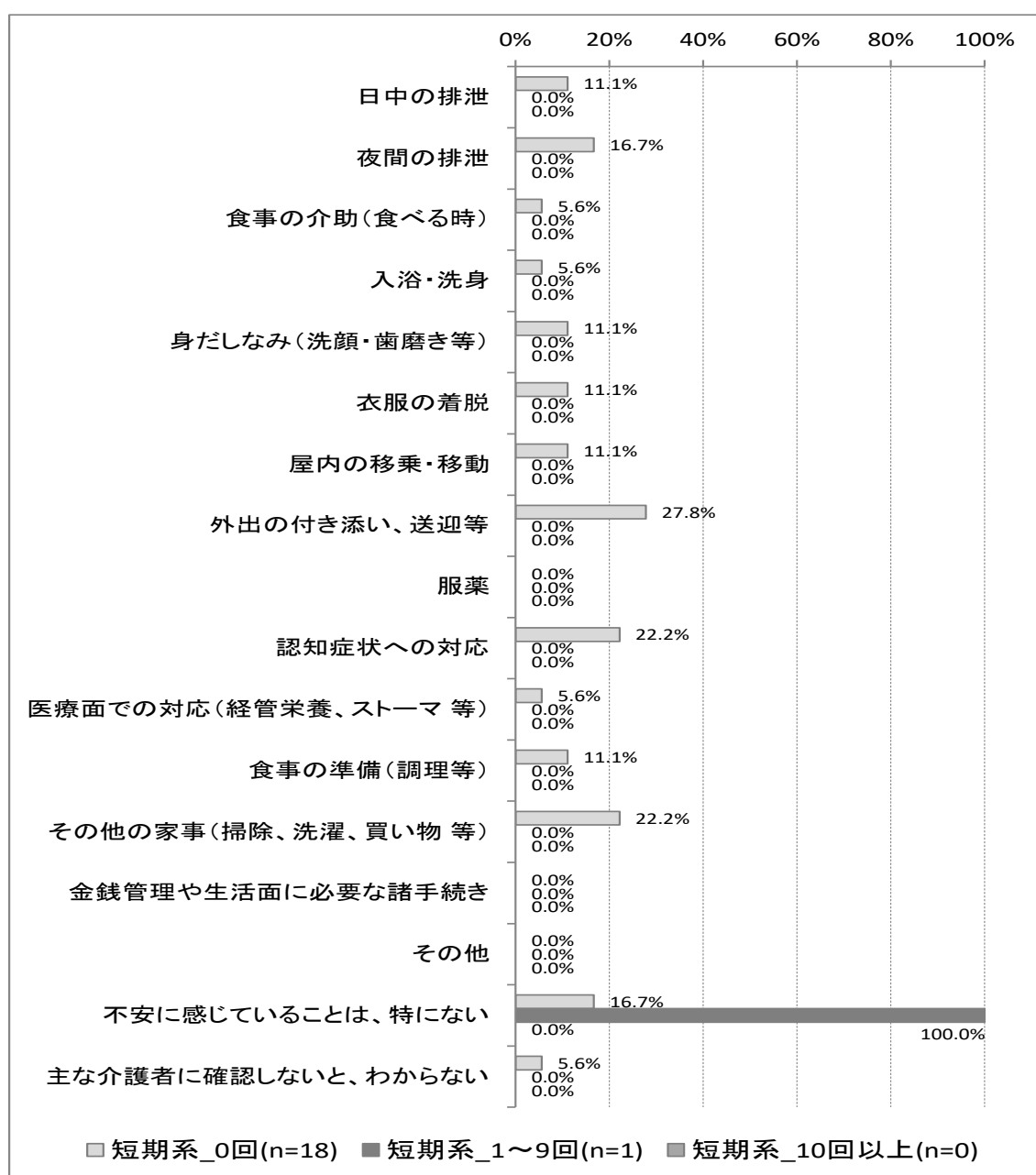
【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(短期系、要介護3以上)】

介護者が不安を感じる介護を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0回」では「外出の付き添い、送迎等」が27.8%ともっとも割合が高く、次いで「認知症状への対応」、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」が22.2%、「夜間の排泄」、「不安に感じていることは、特にない」が16.7%となっている。

「短期系_1～9回」では「不安に感じていることは、特にない」が100.0%ともっとも割合が高く、その他の項目はすべて0.0%となっている。

「短期系_10回以上」は該当者なし。

図表 1-28 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(短期系、要介護3以上)

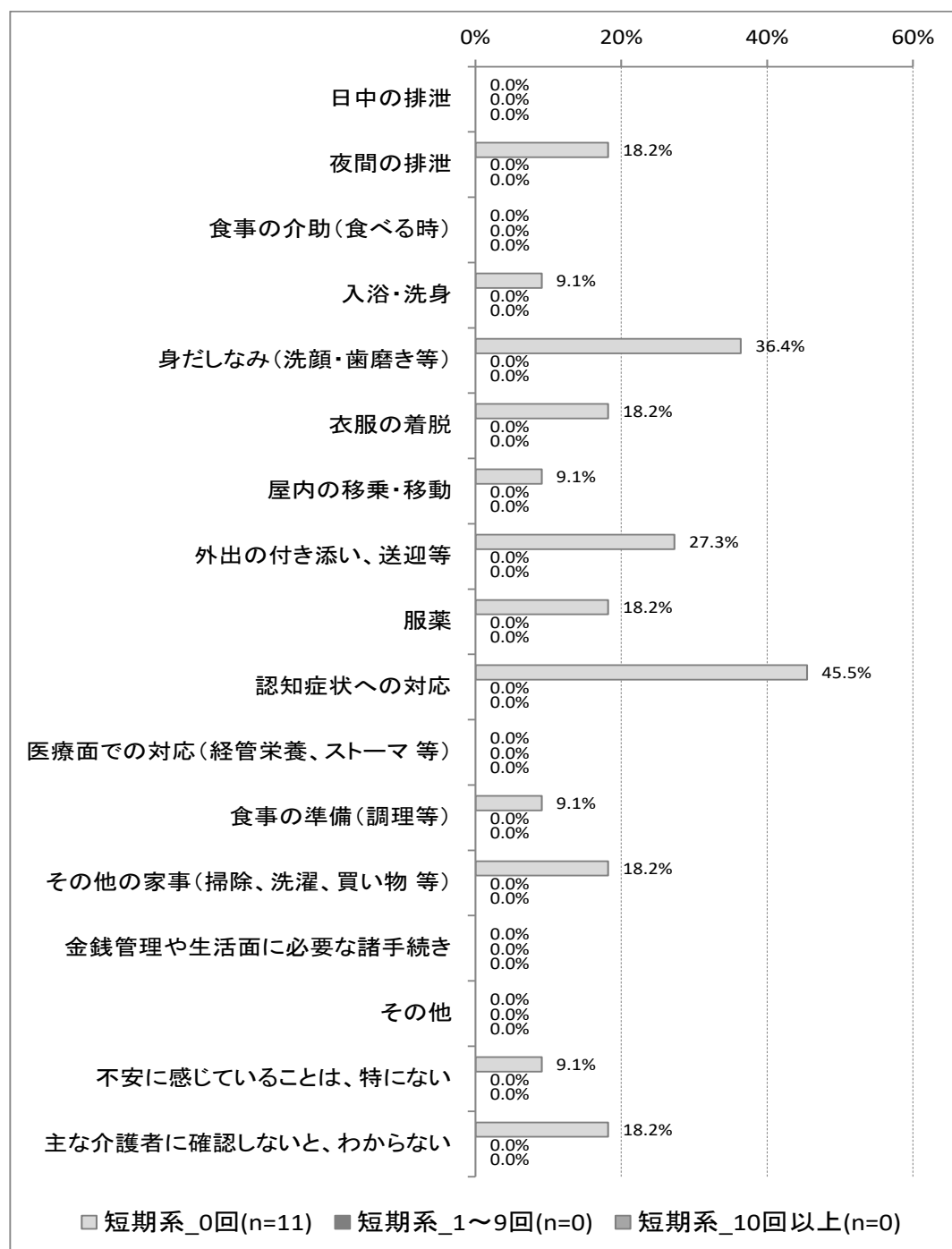


【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、認知症Ⅲ以上）】

介護者が不安を感じる介護を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0回」では「認知症状への対応」が45.5%と最も割合が高く、次いで「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」が36.4%、「外出の付き添い、送迎等」が27.3%となっている。

「短期系_1～9回」及び「短期系_10回以上」は該当者なし

図表 1-29 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、認知症Ⅲ以上）



1.3 考察

施設入所を検討していない人が全体の多数を占める一方で、要介護度や認知症自立度が高まるにつれて「検討中」の割合が上昇しており、在宅生活の継続には状態の重度化に応じた支援が必要であることが分かります。特に、認知症状への対応、夜間の排泄、外出の付き添いなどは、介護者の不安が大きい項目として共通しており、こうした不安を軽減できる支援体制の整備が在宅限界点の向上に直結すると考えられます。また、石狩市は南北に広い市域を有し、地域によって生活環境や移動条件が異なるため、本人の状態だけでなく、地域ごとのサービスアクセスや降雪時の移動負担も踏まえた支援が求められます。

サービス利用の組み合わせをみると、要介護度や認知症自立度の上昇に伴い、通所系・短期系のみの利用から、訪問系を含む組み合わせへと比重が移る傾向がみられました。特に要介護4以上では、訪問系を含む組み合わせのもとで「施設等を検討していない」割合が高く、在宅生活を支えるうえで訪問系サービスの役割が大きいと考えられます。一方、認知症自立度Ⅲ以上では、通所系・短期系のみの利用で施設検討割合が高く、認知症対応では通所・短期利用だけでは在宅継続を支えきれない場面があると考えられます。

保険外サービスの利用は全体として低い一方で、移送サービス、外出の付き添い、配食、見守り等に対する潜在的なニーズが確認されています。特に厚田、浜益においては外出の付き添い、送迎等を高い割合で介護者が行っている状況です。今後、単身世帯や高齢夫婦世帯の増加に伴い、介護保険サービスだけでは補いきれない生活課題への対応が必要となってくることから、地域包括支援センターや生活支援コーディネーターを核に、地域住民、民間事業者、関係団体等と連携しながら、地域特性に応じて計画的に対応していくことが重要です。

要介護度の上昇に伴い訪問診療の利用割合が高まっており、医療ニーズの高い在宅療養者を地域で支える体制整備が必要です。在宅医療や介護サービスを必要とする高齢者に対し、地域差を踏まえた切れ目のない支援体制を確保することが求められます。今後は、訪問診療、訪問看護、訪問介護、短期入所等が相互に連携し、急変時にも対応可能な在宅療養支援体制を構築することが必要と考えます。

2 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

2.1 集計・分析の狙い

- ここでは、介護者の就労継続見込みの向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「主な介護者の就労状況」と「主な介護者の就労継続見込み」の2つの視点からの集計を行っています。
- 具体的には、「就労している介護者（フルタイム勤務、パートタイム勤務）」と「就労していない介護者」の違いに着目し、就労している介護者の属性や介護状況の特徴別に、必要な支援を集計・分析しています。
- さらに、「どのようなサービス利用」や「働き方の調整・職場の支援」を受けている場合に、「就労を継続することができる」という見込みを持つことができるのかを分析するために、主な介護者の「就労継続見込み」と、「主な介護者が行っている介護」や「介護保険サービスの利用の有無」、「介護のための働き方の調整」などとのクロス集計を行っています。
- 上記の視点からの分析では、要介護度や認知症高齢者の日常生活自立度といった要介護者の状態別の分析も加え、要介護者の自立度が重くなっても、在宅生活や就労を継続できる支援のあり方を検討しています。

2.2 集計結果と着目すべきポイント

(1) 基本集計

- 主な介護者の就労状況（フルタイム勤務・パートタイム勤務・働いていない）別に、世帯や介護者の特徴などの基礎的な集計を行っています。
- 主な介護者の属性や、要介護者の要介護度・認知症自立度について、就労状況別にその状況を確認してください。

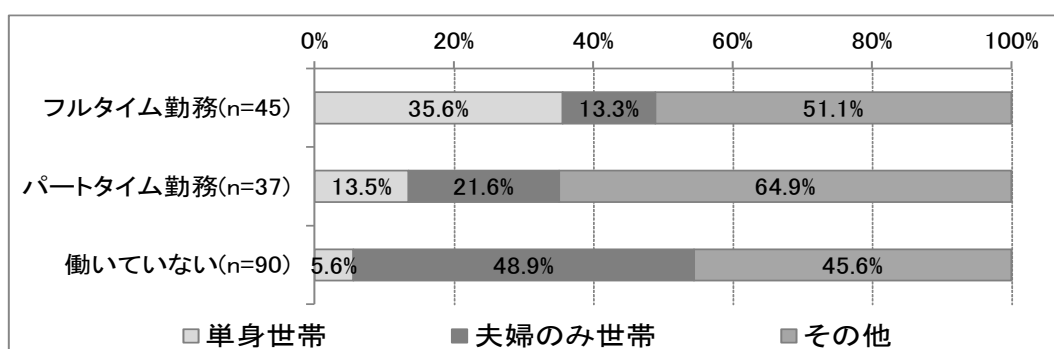
【就労状況別・世帯類型】

世帯類型を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「その他」が51.1%と最も割合が高く、次いで「単身世帯」が35.6%、「夫婦のみ世帯」が13.3%となっている。

「パートタイム勤務」では「その他」が64.9%と最も割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」が21.6%、「単身世帯」が13.5%となっている。

「働いていない」では「夫婦のみ世帯」が48.9%と最も割合が高く、次いで「その他」が45.6%、「単身世帯」が5.6%となっている。

図表 2-1 就労状況別・世帯類型<***>



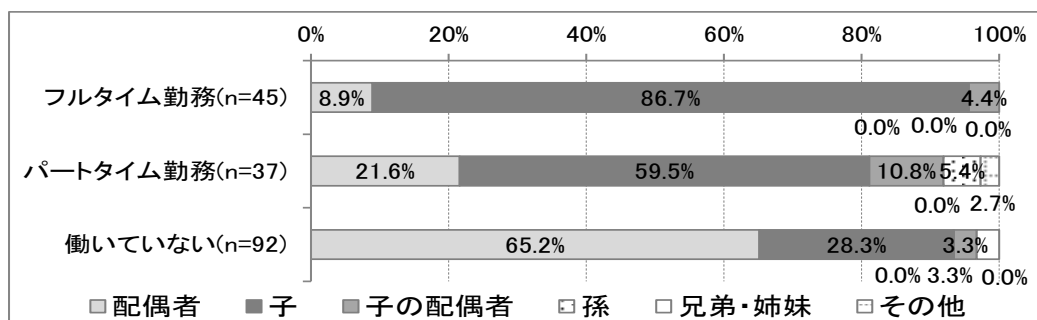
【就労状況別・★主な介護者の本人との関係】

主な介護者を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「子」が86.7%と最も割合が高く、次いで「配偶者」が8.9%、「子の配偶者」が4.4%となっている。

「パートタイム勤務」では「子」が59.5%と最も割合が高く、次いで「配偶者」が21.6%、「子の配偶者」が10.8%となっている。

「働いていない」では「配偶者」が65.2%と最も割合が高く、次いで「子」が28.3%、「子の配偶者」が3.3%となっている。

図表 2-2 就労状況別・★主な介護者の本人との関係<***>



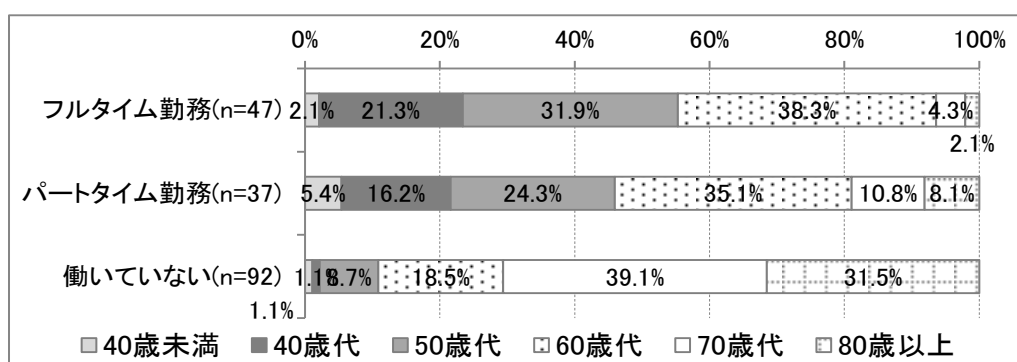
【就労状況別・主な介護者の年齢】

介護者の年齢を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「60 歳代」が 38.3%と最も割合が高く、次いで「50 歳代」が 31.9%、「40 歳代」が 21.3%となっている。

「パートタイム勤務」では「60 歳代」が 35.1%と最も割合が高く、次いで「50 歳代」が 24.3%、「40 歳代」が 16.2%となっている。

「働いていない」では「70 歳代」が 39.1%と最も割合が高く、次いで「80 歳以上」が 31.5%、「60 歳代」が 18.5%となっている。

図表 2-3 就労状況別・主な介護者の年齢



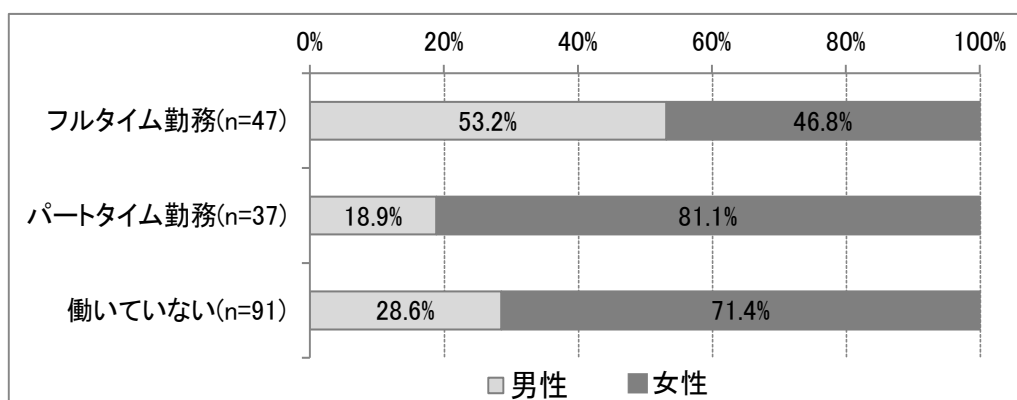
【就労状況別・主な介護者の性別】

介護者の性別を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「男性」が 53.2%と最も割合が高く、次いで「女性」が 46.8%となっている。

「パートタイム勤務」では「女性」が 81.1%と最も割合が高く、次いで「男性」が 18.9%となっている。

「働いていない」では「女性」が 71.4%と最も割合が高く、次いで「男性」が 28.6%となっている。

図表 2-4 就労状況別・主な介護者の性別<**>



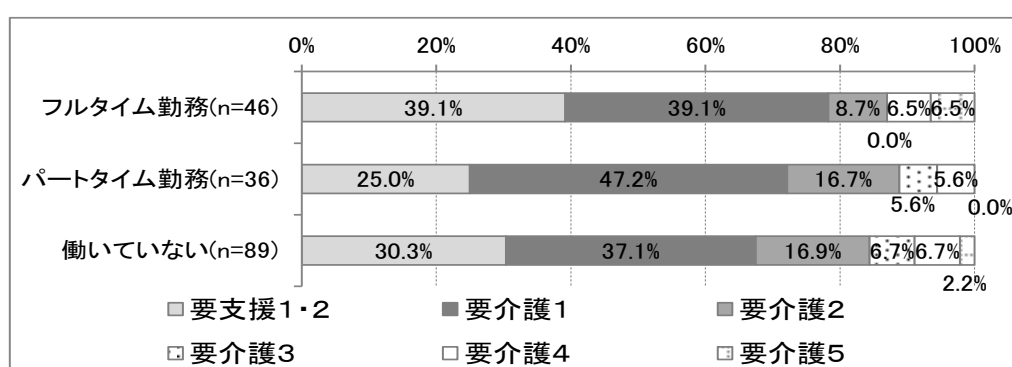
【就労状況別・要介護度】

二次判定結果を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「要支援１・２」、「要介護１」が 39.1% ともっとも割合が高く、次いで「要介護２」が 8.7%、「要介護４」、「要介護５」が 6.5% となっている。

「パートタイム勤務」では「要介護１」が 47.2% ともっとも割合が高く、次いで「要支援１・２」が 25.0%、「要介護２」が 16.7% となっている。

「働いていない」では「要介護１」が 37.1% ともっとも割合が高く、次いで「要支援１・２」が 30.3%、「要介護２」が 16.9% となっている。

図表 2-5 就労状況別・要介護度



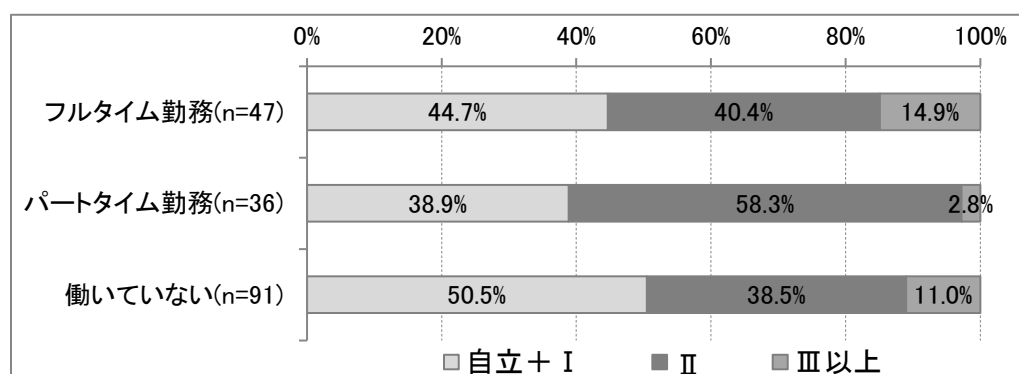
【就労状況別・認知症自立度】

認知症高齢者自立度を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「自立＋Ⅰ」が 44.7% ともっとも割合が高く、「Ⅱ」が 40.4%、「Ⅲ以上」が 14.9% となっている。

「パートタイム勤務」では「Ⅱ」が 58.3% ともっとも割合が高く、次いで「自立＋Ⅰ」が 38.9%、「Ⅲ以上」が 2.8% となっている。

「働いていない」では「自立＋Ⅰ」が 50.5% ともっとも割合が高く、次いで「Ⅱ」が 38.5%、「Ⅲ以上」が 11.0% となっている。

図表 2-6 就労状況別・認知症自立度



(2) 就労状況別の、主な介護者が行っている介護と就労継続見込み

【着目すべきポイント】

- ここでは、「主な介護者が行っている介護」と「今後の就労継続見込み」について、主な介護者の就労状況別に集計分析をしています（図表 2-8、図表 2-9）。
- 「主な介護者が行っている介護」について、例えば、「働いていない」人と比較して、「フルタイム勤務」や「パートタイム勤務」で少ない介護は、働いている介護者が、他の介護者や介護サービスの支援を必要としているものと考えられます。
- 「今後の就労継続見込み」については、「就労状況」との関係に加え、「要介護度」や「認知症自立度」別についても、集計分析を行っています。これにより、要介護者の重度化に伴って就労継続見込みを困難と考える人が増加するかどうかを把握することができます。
- なお、就労継続見込みの分析においては、「問題なく、続けていける」の割合と、「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」をあわせた「続けていける」と考えている人の割合の2つの指標に着目しています（図表 2-10、図表 2-11）。

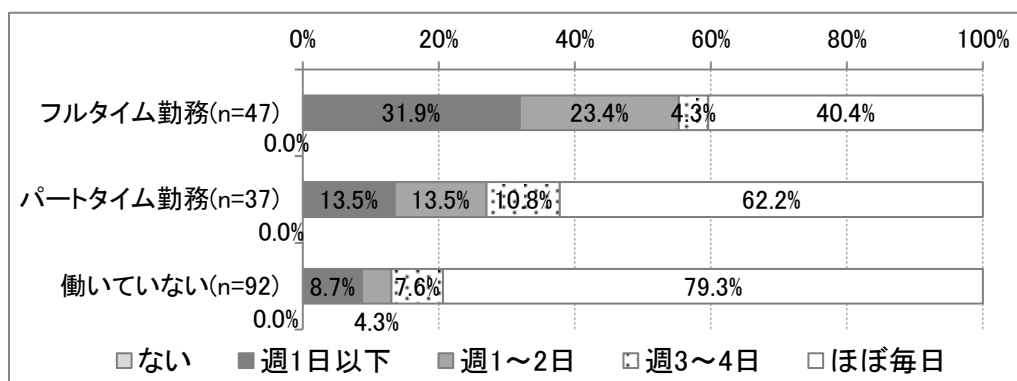
【就労状況別・家族等による介護の頻度】

ご家族等の介護の頻度を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「ほぼ毎日」が40.4%と最も割合が高く、次いで「週1日以下」が31.9%、「週1～2日」が23.4%となっている。

「パートタイム勤務」では「ほぼ毎日」が62.2%と最も割合が高く、次いで「週1日以下」が13.5%、「週3～4日」が10.8%となっている。

「働いていない」では「ほぼ毎日」が79.3%と最も割合が高く、次いで「週1日以下」が8.7%、「週3～4日」が7.6%となっている。

図表 2-7 就労状況別・家族等による介護の頻度<***>



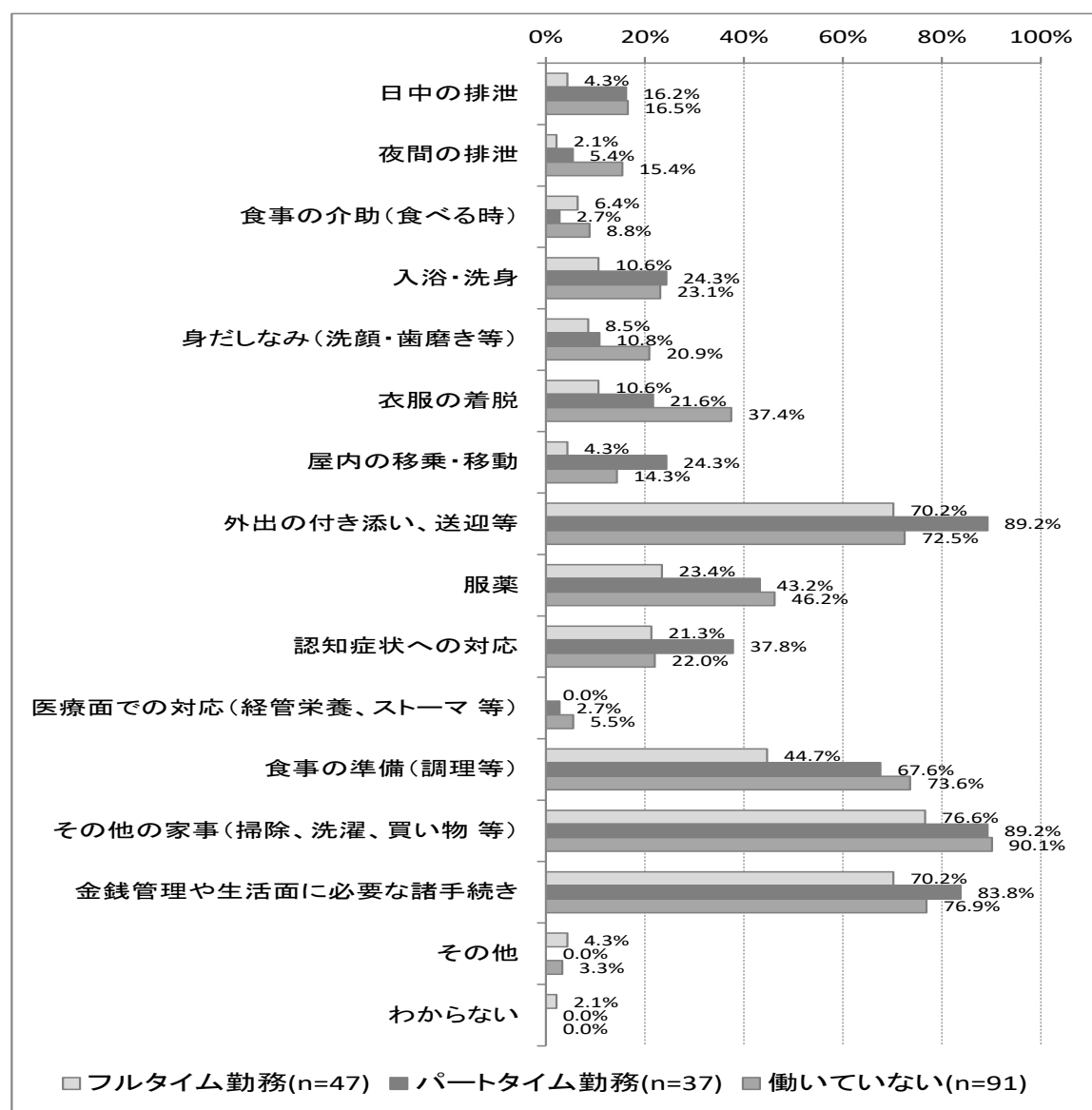
【就労状況別・★主な介護者が行っている介護】

介護者が行っている介護を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が 76.6%と最も割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 70.2%、「食事の準備（調理等）」が 44.7%となっている。

「パートタイム勤務」では「外出の付き添い、送迎等」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が 89.2%と最も割合が高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 83.8%、「食事の準備（調理等）」が 67.6%となっている。

「働いていない」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が 90.1%と最も割合が高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 76.9%、「食事の準備（調理等）」が 73.6%となっている。

図表 2-8 就労状況別・★主な介護者が行っている介護

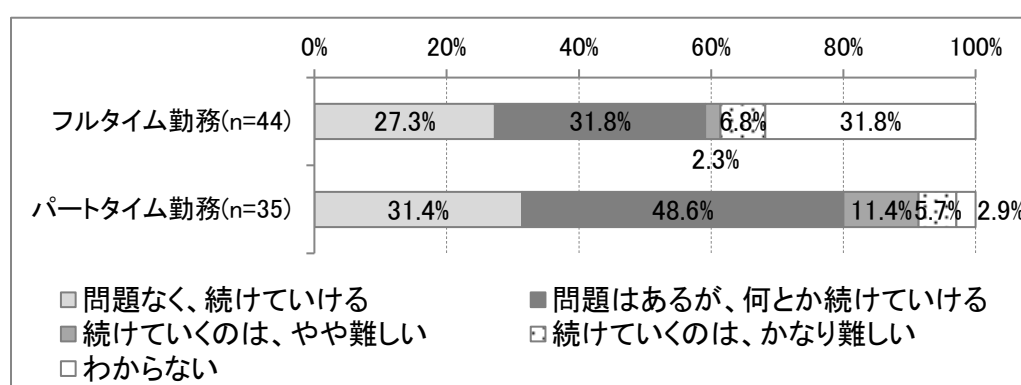


【就労状況別・就労継続見込み】

介護者の就労継続の可否に係る意識を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「問題はあるが、何とか続けていける」、「わからない」が31.8%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が27.3%、「続けていくのは、かなり難しい」が6.8%となっている。

「パートタイム勤務」では「問題はあるが、何とか続けていける」が48.6%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が31.4%、「続けていくのは、やや難しい」が11.4%となっている。

図表 2-9 就労状況別・就労継続見込み

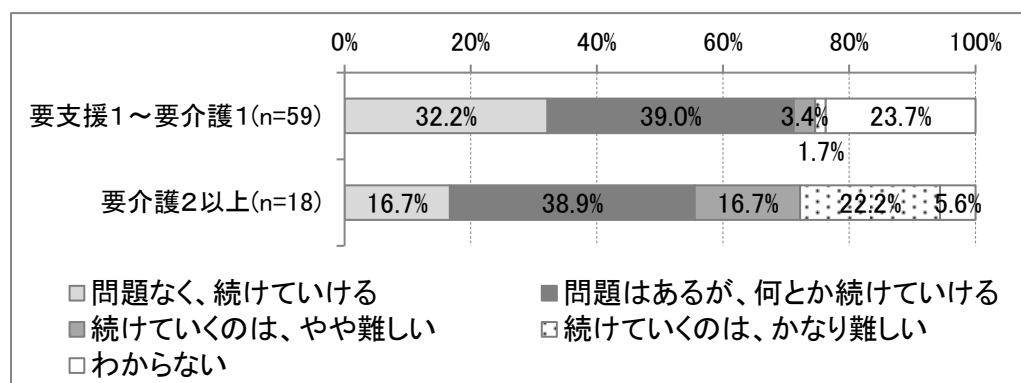


【要介護度別・就労継続見込み(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の就労継続の可否に係る意識を二次判定結果別にみると、「要支援1～要介護1」では「問題はあるが、何とか続けていける」が39.0%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が32.2%、「わからない」が23.7%となっている。

「要介護2以上」では「問題はあるが、何とか続けていける」が38.9%と最も割合が高く、次いで「続けていくのは、かなり難しい」が22.2%、「問題なく、続けていける」、「続けていくのは、やや難しい」が16.7%となっている。

図表 2-10 要介護度別・就労継続見込み(フルタイム勤務+パートタイム勤務) <*>

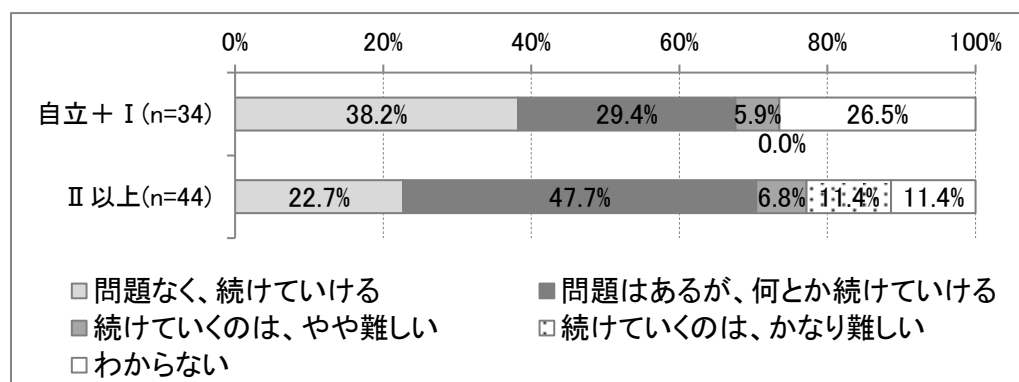


【認知症自立度別・就労継続見込み（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）】

介護者の就労継続の可否に係る意識を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「問題なく、続けていける」が38.2%と最も割合が高く、次いで「問題はあるが、何とか続けていける」が29.4%、「わからない」が26.5%となっている。

「Ⅱ以上」では「問題はあるが、何とか続けていける」が47.7%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が22.7%、「続けていくのは、かなり難しい」、「わからない」が11.4%となっている。

図表 2-11 認知症自立度別・就労継続見込み（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）＜＊＞



(3) 「介護保険サービスの利用状況」・「主な介護者が不安に感じる介護」と「就労継続見込み」の関係

【着目すべきポイント】

- ここでは、「介護保険サービスの利用状況」と「主な介護者が不安に感じる介護」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています（図表 2-12～図表 2-15）。
- 「介護保険サービスの利用状況」と「就労継続見込み」の関係についての集計分析から、サービス利用による就労継続見込みへの影響を把握することができます。さらに、サービスを利用していない人の「サービス未利用の理由」について、就労継続が困難と考える人が、そうでない人と比較して特徴がみられる理由に着目することで、必要なサービス利用がなされているかどうかを推測することができます。
- 例えば、就労継続が困難と考える人において、サービスを「利用していない」割合が高く、かつサービスを利用していない理由として、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が低い割合にとどまっている場合には、サービス利用の必要性が低くないにも関わらず、サービスの利用がなされていないことになります（図表 2-13、図表 2-14）。
- 「主な介護者が不安に感じる介護」については、就労継続見込みの困難化に伴い、どのような介護等で不安が増加しているかに着目することで、在宅生活を継続しながらの就労継続について、介護者がその可否を判断するポイントとなる可能性がある介護等を把握することができます。

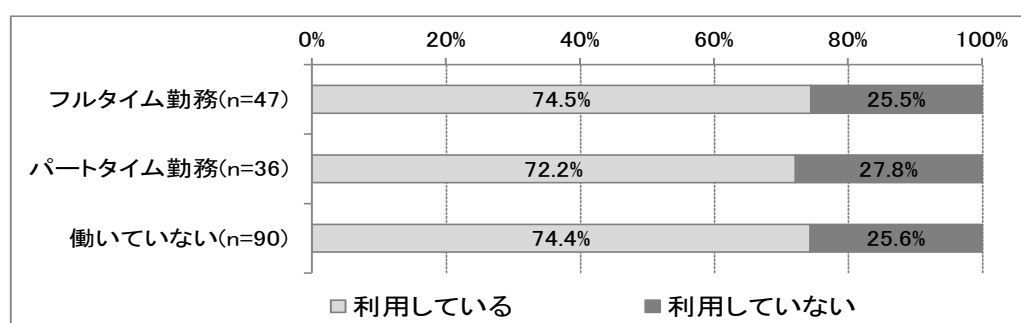
【就労状況別・★介護保険サービス利用の有無】

介護保険サービスの利用の有無を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「利用している」が74.5%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が25.5%となっている。

「パートタイム勤務」では「利用している」が72.2%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が27.8%となっている。

「働いていない」では「利用している」が74.4%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が25.6%となっている。

図表 2-12 就労状況別・★介護保険サービス利用の有無



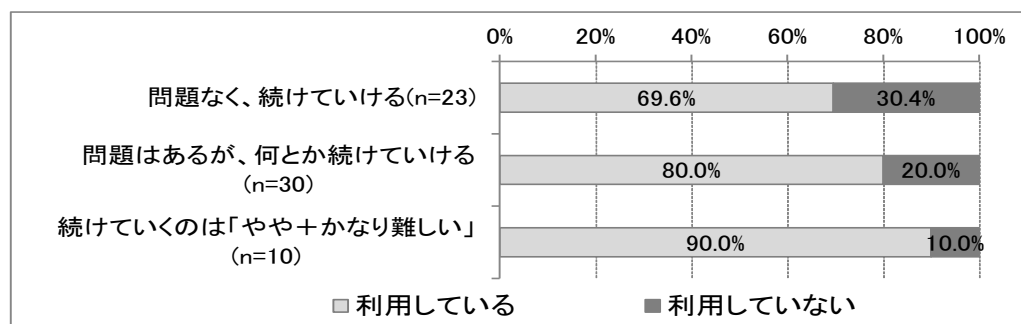
【就労継続見込み別・★介護保険サービス利用の有無(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護保険サービスの利用の有無を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「利用している」が69.6%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が30.4%となっている。

「問題はあるが、何とか続けていける」では「利用している」が80.0%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が20.0%となっている。

「続けていくのは「やや+かなり難しい」では「利用している」が90.0%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が10.0%となっている。

図表 2-13 就労継続見込み別・★介護保険サービス利用の有無(フルタイム勤務+パートタイム勤務)



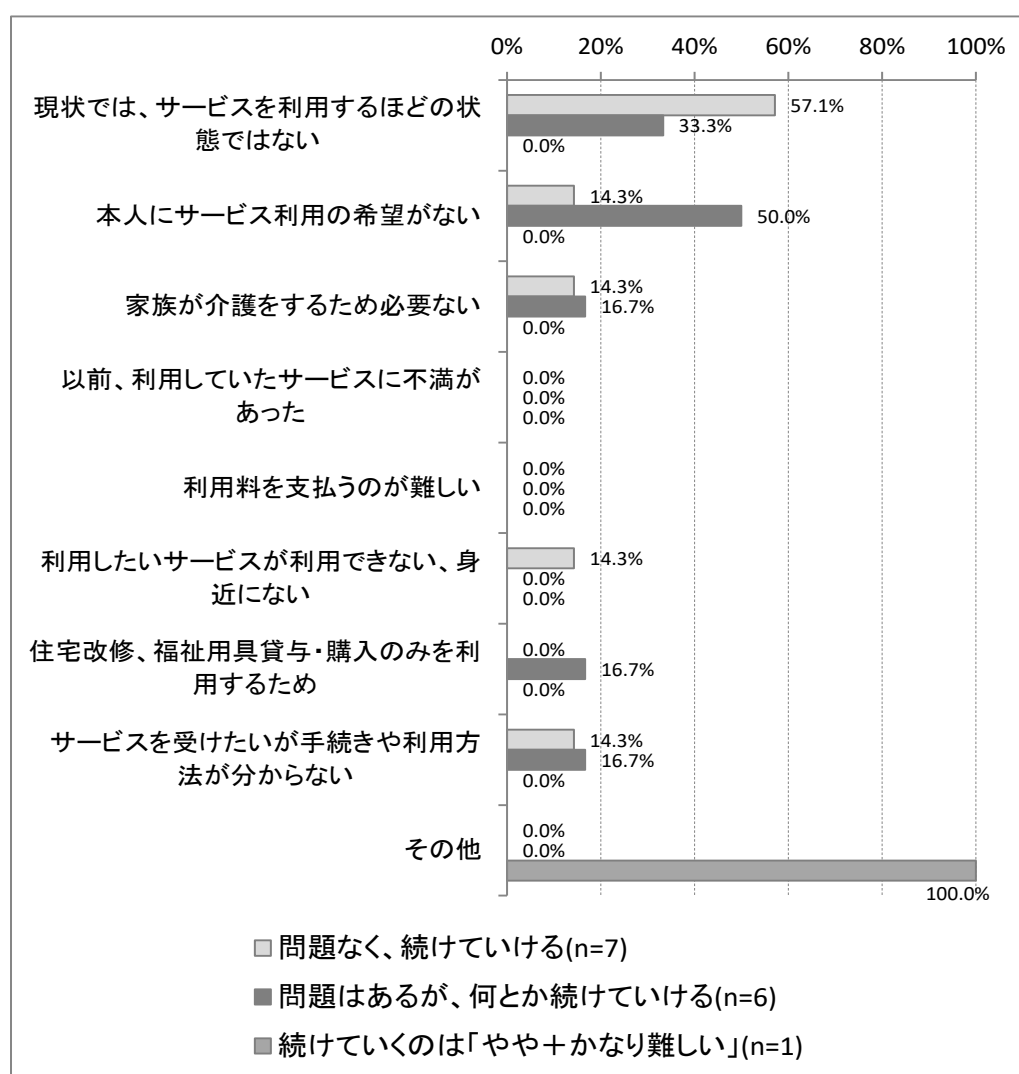
【就労継続見込み別・★サービス未利用の理由(フルタイム勤務+パート勤務)】

未利用の理由を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 57.1%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」、「家族が介護をするため必要ない」、「利用したいサービスが利用できない、身近にない」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が 14.3%、その他の項目はすべて 0.0%となっている。

「問題はあるが、何とか続けていける」では「本人にサービス利用の希望がない」が 50.0%と最も割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 33.3%、「家族が介護をするため必要ない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が 16.7%となっている。

「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「その他」が 100.0%となっている。

図表 2-14 就労継続見込み別・★サービス未利用の理由（フルタイム勤務+パート勤務）



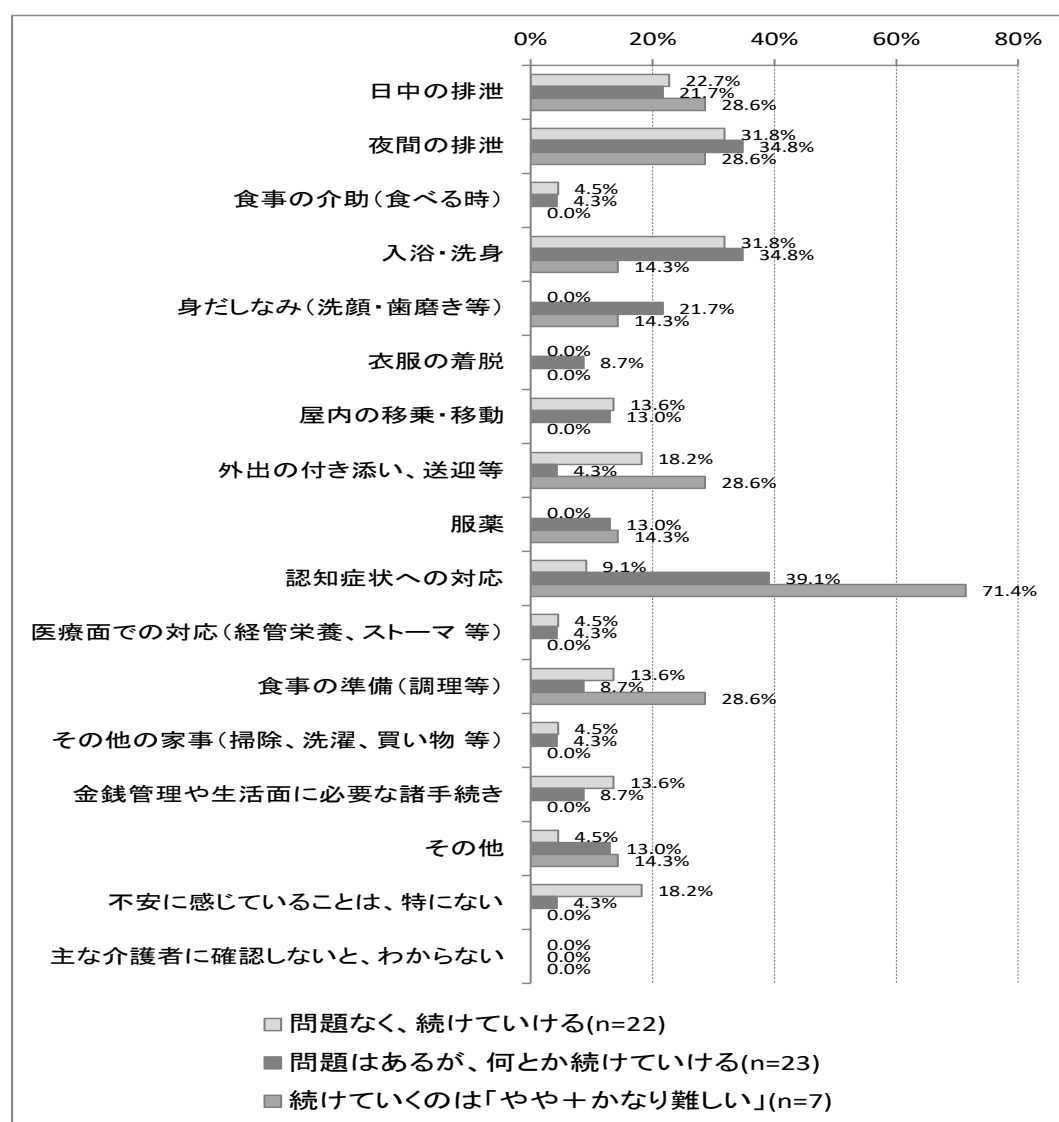
【就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者が不安に感じる介護を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「夜間の排泄」、「入浴・洗身」が31.8%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」が22.7%、「外出の付き添い、送迎等」、「不安に感じていることは、特にない」が18.2%となっている。

「問題はあるが、何とか続けていける」では「認知症状への対応」が39.1%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「入浴・洗身」が34.8%、「日中の排泄」、「身だしなみ(洗顔・歯磨き等)」が21.7%となっている。

「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「認知症状への対応」が71.4%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「外出の付き添い、送迎等」、「食事の準備(調理等)」が28.6%、「入浴・洗身」、「身だしなみ(洗顔・歯磨き等)」、「服薬」、「その他」が14.3%となっている。

図表 2-15 就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係

【着目すべきポイント】

- ここでは、「サービス利用の組み合わせ」について、組み合わせのパターンを簡略化し、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています。さらに、訪問系サービスについては、要介護2以上、認知症自立度Ⅱ以上に分けて集計分析を行っています（図表 2-16～図表 2-18）。
- ここから、主な介護者の就労状況によって、「サービス利用の組み合わせ」に差がみられるかどうかを把握することができます。
- また、「訪問系サービスの利用の有無」と「就労継続見込み」の関係を集計分析することで、訪問系サービスの利用が、就労継続見込みの「問題なく、続けていける」「問題はあるが、何とか続けていける」の割合に影響を与えているかどうかを推測することが可能です。

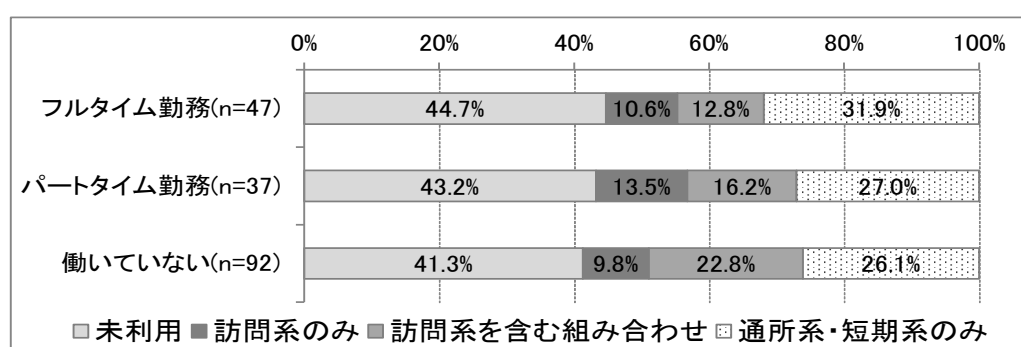
【就労状況別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「未利用」が44.7%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が31.9%、「訪問系を含む組み合わせ」が12.8%となっている。

「パートタイム勤務」では「未利用」が43.2%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が27.0%、「訪問系を含む組み合わせ」が16.2%となっている。

「働いていない」では「未利用」が41.3%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が26.1%、「訪問系を含む組み合わせ」が22.8%となっている。

図表 2-16 就労状況別・サービス利用の組み合わせ

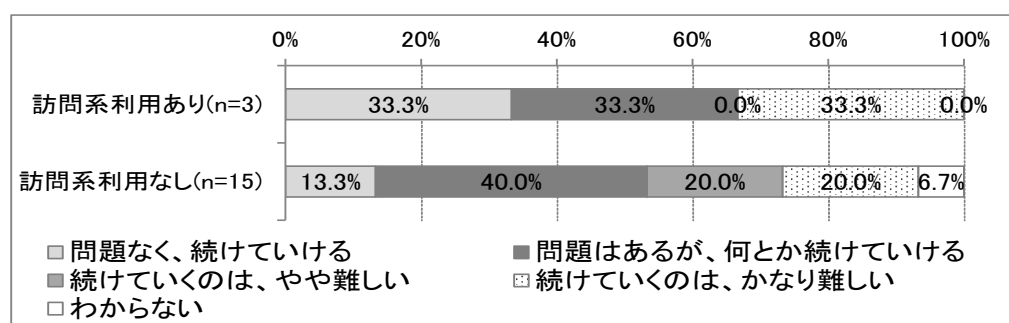


【サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み(要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の就労継続の可否に係る意識を訪問系の利用の有無別にみると、「訪問系利用あり」では「問題なく、続けていける」、「問題はあるが、何とか続けていける」、「続けていくのは、かなり難しい」が33.3%と最も割合が高く、次いで「続けていくのは、やや難しい」、「わからない」が0.0%となっている。

「訪問系利用なし」では「問題はあるが、何とか続けていける」が40.0%と最も割合が高く、次いで「続けていくのは、やや難しい」、「続けていくのは、かなり難しい」が20.0%、「問題なく、続けていける」が13.3%となっている。

図表 2-17 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み(要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)

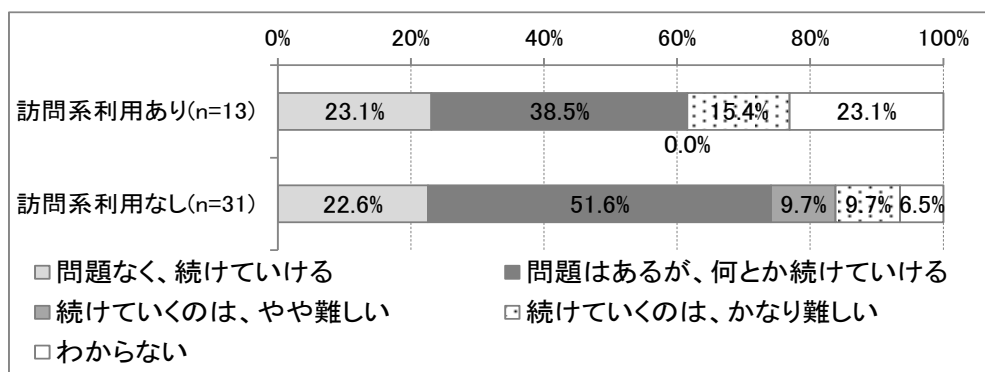


【サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み（認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務）】

介護者の就労継続の可否に係る意識を訪問系の利用の有無別にみると、「訪問系利用あり」では「問題はあるが、何とか続けていける」が38.5%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」、「わからない」が23.1%、「続けていくのは、かなり難しい」が15.4%となっている。

「訪問系利用なし」では「問題はあるが、何とか続けていける」が51.6%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が22.6%、「続けていくのは、やや難しい」、「続けていくのは、かなり難しい」が9.7%となっている。

図表 2-18 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み（認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



(5) 就労状況別の、保険外の支援・サービスの利用状況と、施設等検討の状況

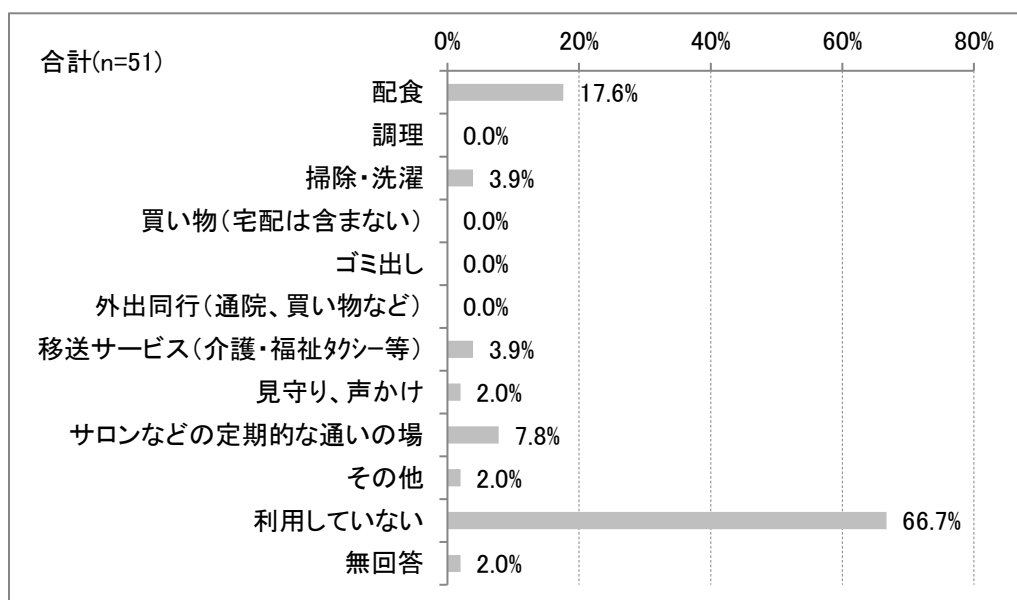
【着目すべきポイント】

- ここでは、「保険外の支援・サービスの利用状況」、「訪問診療の利用の有無」、「施設等検討の状況」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています（図表 2-19～図表 2-22）。
- 「利用している保険外の支援・サービス」と、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」の差をみることにより、働いている介護者が必要と感じているが、実際には利用されていない生活支援サービスを把握することができます。
- また、「訪問診療の利用の有無」と就労状況との関係を集計分析することで、訪問診療の利用が就労状況により異なるかどうかを把握することができます。
- 「施設等検討の状況」については、働いていない介護者に比べて、働いている介護者では、施設入所を必要と感じているかどうか分析することを目的としています。
- さらに、要介護2以上の中重度者については、就労継続見込みについて「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」と考える人のうち、どの程度の人が施設を検討しているかに着目しています。これにより、在宅での仕事と介護の両立が困難となった場合の対応として、施設対応の必要性和、在宅サービスや働き方の調整による対応の必要性のそれぞれについて、把握することができます。

【★利用している保険外の支援・サービス(フルタイム勤務)】

「利用していない」の割合が最も高く 66.7%となっている。次いで、「配食（17.6%）」、「サロンなどの定期的な通いの場（7.8%）」となっている。

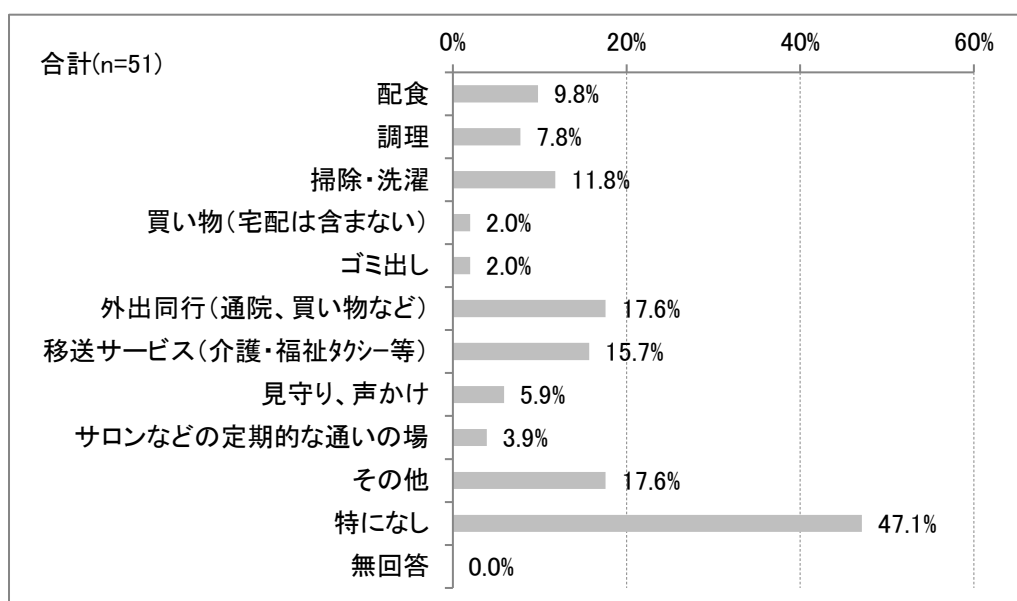
図表 2-19_1 ★利用している保険外の支援・サービス（フルタイム勤務）



【★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(フルタイム勤務)】

「特になし」の割合が最も高く 47.1%となっている。次いで、「外出同行（通院、買い物など）（17.6%）」、「その他（17.6%）」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）（15.7%）」となっている。

図表 2-19_2 ★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（フルタイム勤務）



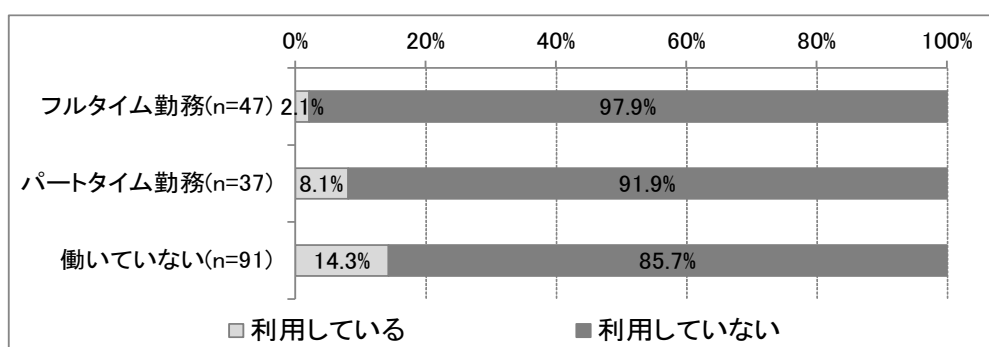
【就労状況別・★訪問診療の利用の有無】

訪問診療の利用の有無を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「利用していない」が97.9%と最も割合が高く、次いで「利用している」が2.1%となっている。

「パートタイム勤務」では「利用していない」が91.9%と最も割合が高く、次いで「利用している」が8.1%となっている。

「働いていない」では「利用していない」が85.7%と最も割合が高く、次いで「利用している」が14.3%となっている。

図表 2-20 就労状況別・★訪問診療の利用の有無<＊>



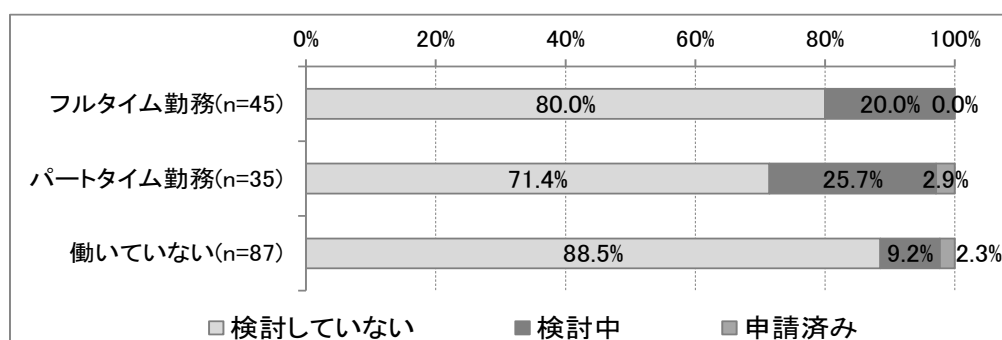
【就労状況別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「検討していない」が80.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が20.0%、「申請済み」が0.0%となっている。

「パートタイム勤務」では「検討していない」が71.4%と最も割合が高く、次いで「検討中」が25.7%、「申請済み」が2.9%となっている。

「働いていない」では「検討していない」が88.5%と最も割合が高く、次いで「検討中」が9.2%、「申請済み」が2.3%となっている。

図表 2-21 就労状況別・施設等検討の状況



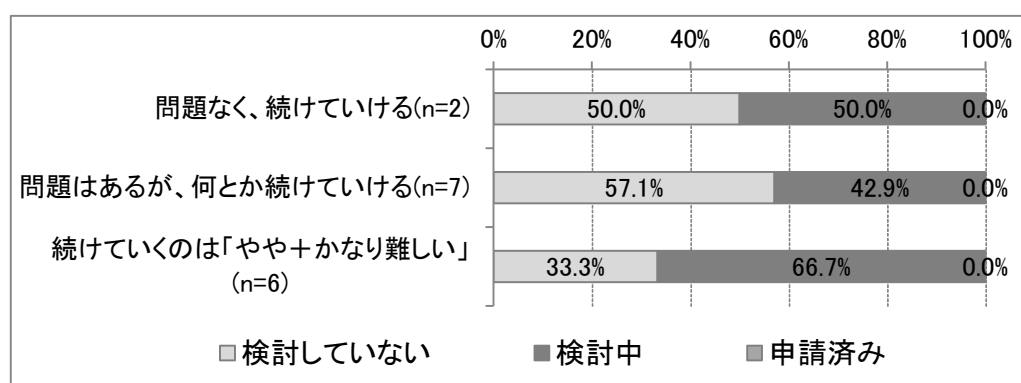
【就労継続見込み別・施設等検討の状況(要介護2以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務)】

施設等の検討状況を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「検討していない」、「検討中」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が0.0%となっている。

「問題はあるが、何とか続けていける」では「検討していない」が57.1%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が42.9%、「申請済み」が0.0%となっている。

「続けていくのは「やや＋かなり難しい」では「検討中」が66.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討していない」が33.3%、「申請済み」が0.0%となっている。

図表 2-22 就労継続見込み別・施設等検討の状況（要介護2以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



(6) 就労状況別の、介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援

【着目すべきポイント】

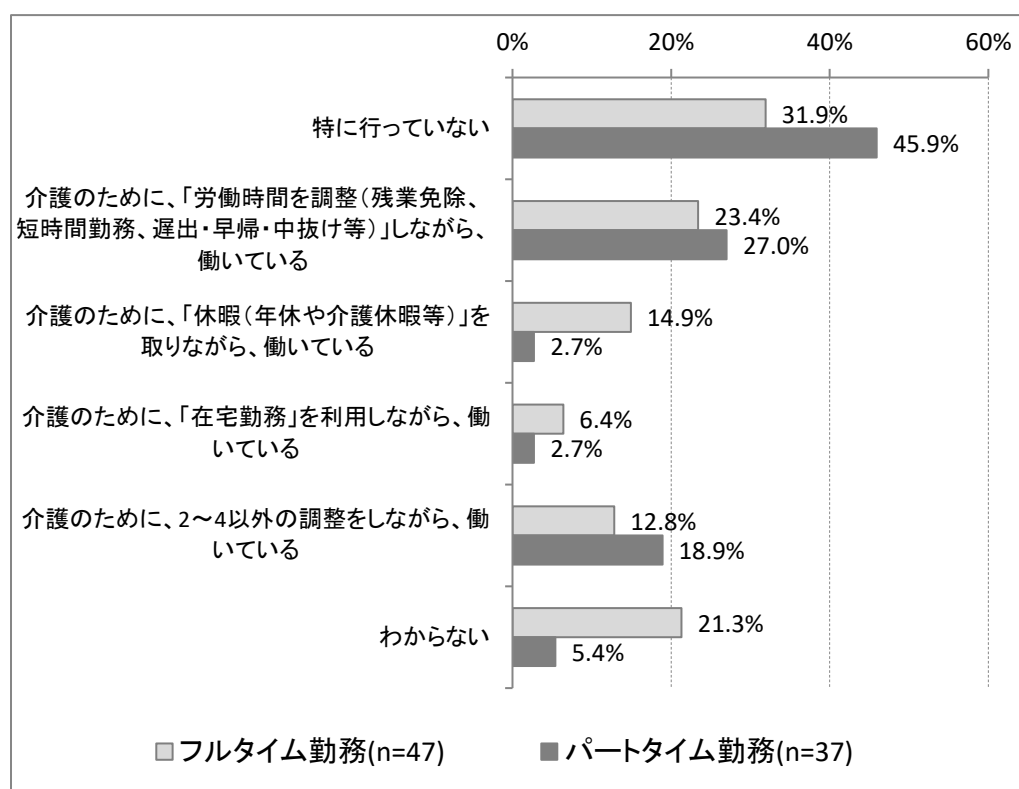
- ここでは、「介護のための働き方の調整」と、「効果的な勤め先からの支援」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています（図表 2-23～図表 2-26）。
- 就労継続見込みによって、介護のために働き方を調整している割合や、効果的と考える勤め先の支援内容がどのように変化するかに着目して集計分析をしています。
- ただし、「問題なく、続けていける」とする人において、働き方の調整を「特に行っていない」割合、もしくは効果的な勤め先の支援として「特にない」が高いケースは、職場が恒常的な長時間労働や、休暇取得が困難といった状況ではなく、介護のために特段働き方の調整や勤め先からの支援を行わなくても、両立可能な職場であることが考えられます。
- このように、職場の状況や業務の内容によっても、必要な調整や支援の内容が異なることに留意することが必要です。

【就労状況別・介護のための働き方の調整】

介護者の働き方の調整の状況を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「特に行っていない」が31.9%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が23.4%、「わからない」が21.3%となっている。

「パートタイム勤務」では「特に行っていない」が45.9%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が27.0%、「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」が18.9%となっている。

図表 2-23 就労状況別・介護のための働き方の調整



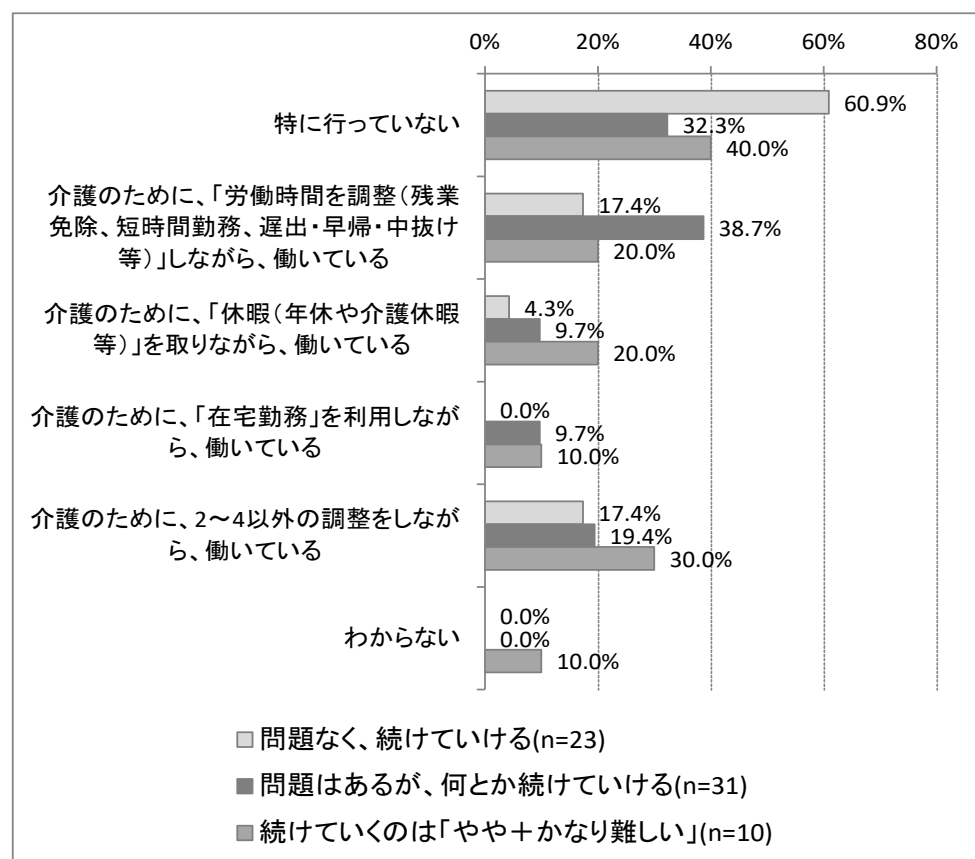
【就労継続見込み別・介護のための働き方の調整（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）】

介護者の働き方の調整の状況を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「特に行っていない」が60.9%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」、「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」が17.4%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が4.3%となっている。

「問題はあるが、何とか続けていける」では「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が38.7%と最も割合が高く、次いで「特に行っていない」が32.3%、「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」が19.4%となっている。

「続けていくのは「やや＋かなり難しい」」では「特に行っていない」が40.0%と最も割合が高く、次いで「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」が30.0%、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が20.0%となっている。

図表 2-24 就労継続見込み別・介護のための働き方の調整（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）

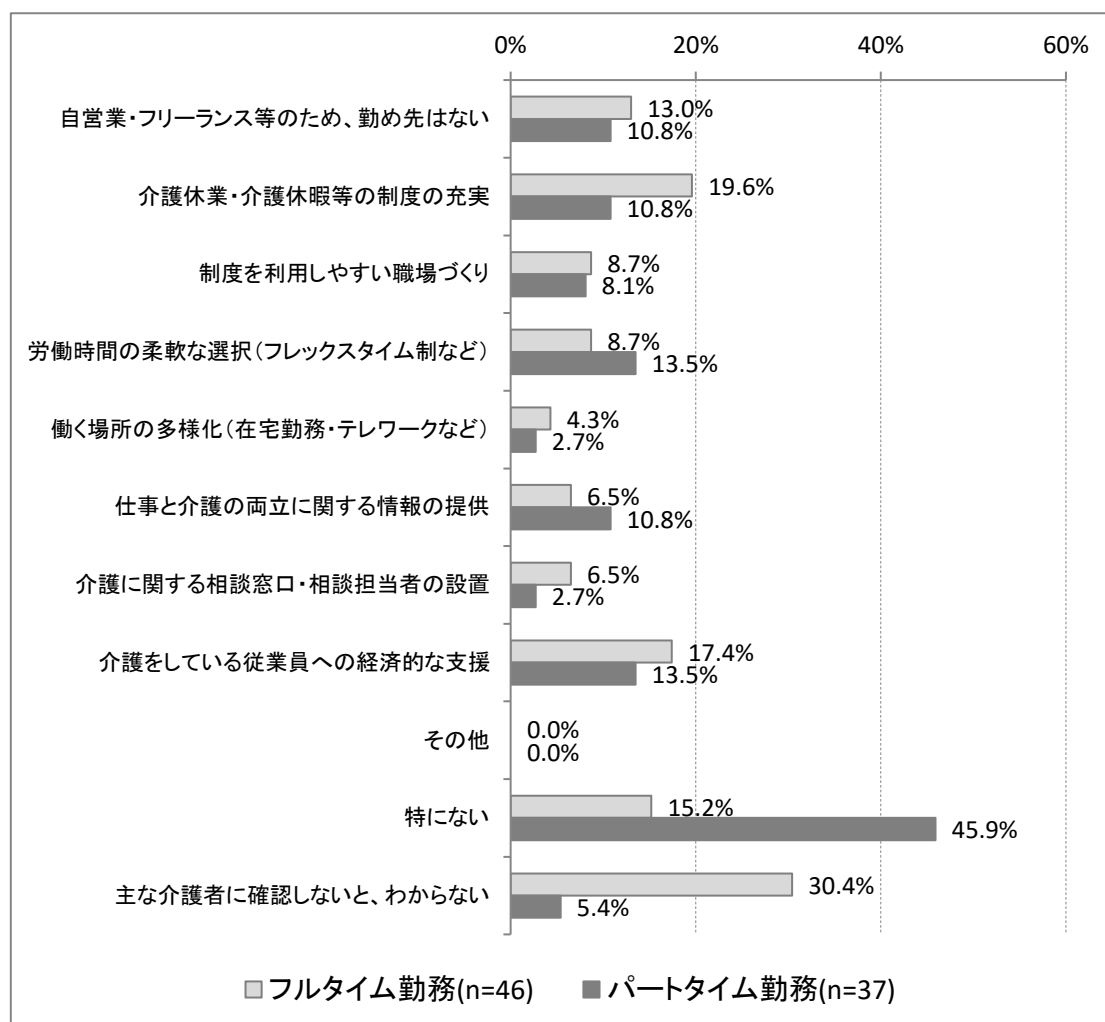


【就労状況別・★効果的な勤め先からの支援】

効果的な勤め先からの支援を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「主な介護者に確認しないと、わからない」が30.4%と最も割合が高く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が19.6%、「介護をしている従業員への経済的な支援」が17.4%となっている。

「パートタイム勤務」では「特にない」が45.9%と最も割合が高く、次いで「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が13.5%、「介護をしている従業員への経済的な支援」が13.5%、「仕事と介護の両立に関する情報の提供」が10.8%となっている。

図表 2-25 就労状況別・★効果的な勤め先からの支援



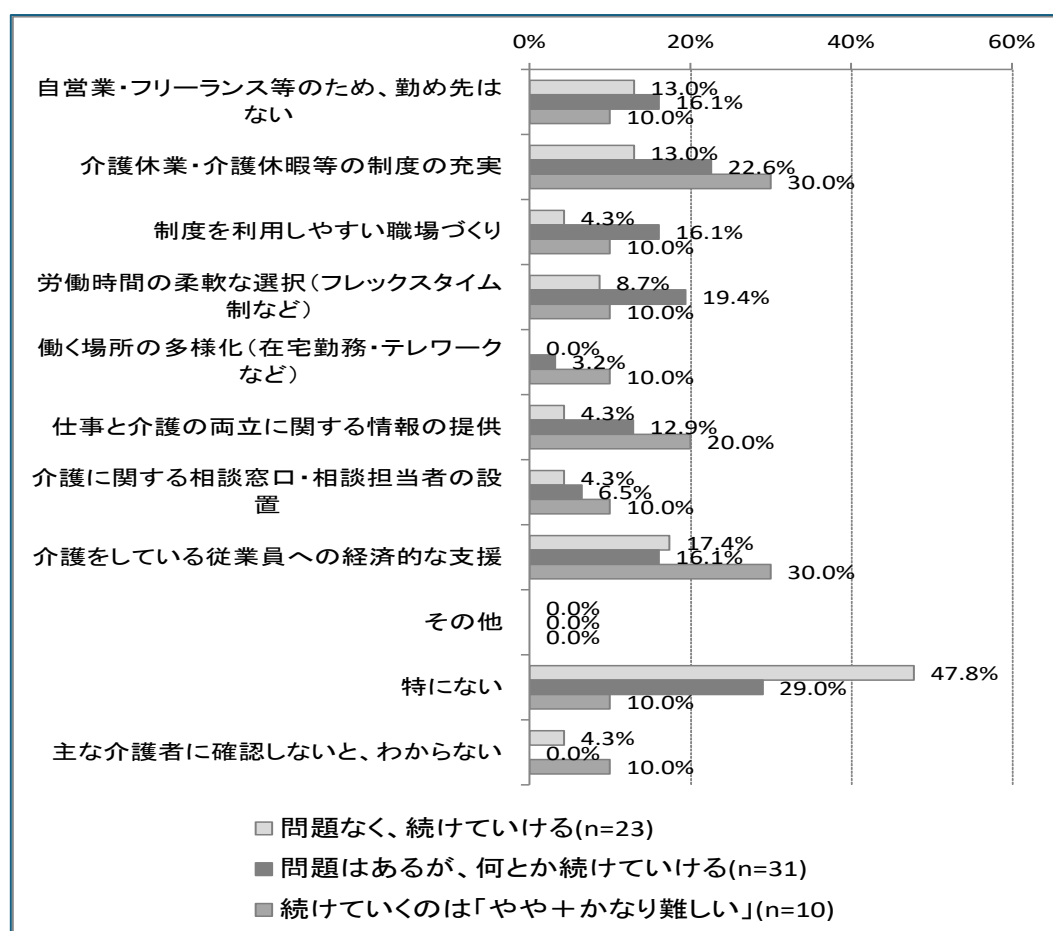
【就労継続見込み別・★効果的な勤め先からの支援(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

効果的な勤め先からの支援を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「特にない」が47.8%と最も割合が高く、次いで「介護をしている従業員への経済的な支援」が17.4%、「自営業・フリーランス等のため、勤め先はない」、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が13.0%となっている。

「問題はあるが、何とか続けていける」では「特にない」が29.0%と最も割合が高く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が22.6%、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が19.4%となっている。

「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」、「介護をしている従業員への経済的な支援」が30.0%と最も割合が高く、次いで「仕事と介護の両立に関する情報の提供」が20.0%、「自営業・フリーランス等のため、勤め先はない」、「制度を利用しやすい職場づくり」、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」、「働く場所の多様化（在宅勤務・テレワークなど）」、「介護に関する相談窓口・相談担当者の設置」、「特にない」、「主な介護者に確認しないと、わからない」が10.0%となっている。

図表 2-26 就労継続見込み別・★効果的な勤め先からの支援（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



2.3 考察

就労している主な介護者は、フルタイム勤務・パートタイム勤務ともに「子」が中心で、50～60歳代が多く、就労を継続しながら親等の介護を担っている実態がうかがえます。一方で、就労継続見込みは「問題なく続けていける」よりも「問題はあるが、何とか続けていける」が多く、特に要介護度や認知症自立度が上がった場合に継続への負担感が強まる傾向がみられます。このことから、仕事と介護の両立支援は、介護離職の防止という観点だけでなく、介護者が負担を抱え込みながらも就労を継続している現状を前提に、早期段階からの支援につなげる必要があります。

介護保険サービスの利用率自体は就労状況別で大きな差がないものの、就労継続が難しいと感じる人ほどサービス利用率が高く、すでに一定の支援を導入していてもなお負担が大きいことが示唆されます。また、就労継続が困難になるほど、「認知症状への対応」、「夜間の排泄」、「入浴・洗身」などへの不安が高まっており、とりわけ認知症対応は就労継続可否を左右する重要な要素であることから、訪問介護や通所系サービスの量的確保に加え、認知症対応力のある通所・訪問支援、見守りや家族介護者への相談支援を組み合わせ提供することが、就労継続支援の充実に向けて重要な要素になると考えられます。

保険外サービスについても、実際の利用は少ない一方で、外出同行や移送サービス等への必要感がみられ、通院・買い物・送迎といった時間拘束の大きい支援への潜在需要がうかがえます。加えて、就労継続が難しいと考える層では施設入所を「検討中」とする割合が高まっており、家族の就労制約が、在宅継続の限界を早めている可能性があります。このため、介護保険サービスに加え、移送、付き添い、見守り等の生活支援を地域で補完できる体制の整備が重要です。

石狩市においては、広域で地域差のある生活環境や、降雪期の移動負担等も踏まえると、通勤・通院・送迎を含む日常生活支援の確保が仕事と介護の両立に直結します。今後は、就労している家族介護者を地域包括ケアシステムの中で明確に位置づけ、介護保険サービス、保険外サービス、職場からの支援、相談支援を一体的にコーディネートする仕組みづくりが必要です。特に、認知症の進行による就労困難を見据え、早期から就労状況を把握し介護者支援をケアマネジメントに反映することが、介護離職防止と在宅生活継続に重要です。

3 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

3.1 集計・分析の狙い

- ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、特に「保険外の支援・サービス」に焦点を当てた集計を行っています。ここで把握された現状やニーズは、生活支援体制整備事業の推進のために活用していくことなどが考えられます。
- 具体的には、「現在利用している保険外の支援・サービス」と「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）」について、要介護度別や世帯類型別のクロス集計を行い、現在の利用状況の把握と今後さらに充実が必要となる支援・サービスについての分析を行います。
- なお、調査の中では、総合事業に基づく支援・サービスは介護保険サービスに含めるとともに、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」については、介護保険サービスか保険外の支援・サービスであるかは区別していません。

3.2 集計結果と着目すべきポイント

(1) 基礎集計

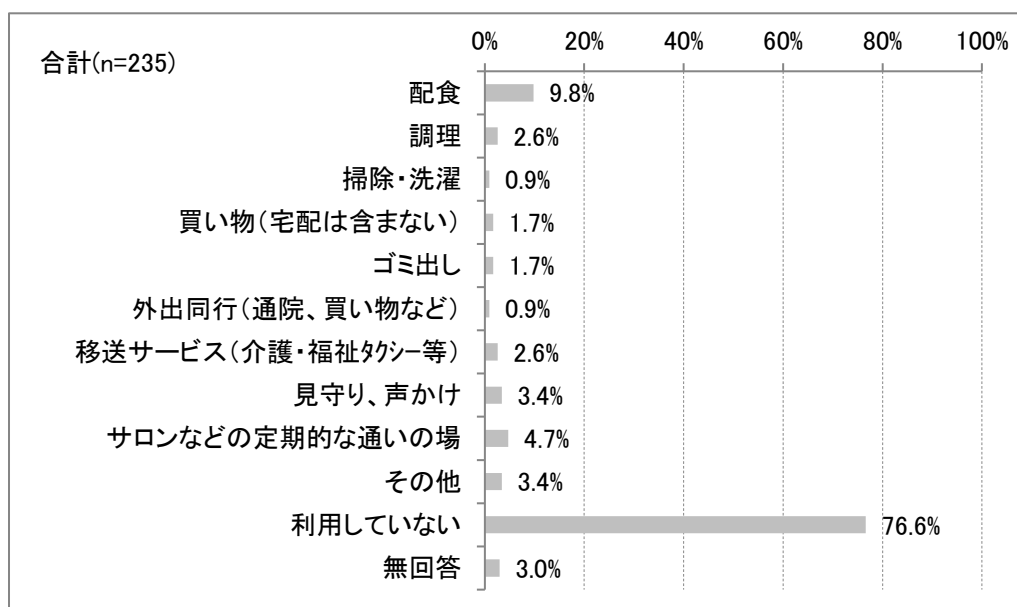
【着目すべきポイント】

- 「保険外の支援・サービスの利用状況」と、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」について、集計分析をしています（図表 3-1、図表 3-2）。
- 例えば、「保険外の支援・サービスの利用状況」については、現状の把握のみでなく、保険外の支援・サービスの利用促進の取組に係るアウトプットとして、その「利用割合」を設定することで、経年的にその成果をモニタリングしていくことも可能になると考えられます。
- さらに、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」からは、在宅限界点の向上という地域目標の達成に向けて、その地域において特に重要となる支援・サービスの種類を把握することができます。

【★保険外の支援・サービスの利用状況】

「利用していない」の割合が最も高く 76.6%となっている。次いで、「配食（9.8%）」、「サロンなどの定期的な通いの場（4.7%）」となっている。

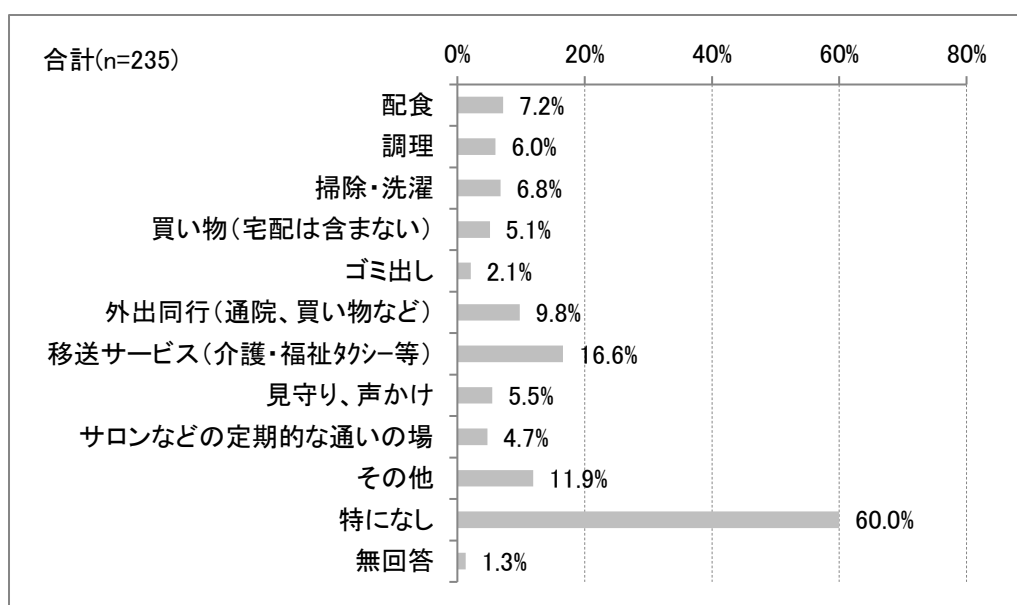
図表 3-1 ★保険外の支援・サービスの利用状況



【★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

「特になし」の割合が最も高く 60.0%となっている。次いで、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）（16.6%）」、「その他（11.9%）」となっている。

図表 3-2 ★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



(2) 世帯類型別の、保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス

【着目すべきポイント】

- 世帯類型別に「保険外の支援・サービスの利用状況」と、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」について、集計分析をしています（図表 3-3、図表 3-4）。
- 「保険外の支援・サービスの利用割合」については、世帯類型別の割合をアウトプット指標としてモニタリングしていくも考えられます。
- また、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」については、世帯類型別に異なる傾向がみられた場合は、世帯類型に応じたアプローチを検討していくことが重要になると考えられます。

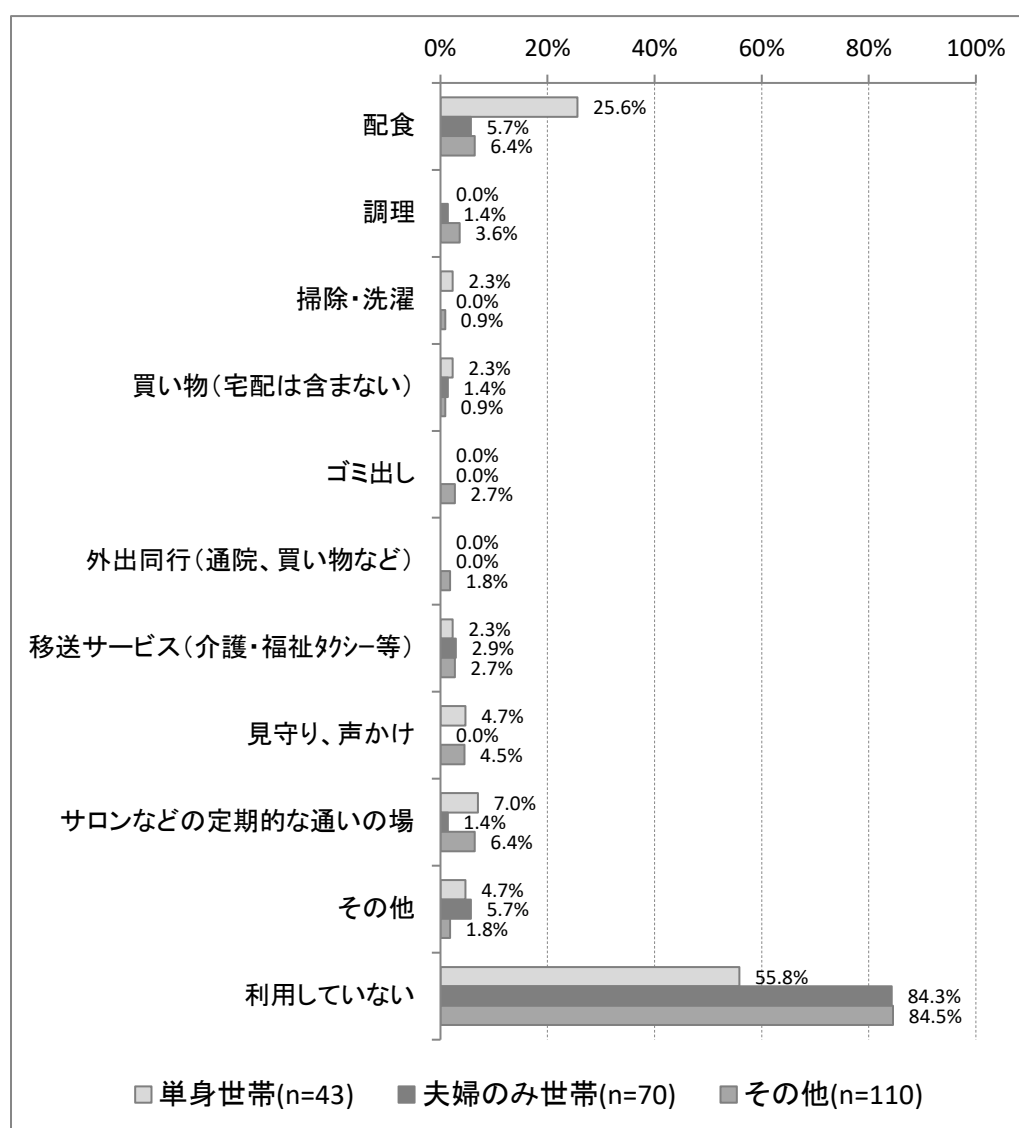
【世帯類型別・★保険外の支援・サービスの利用状況】

保険外の支援・サービスの利用状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「利用していない」が55.8%と最も割合が高く、次いで「配食」が25.6%、「サロンなどの定期的な通いの場」が7.0%となっている。

「夫婦のみ世帯」では「利用していない」が84.3%と最も割合が高く、次いで「配食」が5.7%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が2.9%となっている。

「その他」では「利用していない」が84.5%と最も割合が高く、次いで「配食」が6.4%、「見守り、声かけ」が4.7%となっている。

図表 3-3 世帯類型別・★保険外の支援・サービスの利用状況



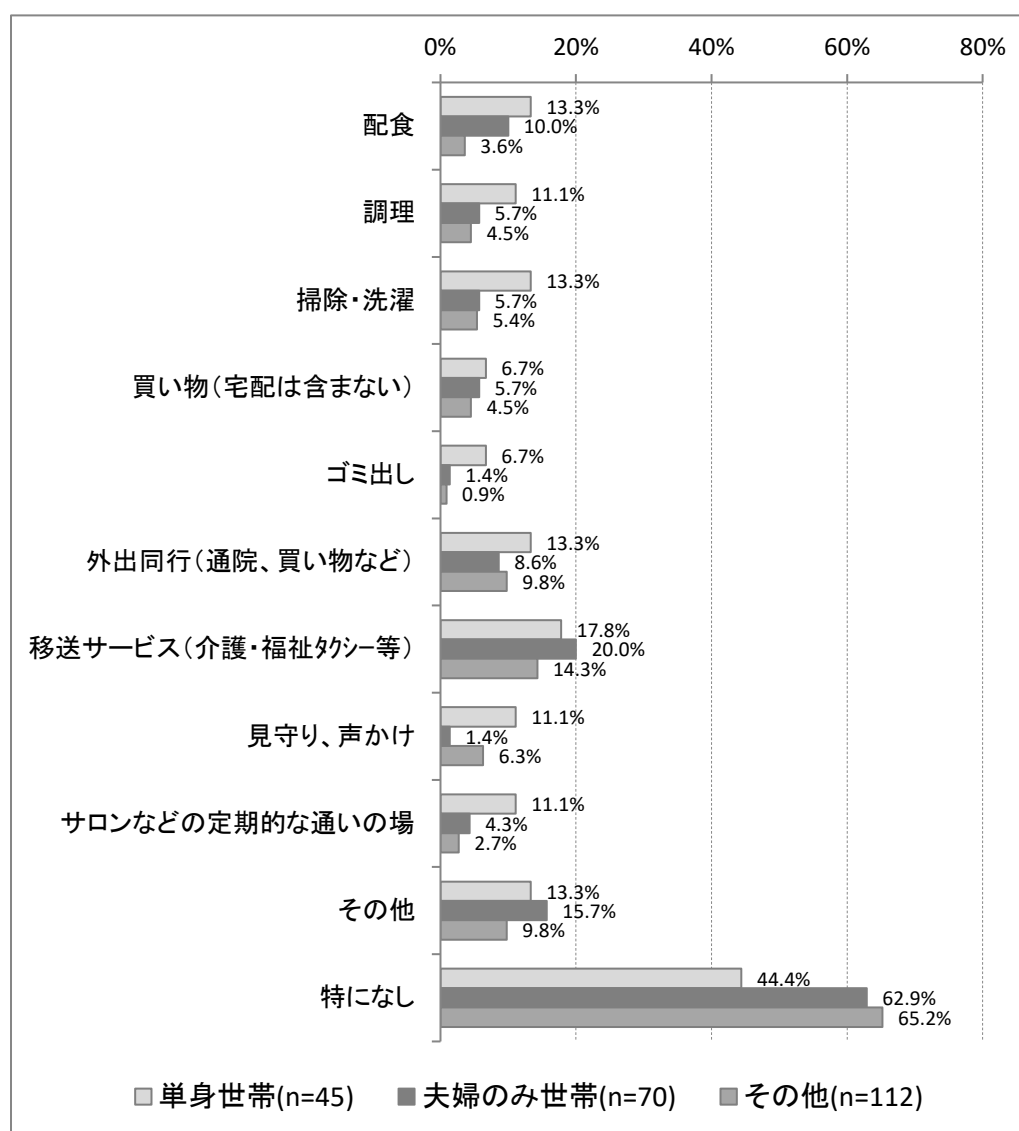
【世帯類型別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「特になし」が44.4%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が17.8%、「配食」、「掃除・洗濯」、「外出同行（通院、買い物など）」、「その他」が13.3%となっている。

「夫婦のみ世帯」では「特になし」が62.9%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が20.0%、「その他」が15.7%となっている。

「その他」では「特になし」が65.2%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が14.3%、「外出同行（通院、買い物など）」、「その他」が9.8%となっている。

図表 3-4 世帯類型別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



(3) 「世帯類型」×「要介護度」×「保険外の支援・サービスの利用状況」

【着目すべきポイント】

- 世帯類型別・要介護度別に「保険外の支援・サービスの利用状況」について、集計分析をしています（図表 3-5～図表 3-8）。
- 利用割合の低い世帯類型であっても、要介護度の重度化に伴い利用割合が増加している支援・サービスがあることも考えられます。
- 介護保険サービスと同様、重度化に伴い、どのような支援・サービスの利用割合が増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような支援・サービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを把握することができます。

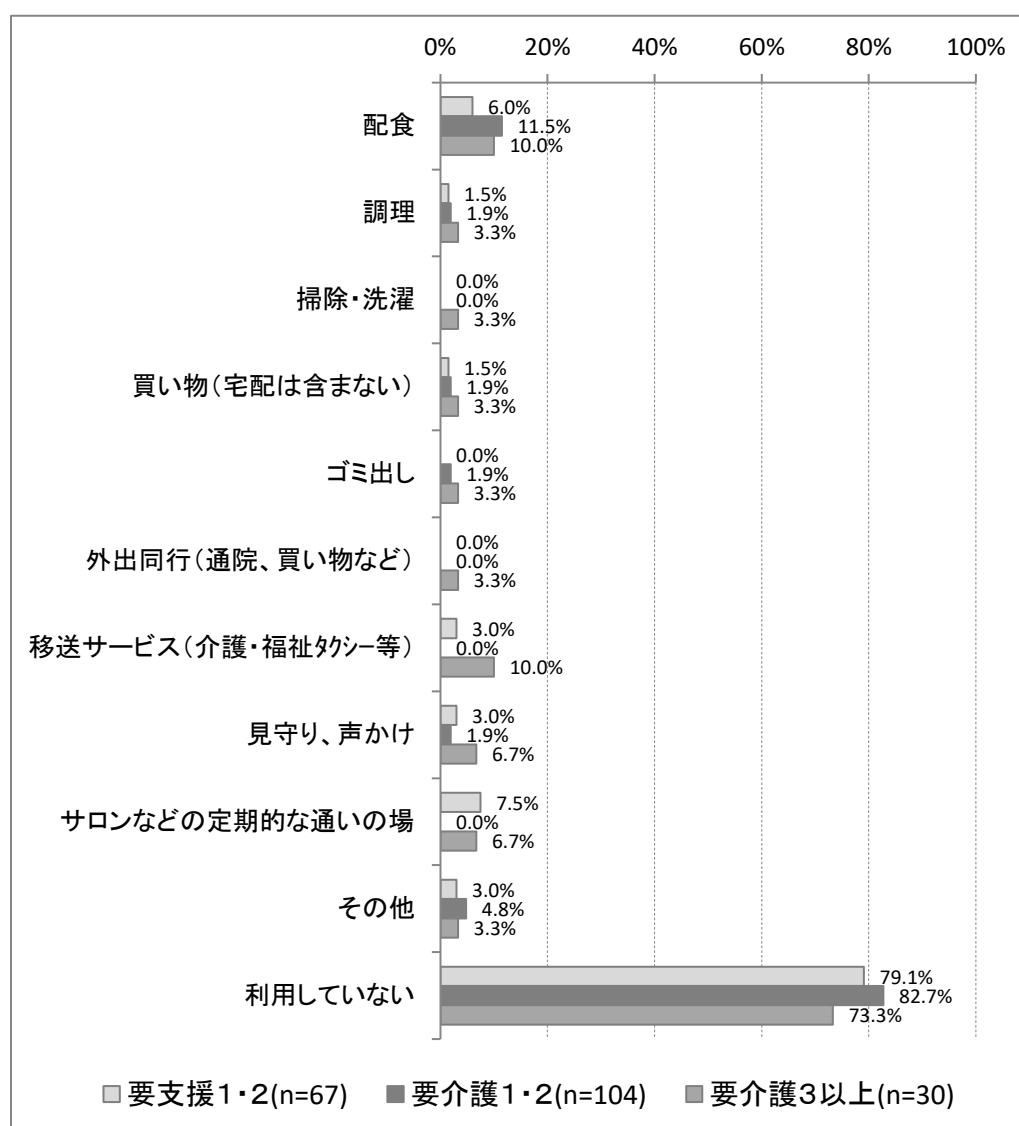
【要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況】

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「利用していない」が79.1%と最も割合が高く、次いで「サロンなどの定期的な通いの場」が7.5%、「配食」が6.0%となっている。

「要介護１・２」では「利用していない」が82.7%と最も割合が高く、次いで「配食」が11.5%、「その他」が4.8%となっている。

「要介護３以上」では「利用していない」が73.3%と最も割合が高く、次いで「配食」が10.0%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が10.0%、「見守り、声かけ」が6.7%となっている。

図表 3-5 要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況



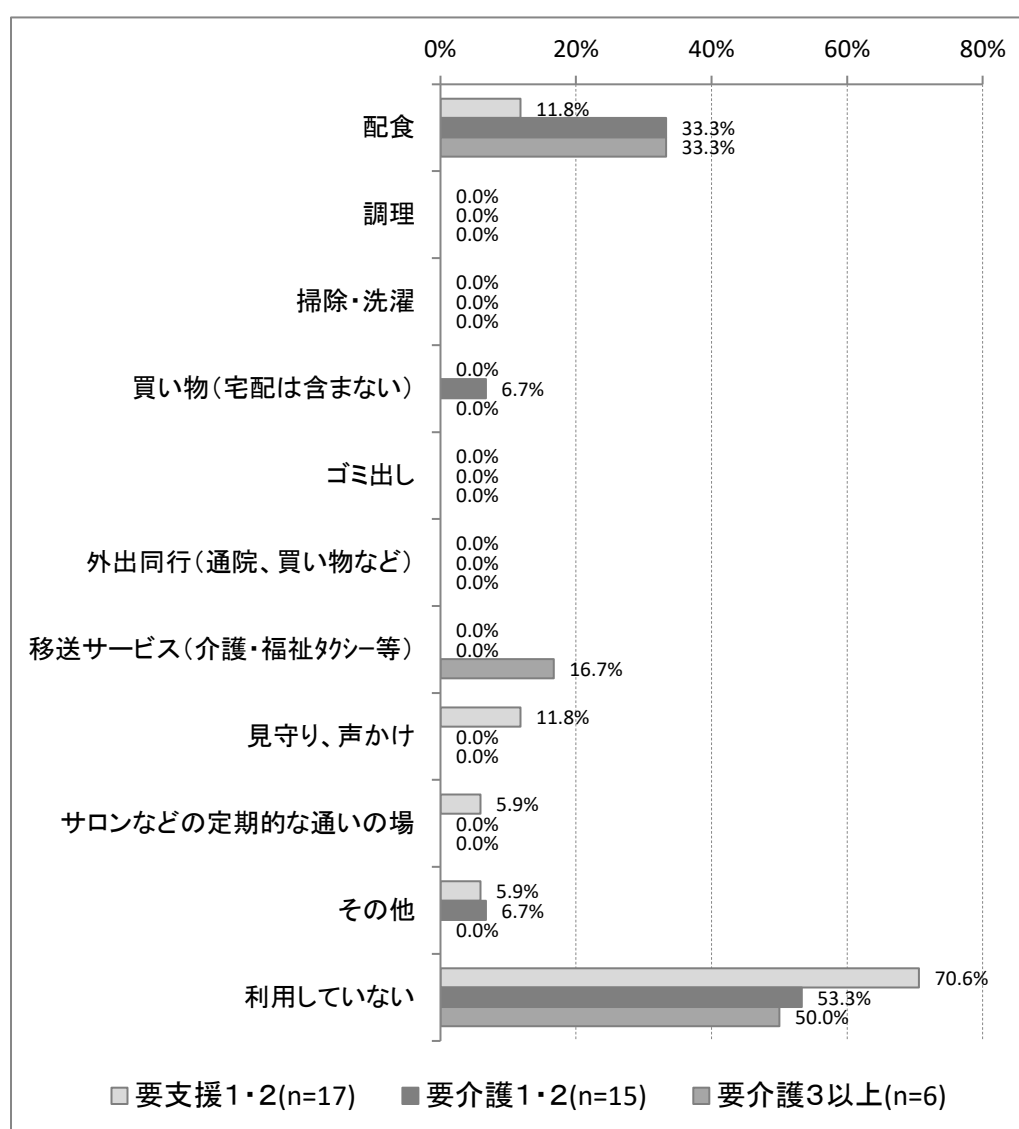
【要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況(単身世帯)】

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「利用していない」が70.6%と最も割合が高く、次いで「配食」、「見守り、声かけ」が11.8%、「サロンなどの定期的な通いの場」、「その他」が5.9%となっている。

「要介護１・２」では「利用していない」が53.3%と最も割合が高く、次いで「配食」が33.3%、「買い物（宅配は含まない）」、「その他」が6.7%となっている。

「要介護３以上」では「利用していない」が50.0%と最も割合が高く、次いで「配食」が33.3%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が16.7%となっている。

図表 3-6 要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況（単身世帯）



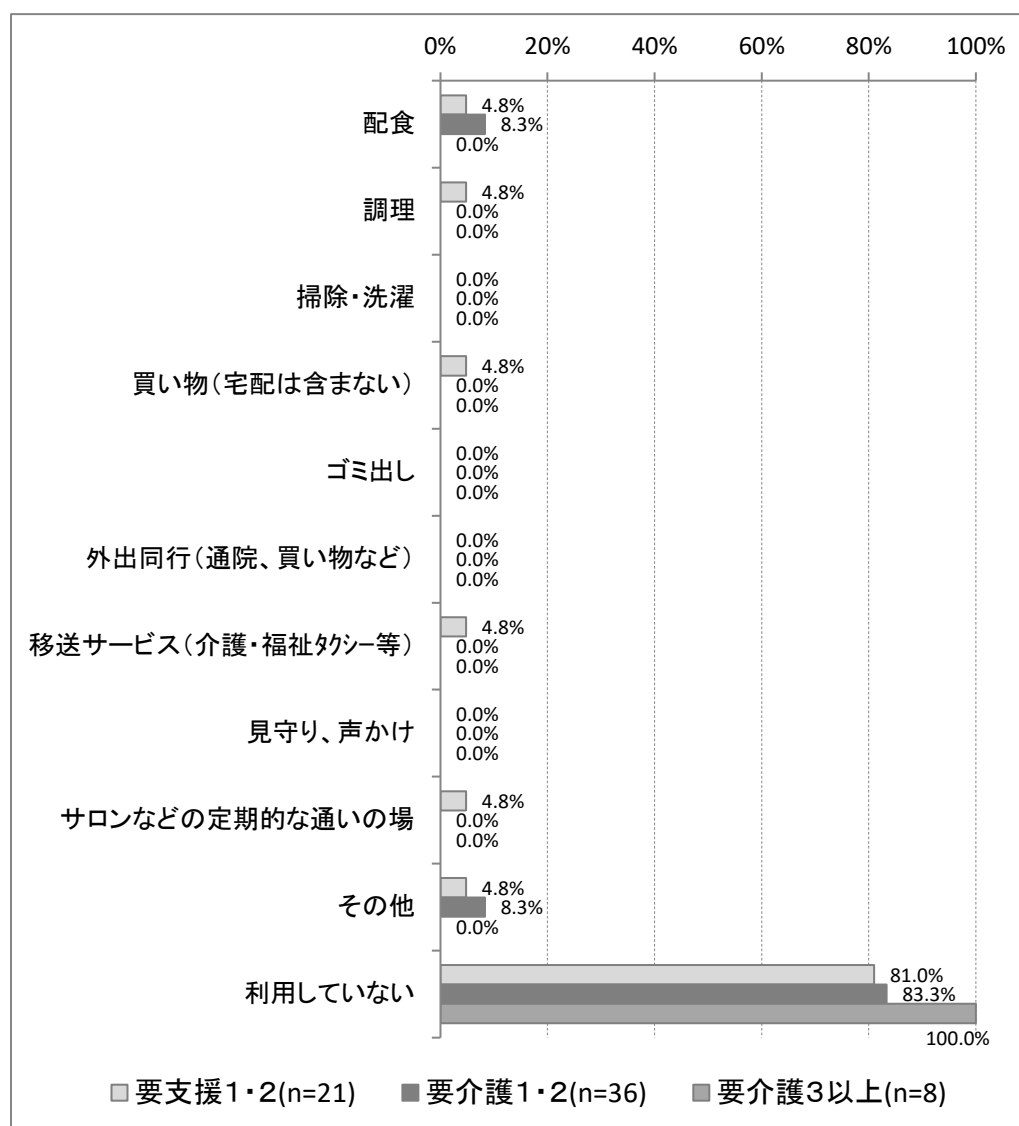
【要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況(夫婦のみ世帯)】

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「利用していない」が81.0%と最も割合が高く、次いで「配食」、「調理」、「買い物（宅配は含まない）」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「サロンなどの定期的な通いの場」、「その他」が4.8%、その他の項目はすべて0.0%となっている。

「要介護1・2」では「利用していない」が83.3%と最も割合が高く、次いで「配食」、「その他」が8.3%、その他の項目はすべて0.0%となっている。

「要介護3以上」では「利用していない」が100.0%となっている。

図表 3-7 要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況（夫婦のみ世帯）



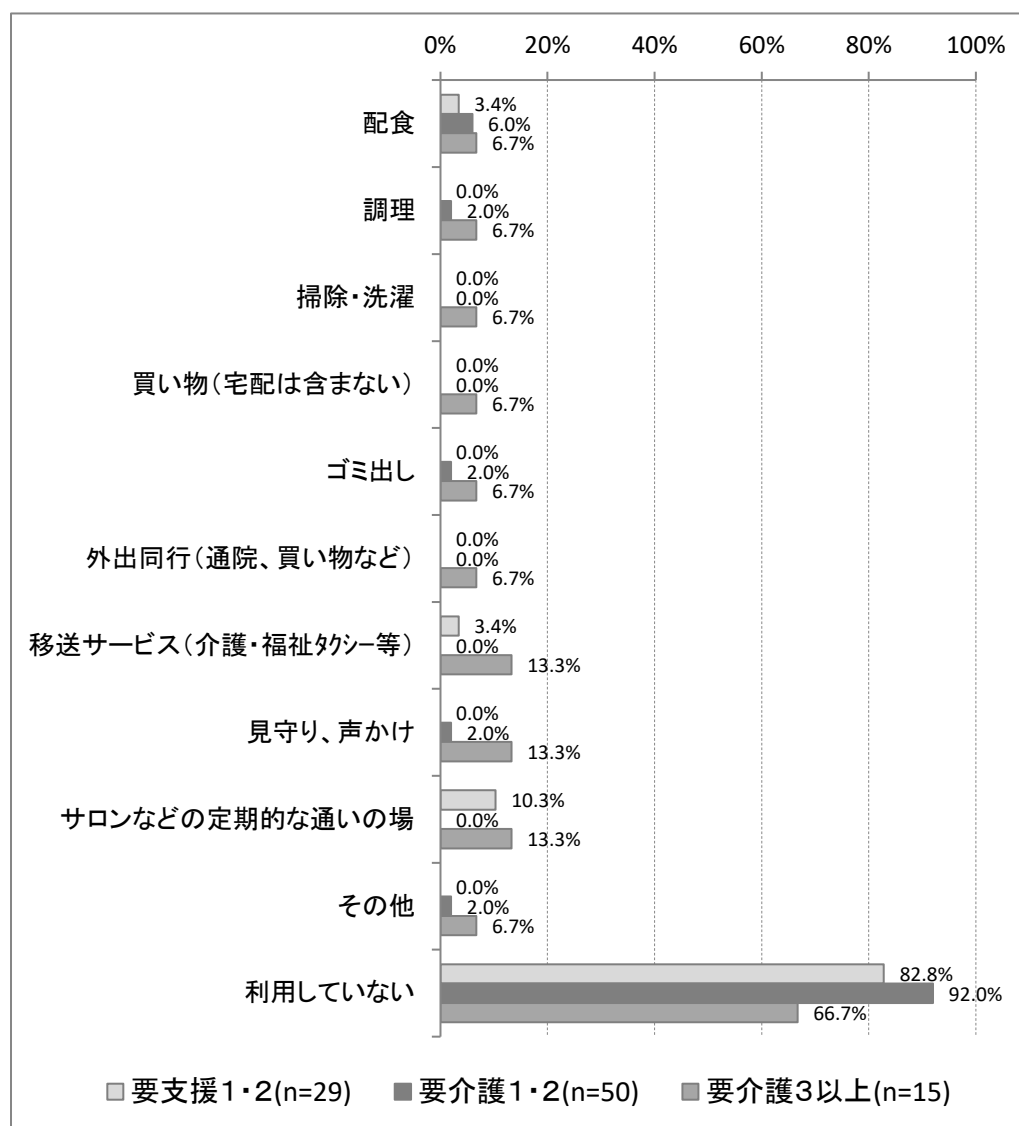
【要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況(その他世帯)】

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「利用していない」が82.8%と最も割合が高く、次いで「サロンなどの定期的な通いの場」が10.3%、「配食」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が3.4%となっている。

「要介護１・２」では「利用していない」が92.0%と最も割合が高く、次いで「配食」が6.0%、「調理」、「ゴミ出し」、「見守り、声かけ」、「その他」が2.0%となっている。

「要介護３以上」では「利用していない」が66.7%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「見守り、声かけ」、「サロンなどの定期的な通いの場」が13.3%、「配食」、「調理」、「掃除・洗濯」、「買い物（宅配は含まない）」、「ゴミ出し」、「外出同行（通院、買い物など）」、「その他」が6.7%となっている。

図表 3-8 要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況（その他世帯）



(4) 「世帯類型」×「要介護度」×「必要と感じる支援・サービス」

【着目すべきポイント】

- 世帯類型別・要介護度別に「必要と感じる支援・サービス」について、集計分析をしています（図表 3-9～図表 3-12）。
- 特に、各世帯類型の要介護度別のニーズに着目しながら、各地域の実情に応じた取組を推進していく必要があります。

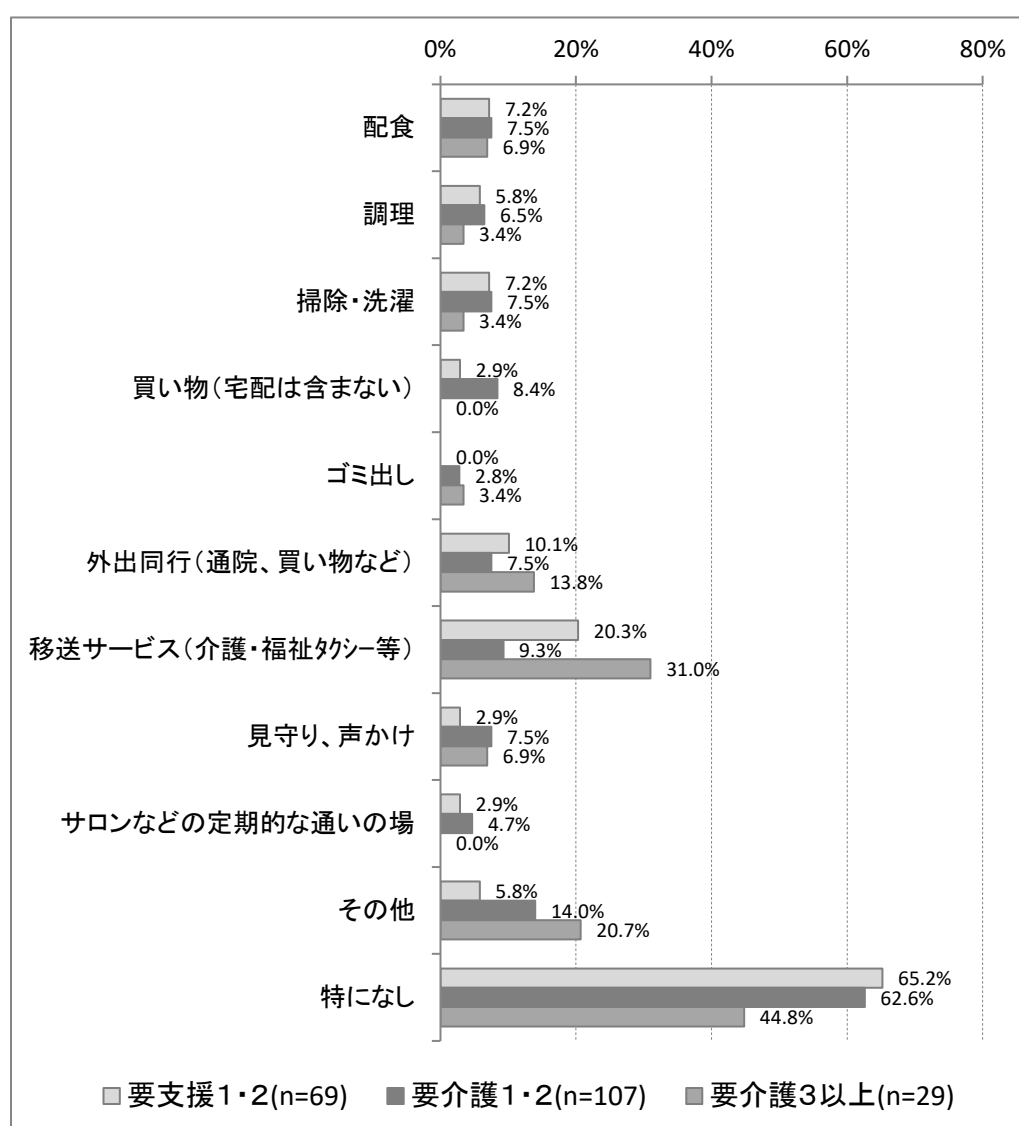
【要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「特になし」が 65.2% ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 20.3%、「外出同行（通院、買い物など）」が 10.1% となっている。

「要介護１・２」では「特になし」が 62.6% ともっとも割合が高く、次いで「その他」が 14.0%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 9.3% となっている。

「要介護３以上」では「特になし」が 44.8% ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 31.0%、「その他」が 20.7% となっている。

図表 3-9 要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



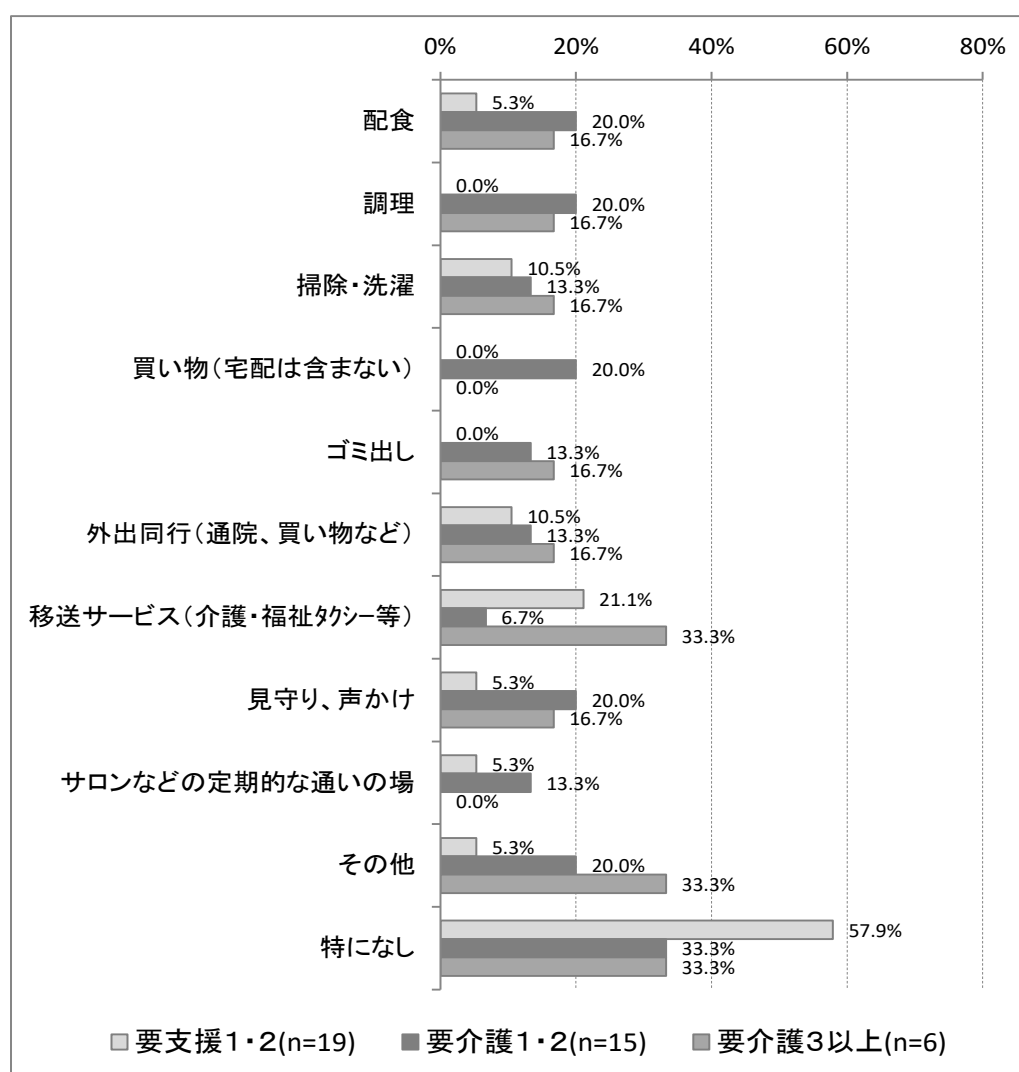
【要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(単身世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「特になし」が57.9%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が21.1%、「掃除・洗濯」、「外出同行（通院、買い物など）」が10.5%となっている。

「要介護1・2」では「特になし」が33.3%と最も割合が高く、次いで「配食」、「調理」、「買い物（宅配は含まない）」、「見守り、声かけ」、「その他」が20.0%、「掃除・洗濯」、「ゴミ出し」、「外出同行（通院、買い物など）」、「サロンなどの定期的な通いの場」が13.3%となっている。

「要介護3以上」では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「その他」、「特になし」が33.3%と最も割合が高く、次いで「配食」、「調理」、「掃除・洗濯」、「ゴミ出し」、「外出同行（通院、買い物など）」、「見守り、声かけ」が16.7%、「買い物（宅配は含まない）」、「サロンなどの定期的な通いの場」が0.0%となっている。

図表 3-10 要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）



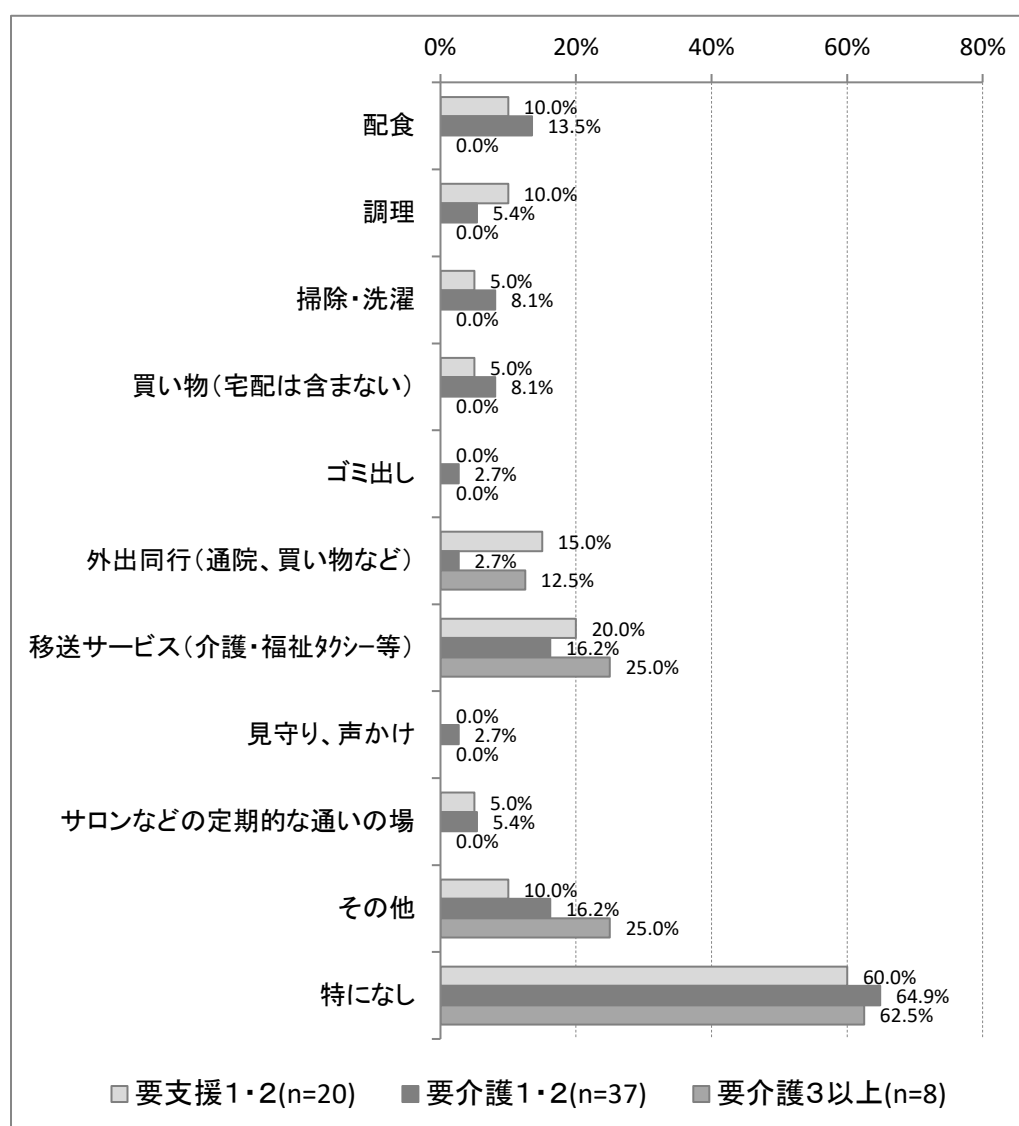
【要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(夫婦のみ世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「特になし」が60.0%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が20.0%、「外出同行（通院、買い物など）」が15.0%となっている。

「要介護1・2」では「特になし」が64.9%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「その他」が16.2%、「配食」が13.5%となっている。

「要介護3以上」では「特になし」が62.5%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「その他」が25.0%、「外出同行（通院、買い物など）」が12.5%となっている。

図表 3-11 要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（夫婦のみ世帯）



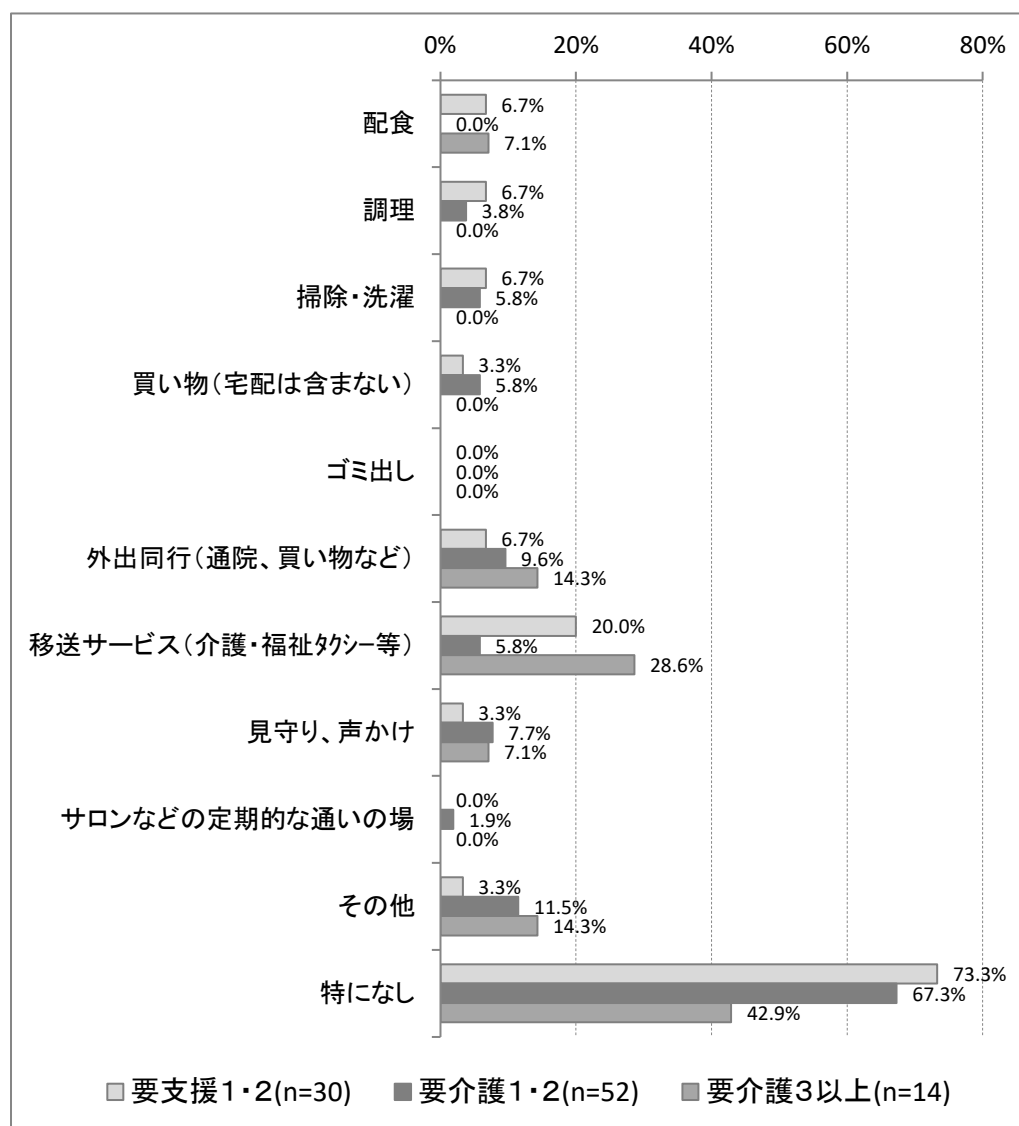
【要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(その他世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「特になし」が73.3%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が20.0%、「配食」、「調理」、「掃除・洗濯」、「外出同行(通院、買い物など)」が6.7%となっている。

「要介護1・2」では「特になし」が67.3%ともっとも割合が高く、次いで「その他」が11.5%、「外出同行(通院、買い物など)」が9.6%となっている。

「要介護3以上」では「特になし」が42.9%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が28.6%、「外出同行(通院、買い物など)」、「その他」が14.3%となっている。

図表 3-12 要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(その他世帯)



3.3 考察

保険外の支援・サービスの利用状況をみると、全体として「利用していない」が大半を占めていますが、一方で、在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスとしては「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」の割合が比較的高く、特に要介護度が高くなるほどその必要性が増す傾向がみられました。このことから、在宅生活の継続を支えるうえでは、介護そのものに対する支援だけでなく、通院や買い物、外出に伴う移動支援を含む生活支援の充実が求められていると考えられます。

また、世帯類型別にみると、単身世帯では配食や移送サービス等の利用割合が比較的高く、必要と感じる支援・サービスも多岐にわたっています。特に要介護度が上昇した単身世帯では、調理、掃除・洗濯、買い物、ゴミ出し、外出同行、見守りなど、日常生活全般を支える支援への必要性が高まっており、家族による支援を前提としない生活支援体制の整備が必要です。一方、夫婦のみ世帯やその他世帯では「特になし」とする割合が高いものの、要介護度や認知症自立度の重度化に伴い、移送サービスや外出同行等の必要性が高まる傾向がみられ、世帯内に支援者がいても生活上の負担が増していく実態がうかがえます。

さらに、認知症自立度が高くなるほど、単身世帯・夫婦のみ世帯・その他世帯のいずれにおいても「特になし」の割合は低下し、移送サービスや外出同行、見守り等の必要性が高まる傾向があり、特に認知症自立度Ⅲ以上では、通院や買い物等の外出支援に加え、見守りや生活面の補完的支援の必要性が大きくなることから、認知症の進行に応じた地域支援体制を整備していかなければなりません。

4 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

4.1 集計・分析の狙い

- ここでは、在宅限界点の向上のための、将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討につなげるため、特に世帯類型別の「サービス利用の特徴」や「施設等検討の状況」に焦点を当てた集計を行っています。
- 具体的には、世帯類型別の「家族等による介護の頻度」、「サービス利用の組み合わせ」、「施設等検討の状況」などの分析を行います。
- 将来の高齢世帯の世帯タイプの構成は、地域ごとに異なりますので、それぞれ地域の実情に応じた支援・サービスの検討につなげていくことが重要となります。

4.2 集計結果と着目すべきポイント

(1) 基礎集計

- 「要介護度別の世帯類型の割合」および「世帯類型別の要介護度の割合」を集計しています（図表 4-1、図表 4-2）。
- 要介護度の重度化に伴う、世帯類型の変化などを確認してください。

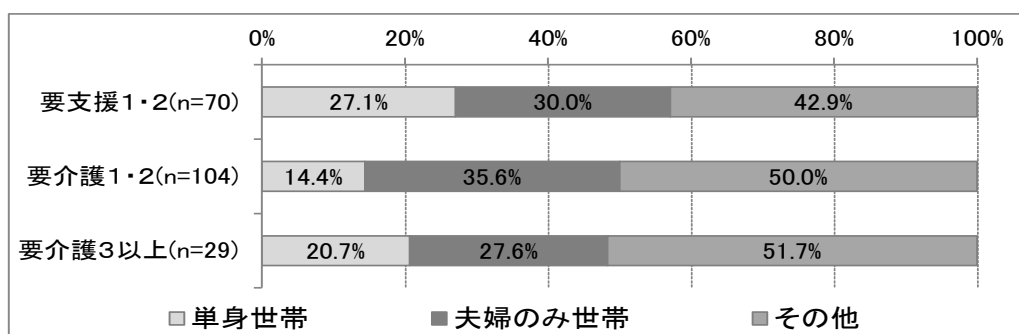
【要介護度別・世帯類型】

世帯類型を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「その他」が42.9%ともっとも割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」が30.0%、「単身世帯」が27.1%となっている。

「要介護１・２」では「その他」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」が35.6%、「単身世帯」が14.4%となっている。

「要介護３以上」では「その他」が51.7%ともっとも割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」が27.6%、「単身世帯」が20.7%となっている。

図表 4-1 要介護度別・世帯類型



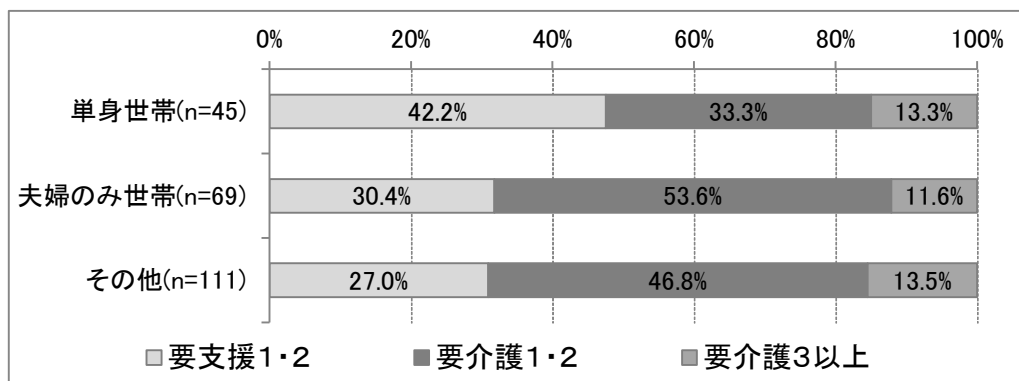
【世帯類型別・要介護度】

二次判定結果を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「要支援１・２」が42.2%と割合が高く、次いで「要介護１・２」が33.3%、「要介護３以上」が13.3%となっている。

「夫婦のみ世帯」では「要介護１・２」が53.6%ともっとも割合が高く、次いで「要支援１・２」が30.4%、「要介護３以上」が11.6%となっている。

「その他」では「要介護１・２」が46.8%ともっとも割合が高く、次いで「要支援１・２」が27.0%、「要介護３以上」が13.5%となっている。

図表 4-2 世帯類型別・要介護度



(2) 「要介護度別・世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」

【着目すべきポイント】

- 図表 4-3 では、「世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」の割合を集計しています。また、図表 4-4～図表 4-6 では、世帯類型別に「要介護度別」の「家族等による介護の頻度」を集計しています。
- 「単身世帯」については、同居の家族等はいなくても、近居の家族等による介護が行われているケースも多いと考えられます。中重度の単身世帯のうち、家族等の介護がない中で在宅生活を送っているケースがどの程度あるかなど、現状についてご確認ください。

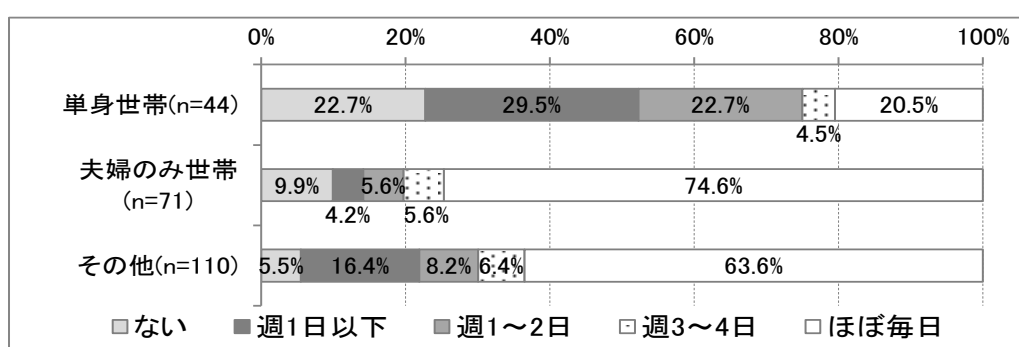
【世帯類型別・家族等による介護の頻度】

ご家族等の介護の頻度を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「週1日以下」が29.5%と最も割合が高く、次いで「ない」、 「週1～2日」が22.7%、「ほぼ毎日」が20.5%となっている。

「夫婦のみ世帯」では「ほぼ毎日」が74.6%と最も割合が高く、次いで「ない」が9.9%、「週1～2日」、「週3～4日」が5.6%となっている。

「その他」では「ほぼ毎日」が63.6%と最も割合が高く、次いで「週1日以下」が16.4%、「週1～2日」が8.2%となっている。

図表 4-3 世帯類型別・家族等による介護の頻度



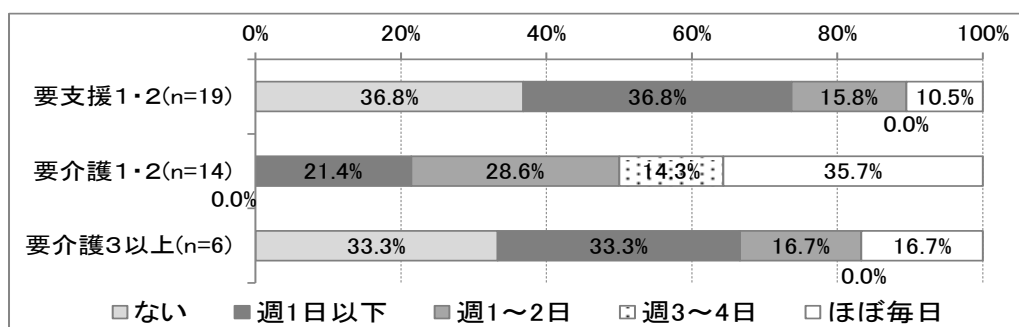
【要介護度別・家族等による介護の頻度(単身世帯)】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「ない」、「週1日以下」が36.8%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」が15.8%、「ほぼ毎日」が10.5%となっている。

「要介護1・2」では「ほぼ毎日」が35.7%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」が28.6%、「週1日以下」が21.4%となっている。

「要介護3以上」では「ない」、「週1日以下」が33.3%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」が33.3%、「ほぼ毎日」が16.7%、「週3～4日」が0.0%となっている。

図表 4-4 要介護度別・家族等による介護の頻度（単身世帯）



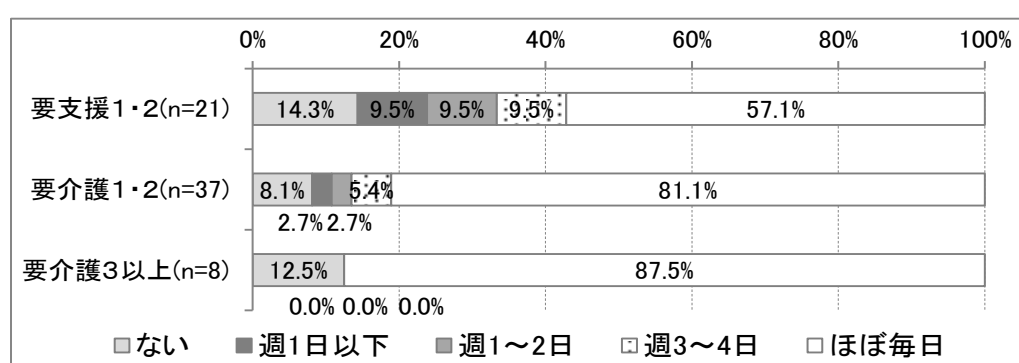
【要介護度別・家族等による介護の頻度(夫婦のみ世帯)】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「ほぼ毎日」が 57.1%と最も割合が高く、次いで「ない」が 14.3%、「週１日以下」、「週１～２日」、「週３～４日」が 9.5%となっている。

「要介護１・２」では「ほぼ毎日」が 81.1%と最も割合が高く、次いで「ない」が 8.1%、「週３～４日」が 5.4%となっている。

「要介護３以上」では「ほぼ毎日」が 87.5%と最も割合が高く、次いで「ない」が 12.5%、「週１日以下」、「週１～２日」、「週３～４日」が 0.0%となっている。

図表 4-5 要介護度別・家族等による介護の頻度（夫婦のみ世帯）



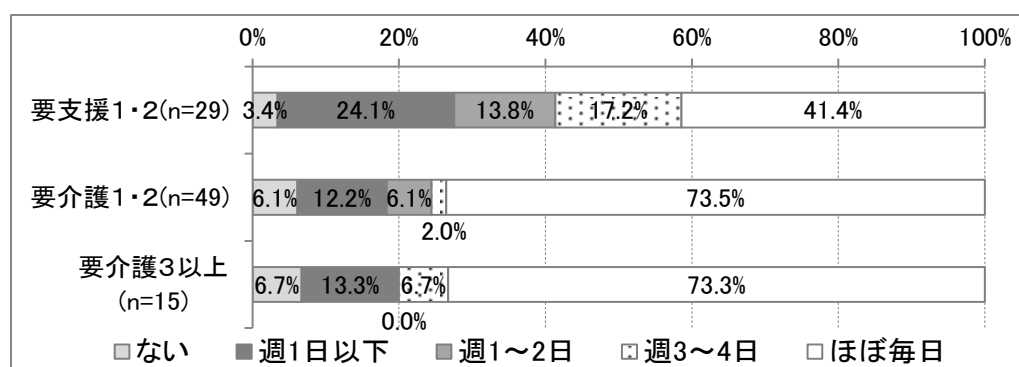
【要介護度別・家族等による介護の頻度(その他世帯)】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「ほぼ毎日」が 41.4%と最も割合が高く、次いで「週１日以下」が 24.1%、「週３～４日」が 17.2%となっている。

「要介護１・２」では「ほぼ毎日」が 73.5%と最も割合が高く、次いで「週１日以下」が 12.2%、「ない」、「週１～２日」が 6.1%となっている。

「要介護３以上」では「ほぼ毎日」が 73.3%と最も割合が高く、次いで「週１日以下」が 13.3%、「ない」、「週３～４日」が 6.7%となっている。

図表 4-6 要介護度別・家族等による介護の頻度（その他世帯）



(3) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」

【着目すべきポイント】

- 要介護度別・認知症自立度別の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」について、集計分析をしています（図表 4-7～図表 4-12）。
- サービス利用の組み合わせは、「訪問系のみ」のサービス利用と、レスパイト機能をもつ「通所系」および「短期系」のみのサービス利用、さらにその2つを組み合わせた「訪問系を含むサービス利用」の3種類（未利用除く）に簡略化したものを使用しています。
- 重度化に伴い、どのようなサービス利用の組み合わせが増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような組み合わせのサービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを、世帯類型別に把握することができます。
- また、世帯類型別の要介護者の増加に伴い、どのような「サービス利用の組み合わせ」のニーズが大きくなると考えられるかを推測することも可能になります。
- 例えば、特に今後「要介護度が中重度の単身世帯」が増加すると見込まれる場合は、単身世帯の要介護者が要介護度の重度化に伴いどのようなサービス利用の組み合わせを増加させているかに着目し、推測することなどが考えられます。

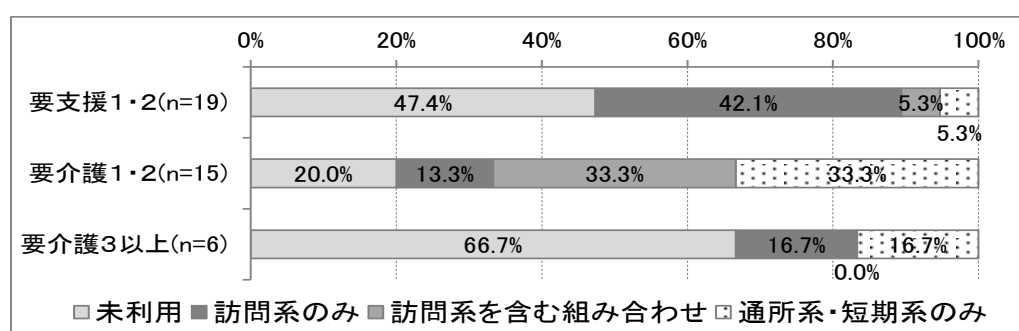
【要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「未利用」が47.4%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が42.1%、「訪問系を含む組み合わせ」、「通所系・短期系のみ」が5.3%となっている。

「要介護１・２」では「訪問系を含む組み合わせ」、「通所系・短期系のみ」が33.3%と最も割合が高く、次いで「未利用」が20.0%、「訪問系のみ」が13.3%となっている。

「要介護３以上」では「未利用」が66.7%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」、「通所系・短期系のみ」が16.7%、「訪問系を含む組み合わせ」が0.0%となっている。

図表 4-7 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



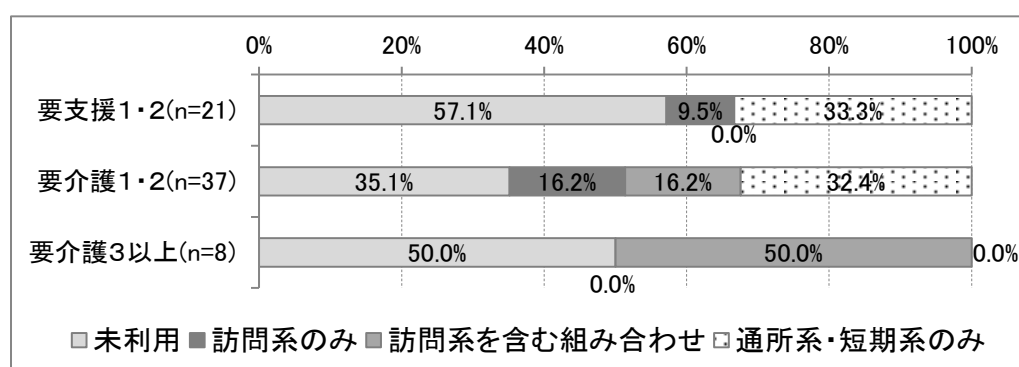
【要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「未利用」が57.1%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が33.3%、「訪問系のみ」が9.5%となっている。

「要介護１・２」では「未利用」が35.1%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が32.4%、「訪問系のみ」、「訪問系を含む組み合わせ」が16.2%となっている。

「要介護３以上」では「未利用」、「訪問系を含む組み合わせ」が50.0%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」、「通所系・短期系のみ」が0.0%となっている。

図表 4-8 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



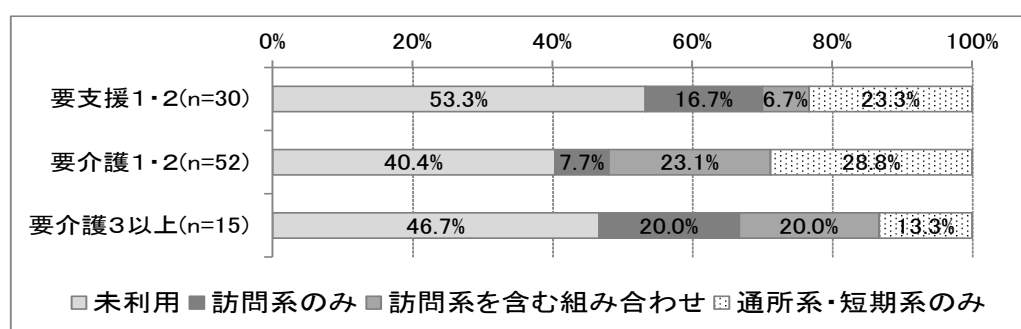
【要介護度別・サービス利用の組み合わせ(その他世帯)】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「未利用」が53.3%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が23.3%、「訪問系のみ」が16.7%となっている。

「要介護１・２」では「未利用」が40.4%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が28.8%、「訪問系を含む組み合わせ」が23.1%となっている。

「要介護３以上」では「未利用」が46.7%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」、「訪問系を含む組み合わせ」が20.0%、「通所系・短期系のみ」が13.3%となっている。

図表 4-9 要介護度別・サービス利用の組み合わせ(その他世帯)



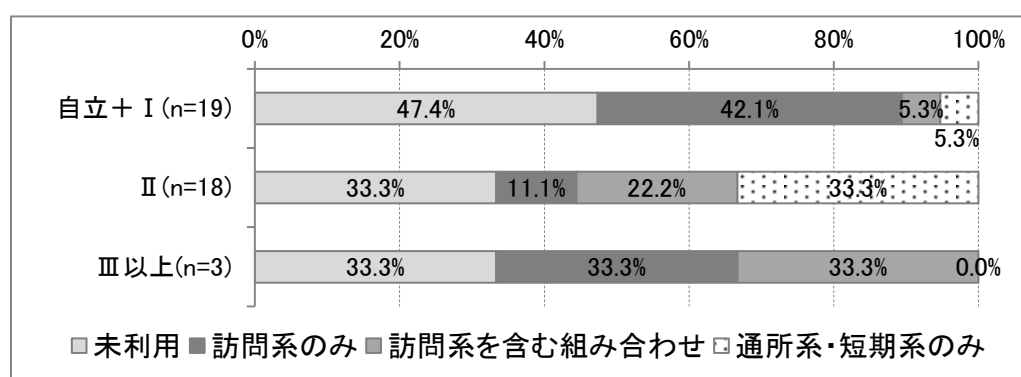
【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ(単身世帯)】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「未利用」が47.4%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が42.1%、「訪問系を含む組み合わせ」、「通所系・短期系のみ」が5.3%となっている。

「Ⅱ」では「未利用」、「通所系・短期系のみ」が33.3%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が22.2%、「訪問系のみ」が11.1%となっている。

「Ⅲ以上」では「未利用」、「訪問系のみ」、「訪問系を含む組み合わせ」が33.3%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が0.0%となっている。

図表 4-10 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ(単身世帯)



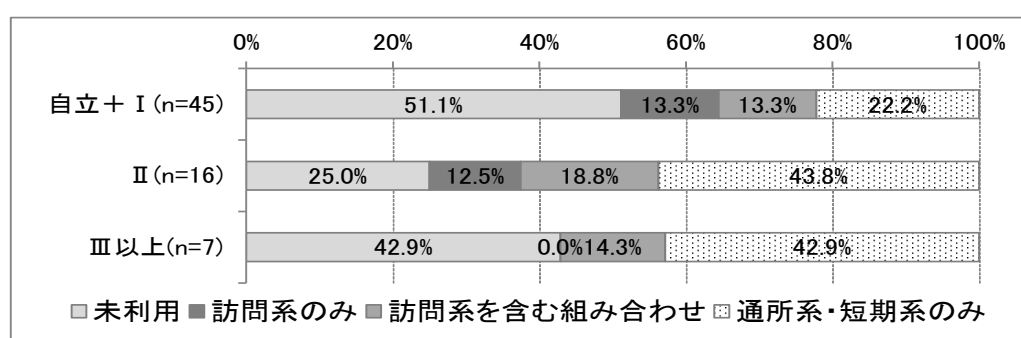
【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「未利用」が51.1%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が22.2%、「訪問系のみ」が13.3%、「訪問系を含む組み合わせ」が13.3%となっている。

「Ⅱ」では「通所系・短期系のみ」が43.8%と最も割合が高く、次いで「未利用」が25.0%、「訪問系を含む組み合わせ」が18.8%となっている。

「Ⅲ以上」では「未利用」、「通所系・短期系のみ」が42.9%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が14.3%、「訪問系のみ」が0.0%となっている。

図表 4-11 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



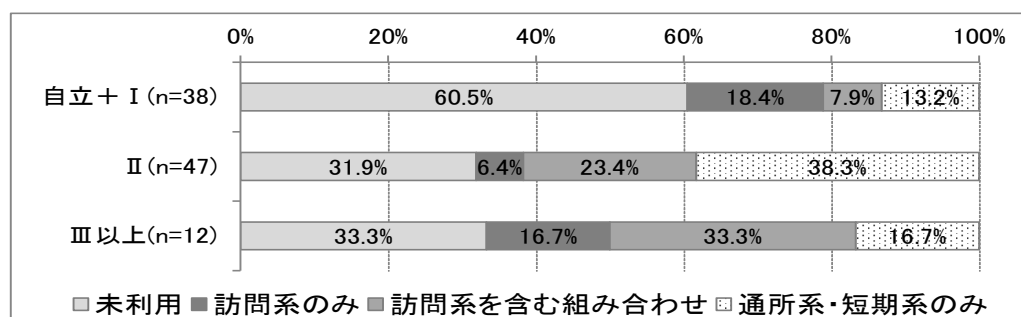
【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「未利用」が60.5%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が18.4%、「通所系・短期系のみ」が13.2%となっている。

「Ⅱ」では「通所系・短期系のみ」が38.3%と最も割合が高く、次いで「未利用」が31.9%、「訪問系を含む組み合わせ」が23.4%となっている。

「Ⅲ以上」では「未利用」、「訪問系を含む組み合わせ」が33.3%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」、「通所系・短期系のみ」が16.7%となっている。

図表 4-12 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）



(4) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」

【着目すべきポイント】

- ここでは、「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」について、集計分析をしています（図表 4-13～図表 4-19）。
- 「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「世帯類型」ごとの特徴を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。

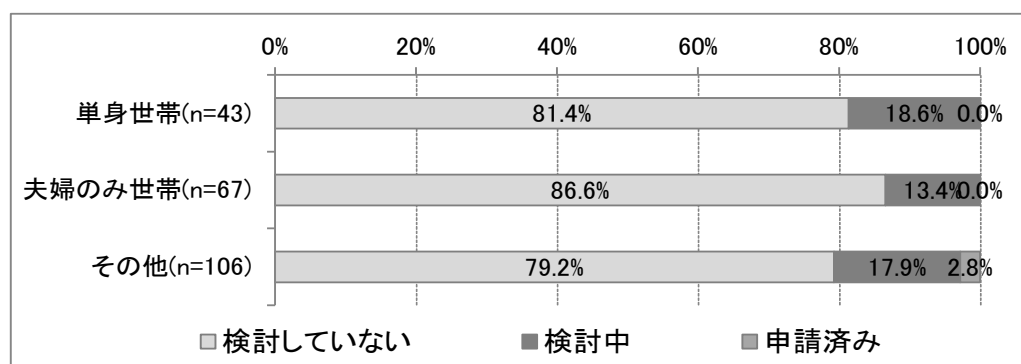
【世帯類型別・施設等検討の状況(全要介護度)】

施設等の検討状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「検討していない」が81.4%と最も割合が高く、次いで「検討中」が18.6%、「申請済み」が0.0%となっている。

「夫婦のみ世帯」では「検討していない」が86.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が13.4%、「申請済み」が0.0%となっている。

「その他」では「検討していない」が79.2%と最も割合が高く、次いで「検討中」が17.9%、「申請済み」が2.8%となっている。

図表 4-13 世帯類型別・施設等検討の状況（全要介護度）



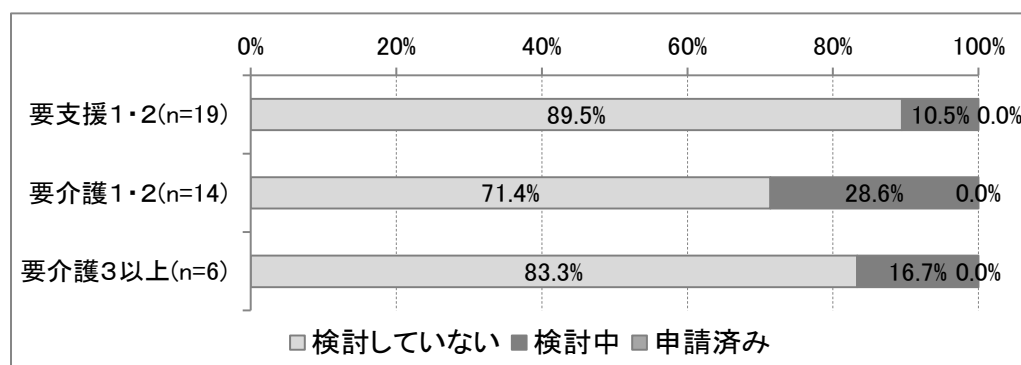
【要介護度別・施設等検討の状況(単身世帯)】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「検討していない」が89.5%と最も割合が高く、次いで「検討中」が10.5%、「申請済み」が0.0%となっている。

「要介護1・2」では「検討していない」が71.4%と最も割合が高く、次いで「検討中」が28.6%、「申請済み」が0.0%となっている。

「要介護3以上」では「検討していない」が83.3%と最も割合が高く、次いで「検討中」が16.7%、「申請済み」が0.0%となっている。

図表 4-14 要介護度別・施設等検討の状況（単身世帯）



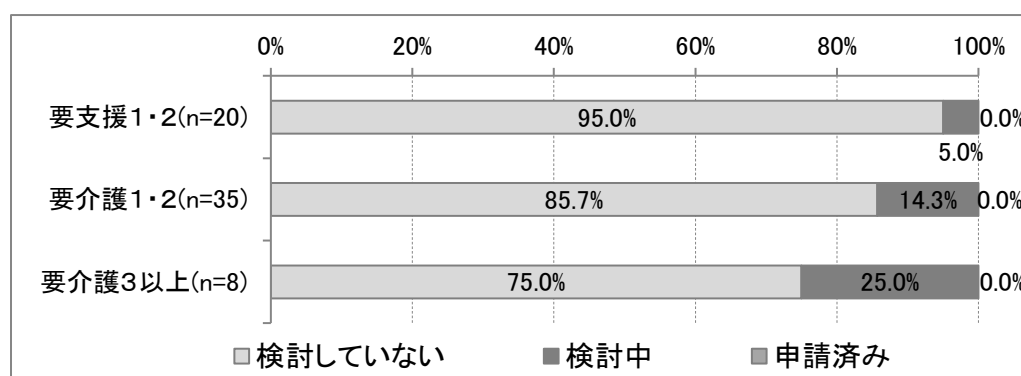
【要介護度別・施設等検討の状況(夫婦のみ世帯)】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「検討していない」が95.0%と最も割合が高く、「検討中」が5.0%、「申請済み」が0.0%となっている。

「要介護１・２」では「検討していない」が85.7%と最も割合が高く、次いで「検討中」が14.3%、「申請済み」が0.0%となっている。

「要介護３以上」では「検討していない」が75.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が25.0%、「申請済み」が0.0%となっている。

図表 4-15 要介護度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）



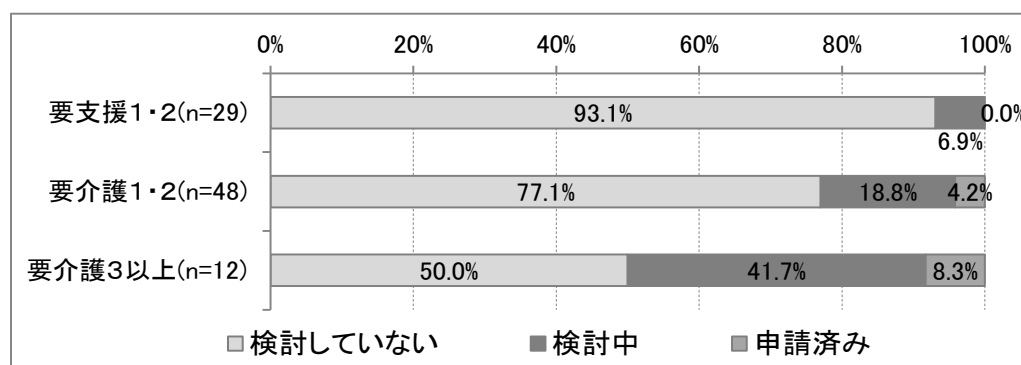
【要介護度別・施設等検討の状況(その他世帯)】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「検討していない」が93.1%と最も割合が高く、「検討中」が6.9%、「申請済み」が0.0%となっている。

「要介護１・２」では「検討していない」が77.1%と最も割合が高く、次いで「検討中」が18.8%、「申請済み」が4.2%となっている。

「要介護３以上」では「検討していない」が50.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が41.7%、「申請済み」が8.3%となっている。

図表 4-16 要介護度別・施設等検討の状況（その他世帯）



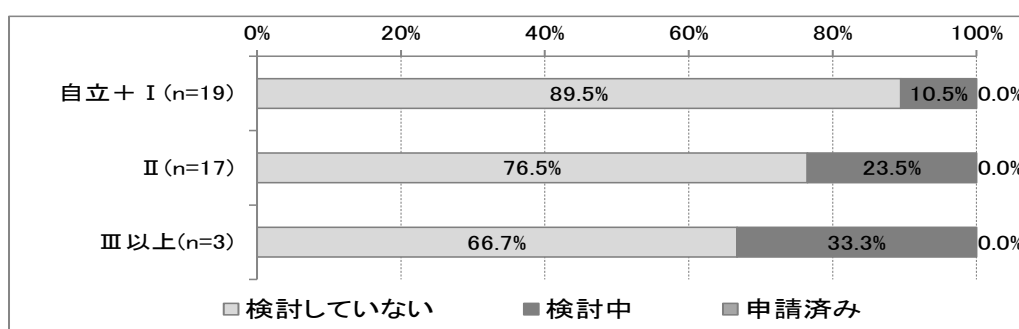
【認知症自立度別・施設等検討の状況(単身世帯)】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「検討していない」が89.5%と最も割合が高く、次いで「検討中」が10.5%、「申請済み」が0.0%となっている。

「Ⅱ」では「検討していない」が76.5%と最も割合が高く、次いで「検討中」が23.5%、「申請済み」が0.0%となっている。

「Ⅲ以上」では「検討していない」が66.7%と最も割合が高く、次いで「検討中」が33.3%、「申請済み」が0.0%となっている。

図表 4-17 認知症自立度別・施設等検討の状況（単身世帯）



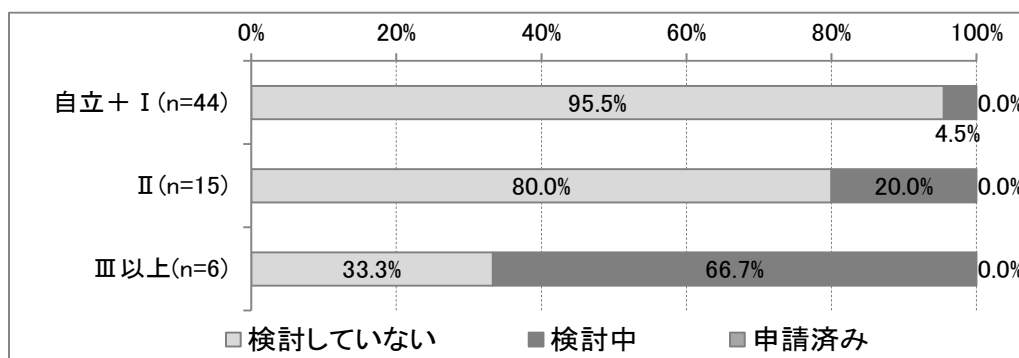
【認知症自立度別・施設等検討の状況(夫婦のみ世帯)】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「検討していない」が95.5%と最も割合が高く、次いで「検討中」が4.5%、「申請済み」が0.0%となっている。

「Ⅱ」では「検討していない」が80.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が20.0%、「申請済み」が0.0%となっている。

「Ⅲ以上」では「検討中」が66.7%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が33.3%、「申請済み」が0.0%となっている。

図表 4-18 認知症自立度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）



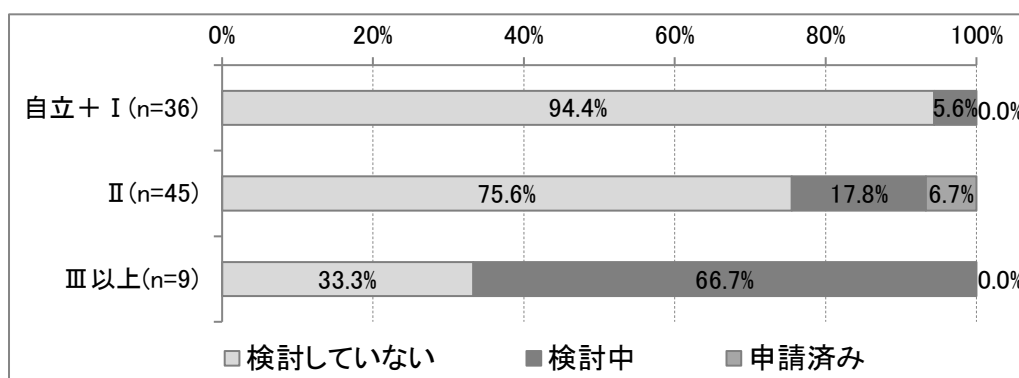
【認知症自立度別・施設等検討の状況(その他の世帯)】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「検討していない」が94.4%と最も割合が高く、次いで「検討中」が5.6%、「申請済み」が0.0%となっている。

「Ⅱ」では「検討していない」が75.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が17.8%、「申請済み」が6.7%となっている。

「Ⅲ以上」では「検討中」が66.7%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が33.3%、「申請済み」が0.0%となっている。

図表 4-19 認知症自立度別・施設等検討の状況（その他の世帯）



4.3 考察

世帯類型別にみると、単身世帯では家族等による介護の頻度が「ない」または「週 1 日以下」の割合が比較的高く、家族支援に依存しにくい生活実態がうかがえます。一方、夫婦のみ世帯やその他世帯では「ほぼ毎日」の介護が多く、同居または近居の家族等による支援が在宅生活を支えている状況がみられます。今後、単身世帯や高齢夫婦のみ世帯の増加が見込まれる中では、見守り、生活支援、移動支援、緊急時対応などを組み合わせた支援体制を整備する必要があります。

サービス利用の組み合わせをみると、単身世帯では要介護度や認知症自立度が高くなっても未利用の割合が一定程度みられる一方、夫婦のみ世帯やその他世帯では、認知症自立度の上昇に伴い通所系・短期系のみ、または訪問系を含む組み合わせの利用が増える傾向がみられます。特に、認知症自立度Ⅲ以上では、世帯類型にかかわらず施設等を検討する割合が高まっており、認知症の進行が在宅生活継続の大きな分岐点になっていると考えられます。

施設等検討の状況では、全体として「検討していない」が多数を占めるものの、要介護度が上がるほど、また認知症自立度が高くなるほど「検討中」の割合が上昇しています。単身世帯では家族等の介護が少ない中で在宅生活を続けているため、本人の状態悪化や支援者不在により急速に在宅継続が困難となる危険性があります。夫婦のみ世帯では、配偶者による介護負担の増大や老老介護の進行により、重度化した時に支援ニーズが発生するものと想定されます。

今後は、単身世帯には見守り・生活支援・移送支援を、夫婦のみ世帯には介護者負担の軽減やレスパイト支援を、その他世帯には家族介護を補完する訪問系・通所系サービスを適切に組み合わせるなど、世帯類型や要介護度・認知症自立度に合った、きめ細かな支援体制を構築していく必要があります。

5 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討

5.1 集計・分析の狙い

- ここでは、医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの検討につなげるための集計を行います。
- 具体的には、世帯類型別・要介護度別の「主な介護者が行っている介護」や「訪問診療の利用の有無」、「訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ」などの分析を行います。

5.2 集計結果と着目すべきポイント

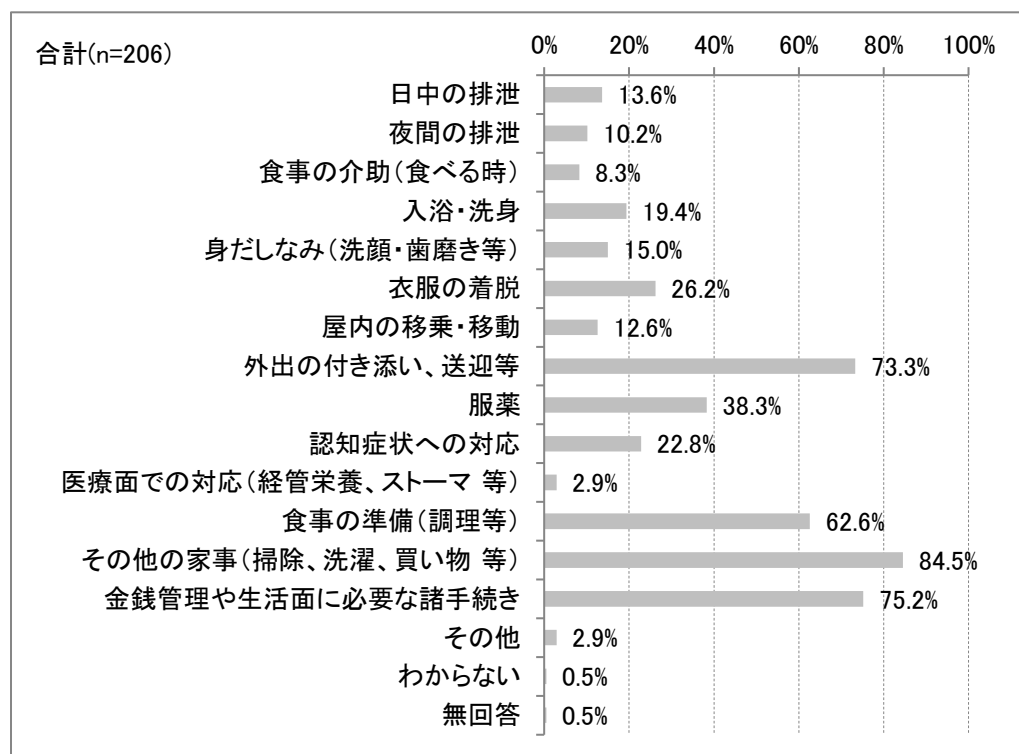
(1) 基礎集計

- 「主な介護者が行っている介護」について、要介護度別・世帯類型別の集計を行っています（図表 5-1～図表 5-3）。
- ここでは、特に「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」に着目し、家族等の主な介護者が「医療面での対応」を行っている割合を把握することができます。

【★主な介護者が行っている介護】

「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」の割合が最も高く 84.5%となっている。次いで、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き（75.2%）」、「外出の付き添い、送迎等（73.3%）」となっている。

図表 5-1 ★主な介護者が行っている介護



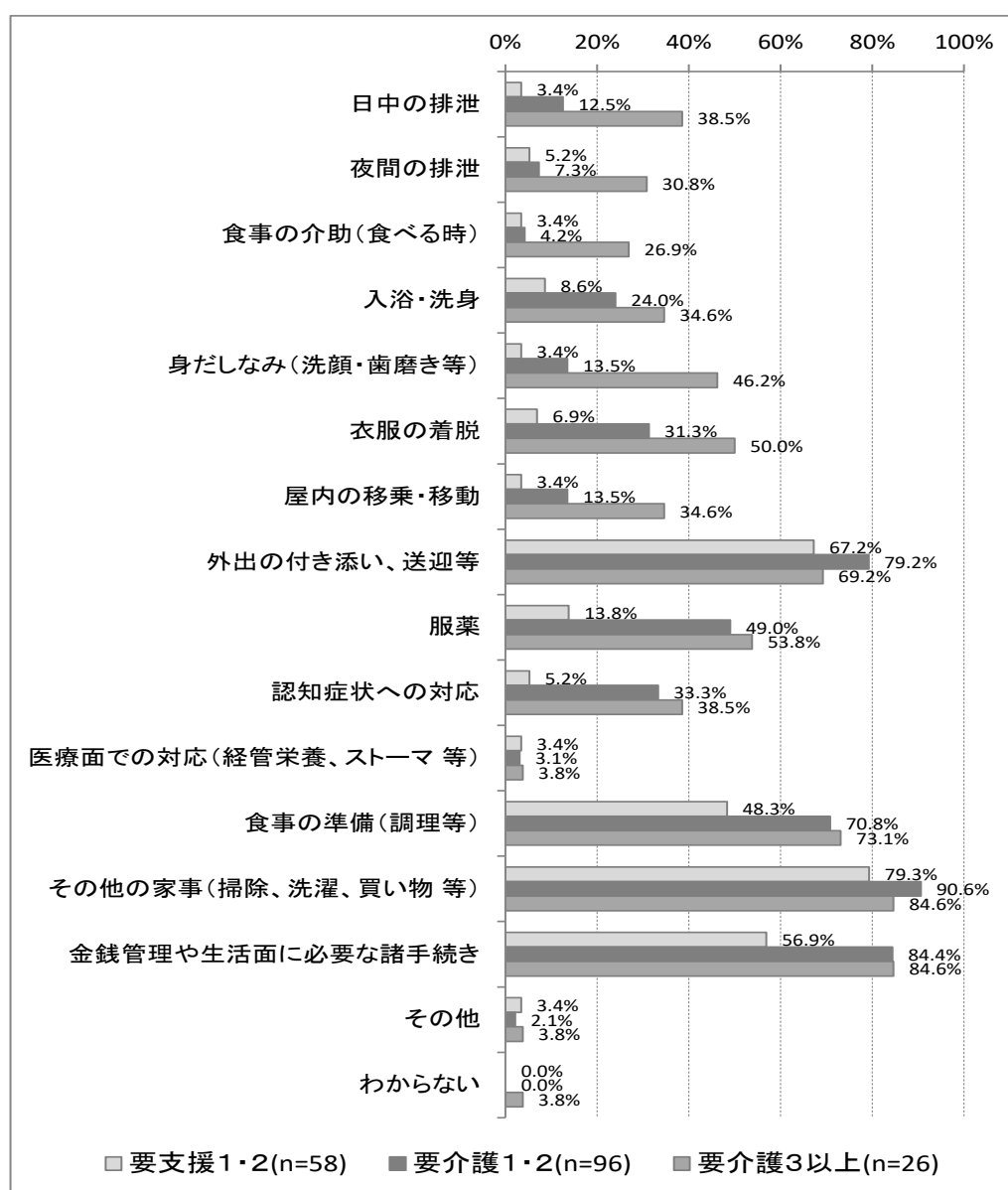
【要介護度別・★主な介護者が行っている介護】

介護者が行っている介護を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が 79.3% ともっとも割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が 67.2%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 56.9% となっている。

「要介護１・２」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が 90.6% ともっとも割合が高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 84.4%、「外出の付き添い、送迎等」が 79.2% となっている。

「要介護３以上」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 84.6% ともっとも割合が高く、次いで「食事の準備（調理等）」が 73.1%、「外出の付き添い、送迎等」が 69.2% となっている。

図表 5-2 要介護度別・★主な介護者が行っている介護



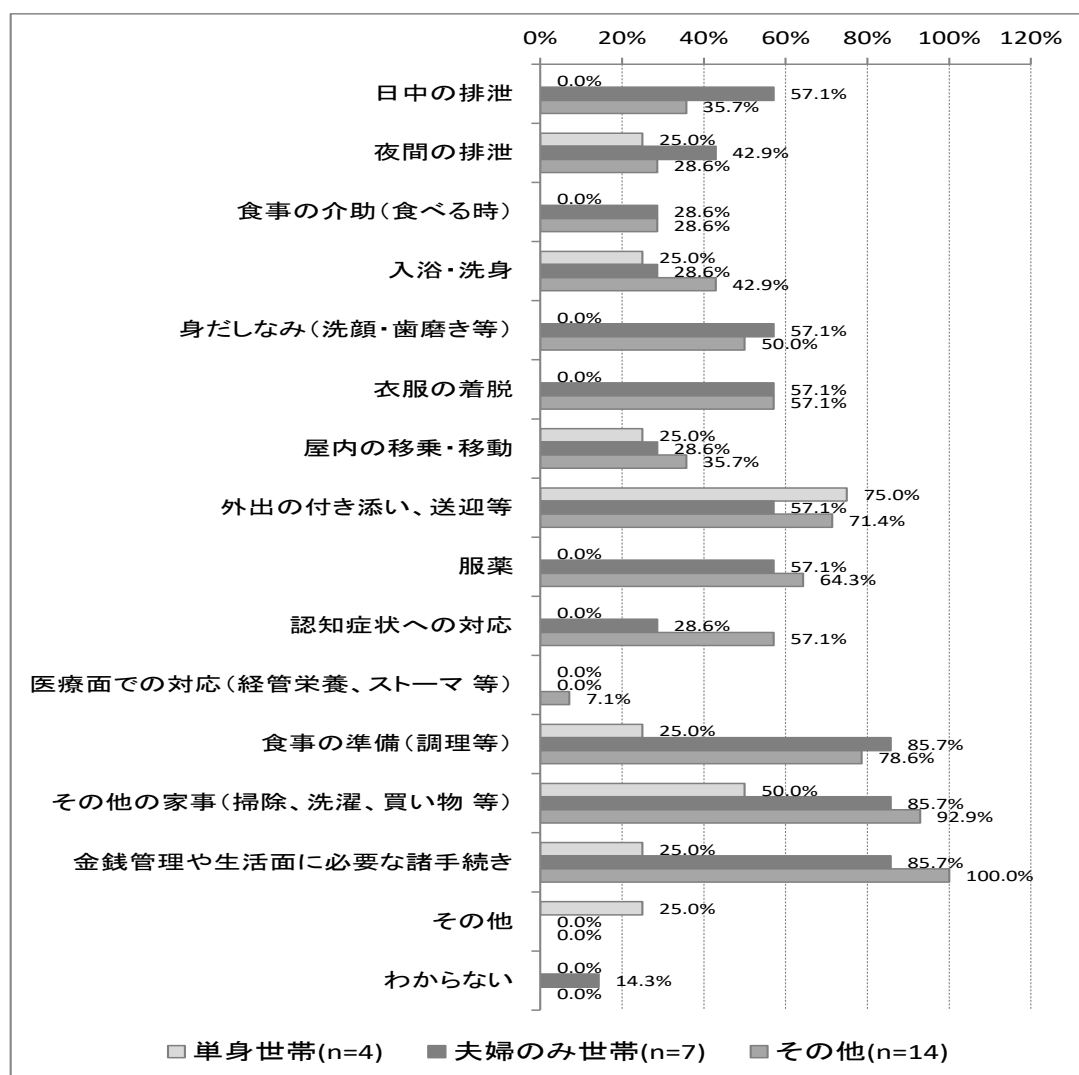
【世帯類型別・★主な介護者が行っている介護(要介護3以上)】

介護者が行っている介護を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「外出の付き添い、送迎等」が75.0%と最も割合が高く、次いで「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が50.0%、「夜間の排泄」、「入浴・洗身」、「屋内の移乗・移動」、「食事の準備（調理等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」、「その他」が25.0%となっている。

「夫婦のみ世帯」では「食事の準備（調理等）」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が85.7%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」、「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」、「衣服の着脱」、「外出の付き添い、送迎等」、「服薬」が57.1%、「夜間の排泄」が42.9%となっている。

「その他」では「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が100.0%と最も割合が高く、次いで「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が92.9%、「食事の準備（調理等）」が78.6%となっている。

図表 5-3 世帯類型別・★主な介護者が行っている介護（要介護3以上）



(2) 訪問診療の利用割合

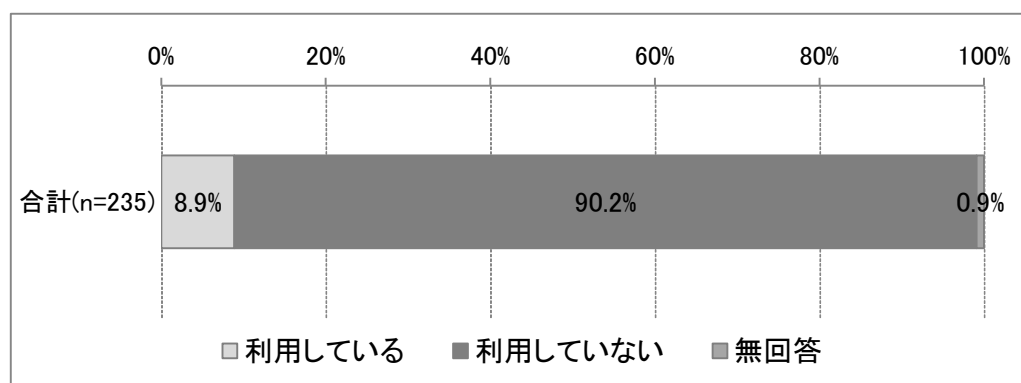
【着目すべきポイント】

- 「訪問診療の利用の有無」について、世帯類型別・要介護度別の集計を行っています（図表 5-4～図表 5-6）。
- 特に、「要介護度別の訪問診療の利用割合」を「将来の要介護度別の在宅療養者数」に乘じることによって、「将来の在宅における訪問診療の利用者数」の粗推計を行うことも可能です。

【★訪問診療の利用の有無】

「利用していない」の割合が最も高く 90.2%となっている。次いで、「利用している(8.9%)」となっている。

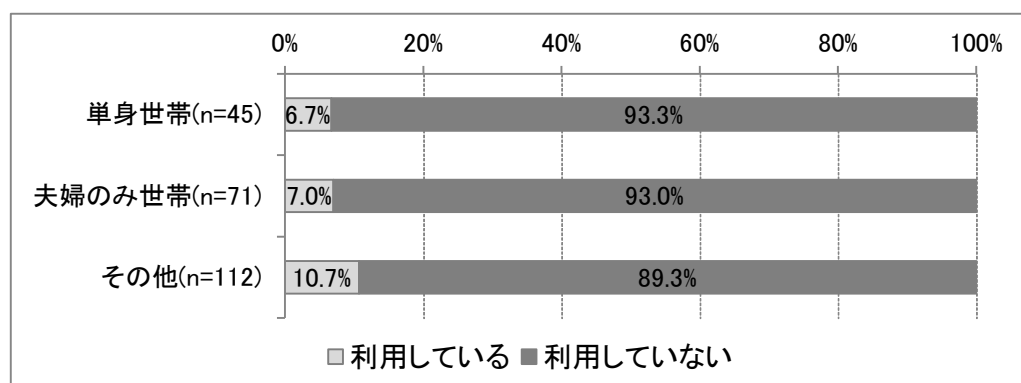
図表 5-4 ★訪問診療の利用の有無



【世帯類型別・★訪問診療の利用割合】

訪問診療の利用の有無を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「利用していない」が 93.3%と最も割合が高く、次いで「利用している」が 6.7%となっている。「夫婦のみ世帯」では「利用していない」が 93.0%と最も割合が高く、次いで「利用している」が 7.0%となっている。「その他」では「利用していない」が 89.3%と最も割合が高く、次いで「利用している」が 10.7%となっている。

図表 5-5 世帯類型別・★訪問診療の利用割合



【要介護度別・★訪問診療の利用割合】

訪問診療の利用の有無を二次判定結果別にみると、「要支援1」では「利用していない」が97.4%と最も割合が高く、次いで「利用している」が2.6%となっている。

「要支援2」では「利用していない」が100.0%と最も割合が高く、次いで「利用している」が0.0%となっている。

「要介護1」では「利用していない」が94.9%と最も割合が高く、次いで「利用している」が5.1%となっている。

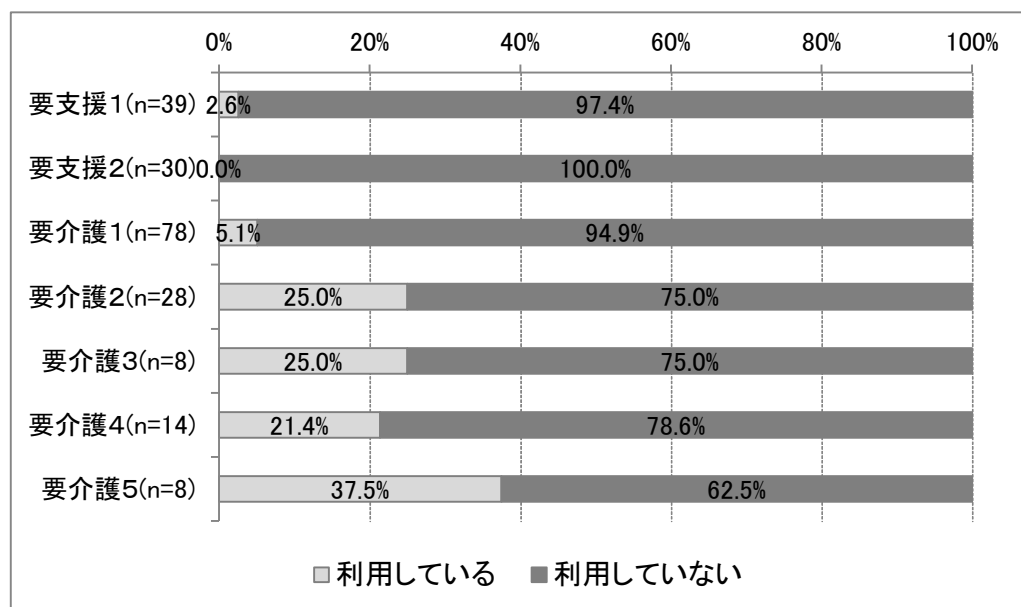
「要介護2」では「利用していない」が75.0%と最も割合が高く、次いで「利用している」が25.0%となっている。

「要介護3」では「利用していない」が75.0%と最も割合が高く、次いで「利用している」が25.0%となっている。

「要介護4」では「利用していない」が78.6%と最も割合が高く、次いで「利用している」が21.4%となっている。

「要介護5」では「利用していない」が62.5%と最も割合が高く、次いで「利用している」が37.5%となっている。

図表 5-6 要介護度別・★訪問診療の利用割合



(3) 訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ

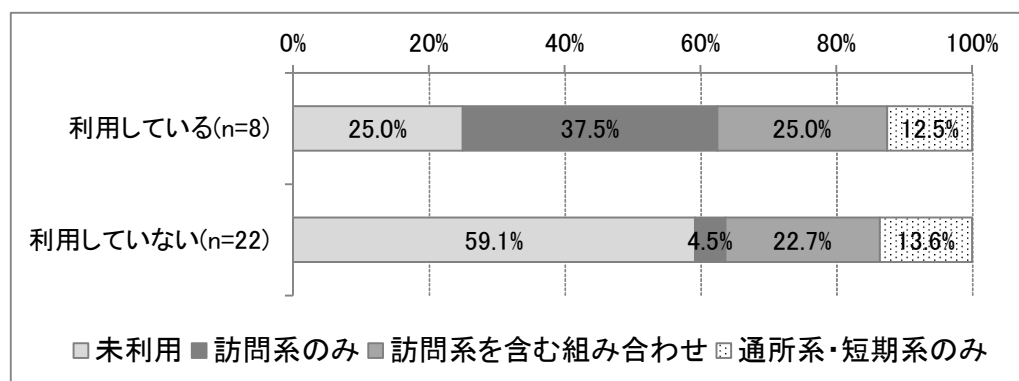
【着目すべきポイント】

- 訪問診療の利用の有無別に、要介護３以上の「サービス利用の組み合わせ」を集計しています（図表 5-7）。
- 特に、今後在宅で療養生活を送る医療ニーズの高い中重度の要介護者の増加が見込まれる地域では、今後どのようなサービスに対する利用ニーズが高まるかを予測することにもつながります。

【★訪問診療の利用の有無別・サービス利用の組み合わせ(要介護3以上)】

サービス利用の組み合わせを訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「訪問系のみ」が37.5%と最も割合が高く、次いで「未利用」、「訪問系を含む組み合わせ」が25.0%、「通所系・短期系のみ」が12.5%となっている。「利用していない」では「未利用」が59.1%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が22.7%、「通所系・短期系のみ」が13.6%となっている。

図表 5-7 ★訪問診療の利用の有無別・サービス利用の組み合わせ（要介護3以上）



(4) 訪問診療の利用の有無別の訪問系・通所系・短期系サービスの利用の有無

【着目すべきポイント】

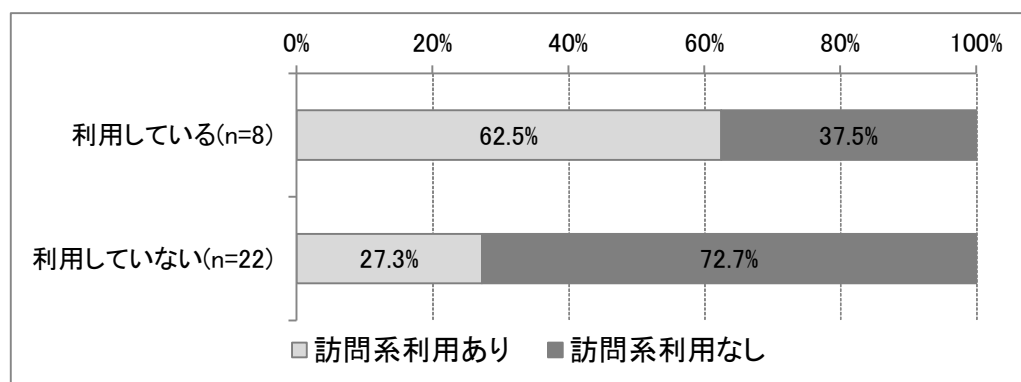
- 訪問診療の利用の有無別に、要介護3以上について、訪問系・通所系・短期系のそれぞれのサービス利用の有無を集計しています（図表 5-8～図表 5-10）。
- 地域によっては、例えば「医療ニーズの高い要介護者」の受け入れが可能なショートステイが十分に整っていない場合に、訪問診療の利用の有無で短期系の利用割合が大きく異なることも想定されます。

【★訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（訪問系、要介護3以上）】

訪問系の利用の有無を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「訪問系利用あり」が62.5%と最も割合が高く、次いで「訪問系利用なし」が37.5%となっている。

「利用していない」では「訪問系利用なし」が72.7%と最も割合が高く、次いで「訪問系利用あり」が27.3%となっている。

図表 5-8 ★訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（訪問系、要介護3以上）

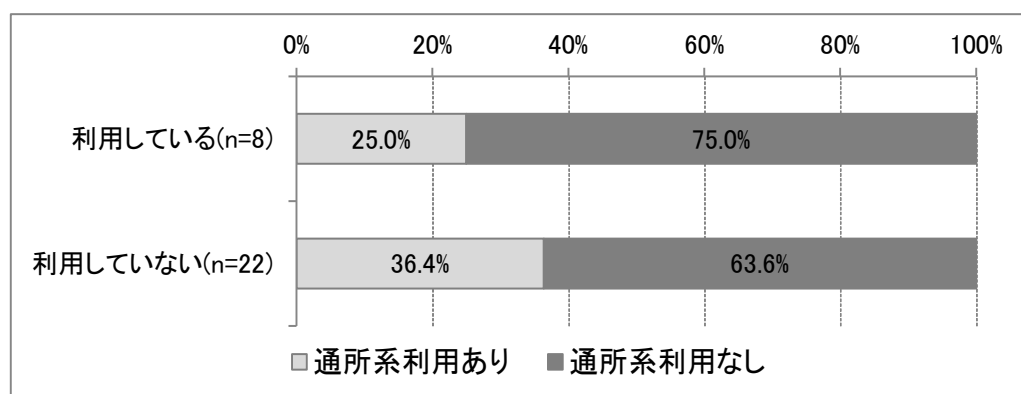


【★訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無(通所系、要介護3以上)】

通所系の利用の有無（定期巡回を除く）を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「通所系利用なし」が75.0%と最も割合が高く、次いで「通所系利用あり」が25.0%となっている。

「利用していない」では「通所系利用なし」が63.6%と最も割合が高く、次いで「通所系利用あり」が36.4%となっている。

図表 5-9 ★訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（通所系、要介護3以上）

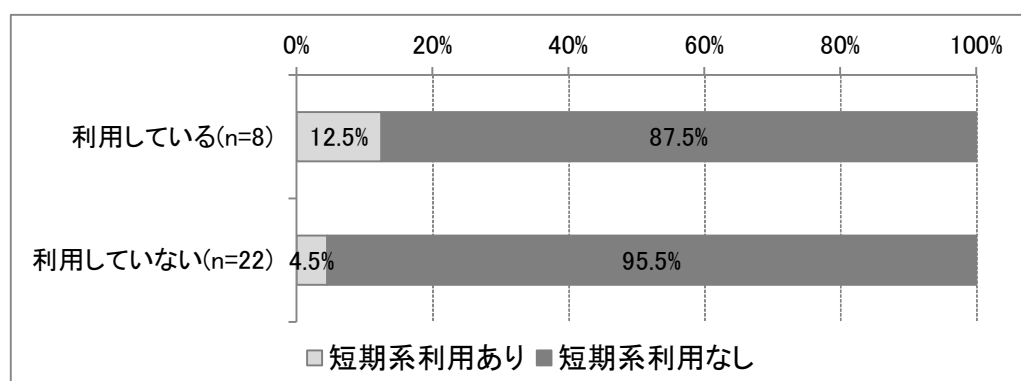


【★訪問診療の利用の有無別・サービス利用の有無(短期系、要介護3以上)】

短期系の利用の有無（定期巡回を除く）を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「短期系利用なし」が87.5%と最も割合が高く、次いで「短期系利用あり」が12.5%となっている。

「利用していない」では「短期系利用なし」が95.5%と最も割合が高く、次いで「短期系利用あり」が4.5%となっている。

図表 5-10 ★訪問診療の利用の有無別・サービス利用の有無（短期系、要介護3以上）



5.3 考察

主な介護者が行っている介護をみると、全体では家事、金銭管理や生活面に必要な諸手続き、外出の付き添い・送迎等の割合が高く、在宅療養者を支えるうえでは、身体介護だけでなく日常生活全般を支える家族介護の負担が大きいことがうかがえます。要介護度が高くなると、食事の準備、排泄、服薬、移乗・移動など、より継続的で専門性を要する支援の必要性が高まるため、家族介護だけに依存せず、訪問介護、訪問看護、通所系サービス等を組み合わせた支援体制を整備する必要があります。

訪問診療の利用割合は全体では少数にとどまるものの、要介護度が上がるほど利用割合が高くなっており、特に要介護5では訪問診療を利用している割合が相対的に高くなっています。このことから、医療ニーズの高い在宅療養者は、要介護度の重度化に伴って増加することが想定され、今後は訪問診療を中心に、訪問看護、訪問介護、薬剤管理、緊急時対応等を一体的に提供できる体制の確保が重要となってきます。

訪問診療を利用している要介護3以上の人では、訪問系サービスの利用割合が高く、医療と介護の連携が在宅療養の継続に重要な役割を果たしていると考えられますが、一方で、訪問診療を利用していても短期系サービスの利用は少ない状況となっています。介護者の負担軽減や急変時の対応を見据えると、医療的ケアに対応できる短期系サービス、緊急時の相談・受入体制、在宅医療と介護サービス間の情報共有を強化していくことが求められます。

医療ニーズの高い在宅療養者を支えるためには、地域差を踏まえた提供体制の構築が必要です。在宅医療・介護連携の推進に加え、訪問診療、訪問看護、訪問介護、通所系・短期系サービス、地域包括支援センター等が連携し、本人の状態変化に応じて切れ目なく支援できる体制を整備することが重要です。あわせて、家族介護者が医療的対応や生活支援を抱え込みすぎないように、相談支援、レスパイト支援、緊急時対応の充実を図ることが、在宅療養の継続に向けた重要な取組になると考えられます。

6 サービス未利用の理由など

6.1 集計・分析の狙い

- ここでは、各地域において支援・サービスの提供体制の構築を含む各種の取組を検討する際に、参考になると考えられるいくつかの集計結果を整理しています。
- 主要なデータは、テーマ1～テーマ5において整理をしていますが、ここで整理する集計結果も必要に応じてご活用ください。

6.2 集計結果（参考）

(1) 要介護度別・世帯類型別のサービス未利用の理由

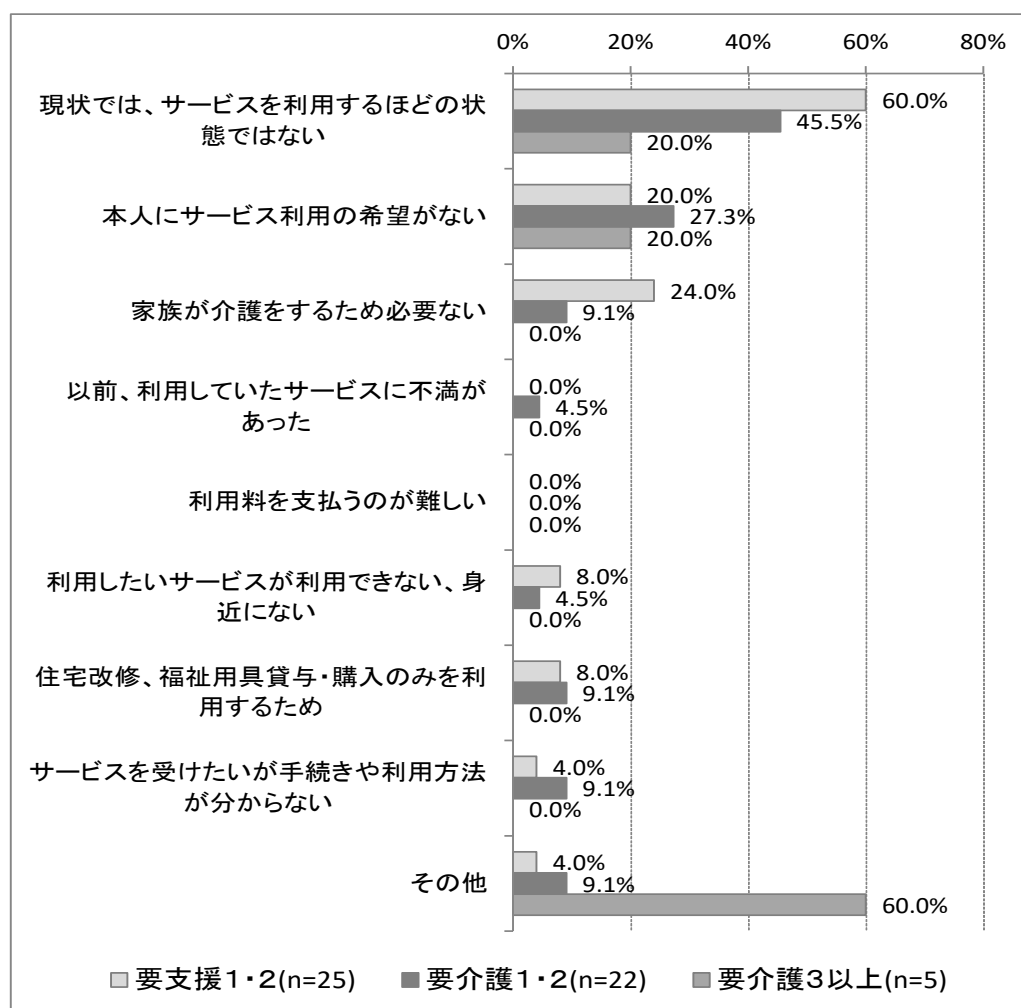
【要介護度別の★サービス未利用の理由】

未利用の理由を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が60.0%と最も割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が24.0%、「本人にサービス利用の希望がない」が20.0%となっている。

「要介護１・２」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が45.5%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が27.3%、「家族が介護をするため必要ない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」、「その他」が9.1%となっている。

「要介護３以上」では「その他」が60.0%と最も割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「本人にサービス利用の希望がない」が20.0%、その他の項目はすべて0.0%となっている。

図表 6-1 要介護度別の★サービス未利用の理由



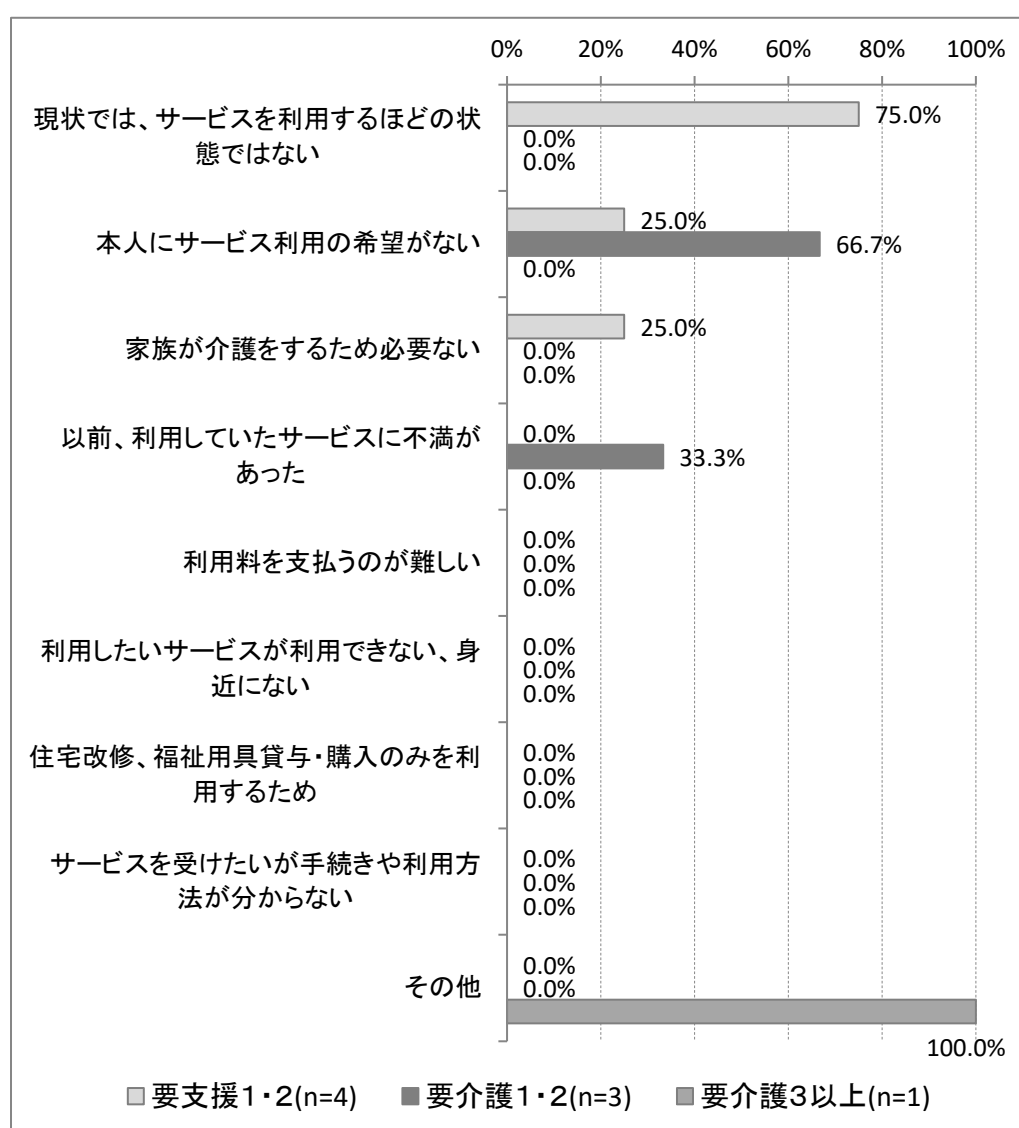
【要介護度別の★サービス未利用の理由(単身世帯)】

未利用の理由を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が75.0%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」、「家族が介護をするため必要ない」が25.0%、その他の項目はすべて0.0%となっている。

「要介護1・2」では「本人にサービス利用の希望がない」が66.7%と最も割合が高く、次いで「以前、利用していたサービスに不満があった」が33.3%、その他の項目はすべて0.0%となっている。

「要介護3以上」では「その他」が100.0%となっている。

図表 6-2 要介護度別の★サービス未利用の理由(単身世帯)



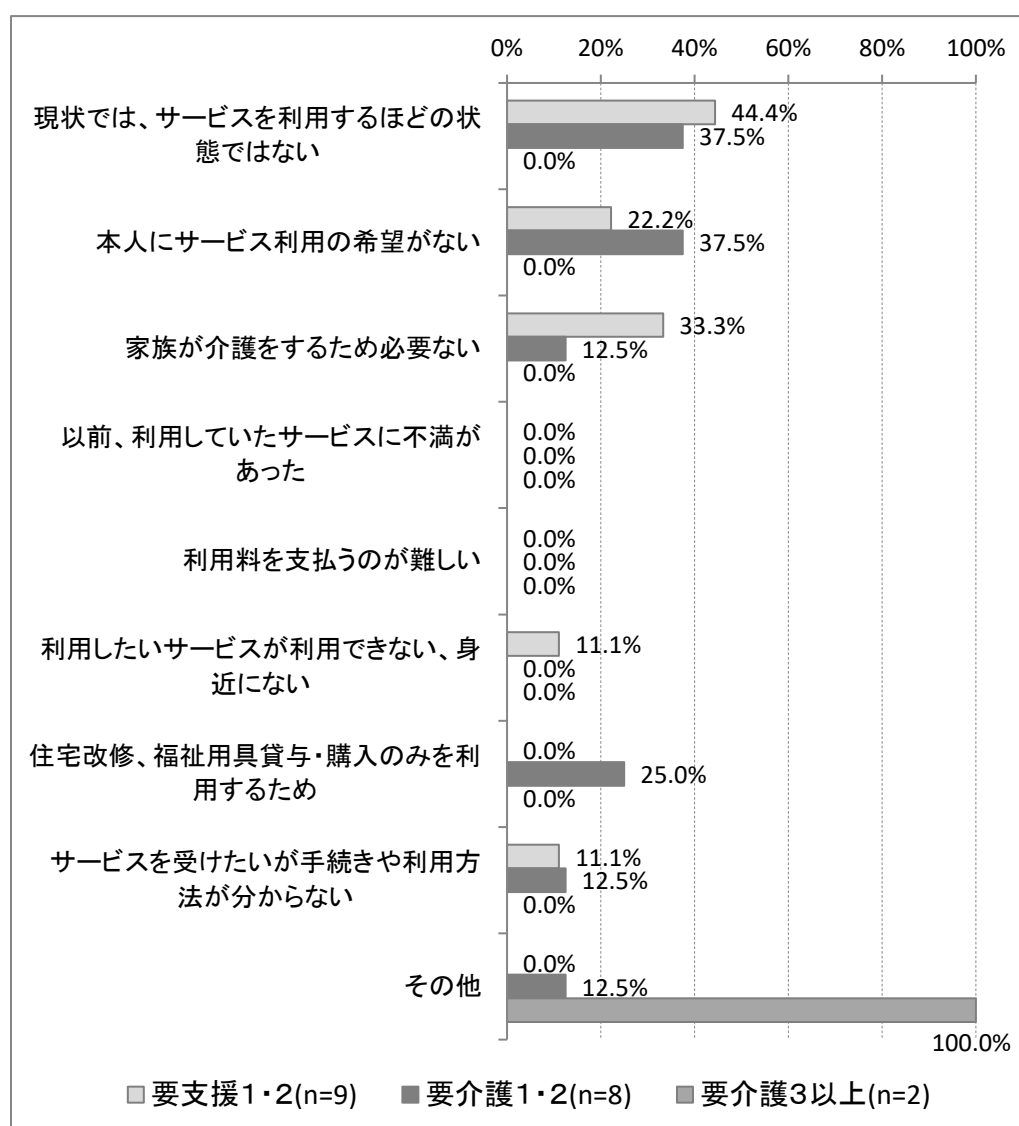
【要介護度別の★サービス未利用の理由(夫婦のみ世帯)】

未利用の理由を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が44.4%と最も割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が33.3%、「本人にサービス利用の希望がない」が22.2%となっている。

「要介護1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「本人にサービス利用の希望がない」が37.5%と最も割合が高く、次いで「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が25.0%、「家族が介護をするため必要ない」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」、「その他」が12.5%となっている。

「要介護3以上」では「その他」が100.0%となっています。

図表 6-3 要介護度別の★サービス未利用の理由（夫婦のみ世帯）



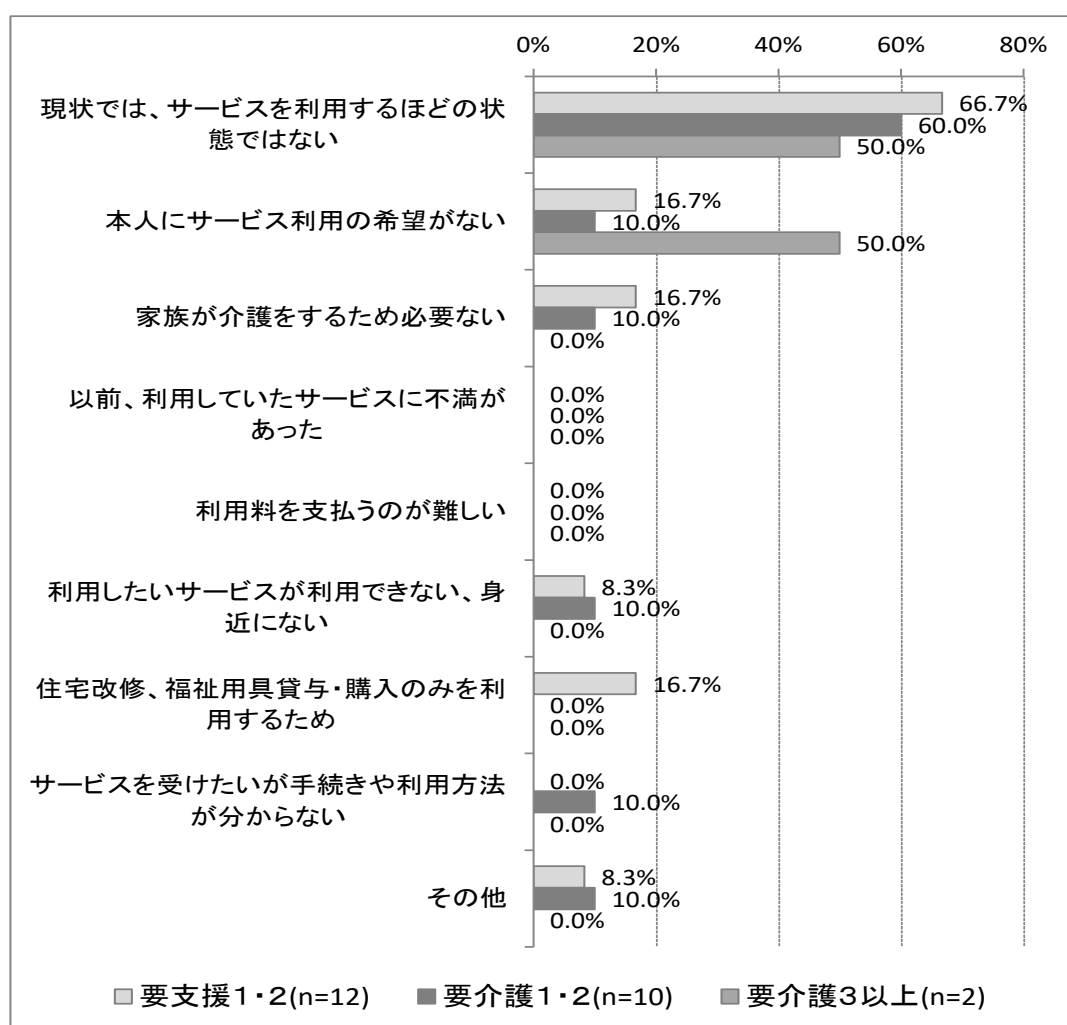
【要介護度別の★サービス未利用の理由(その他世帯)】

未利用の理由を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が66.7%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」、「家族が介護をするため必要ない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が16.7%、「利用したいサービスが利用できない、身近にない」、「その他」が8.3%となっている。

「要介護1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が60.0%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」、「家族が介護をするため必要ない」、「利用したいサービスが利用できない、身近にない」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」、「その他」が10.0%、その他の項目はすべて0.0%となっている。

「要介護3以上」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、及び「本人にサービス利用の希望がない」が50.0%と最も割合が高く、その他の項目はすべて0.0%となっている。

図表 6-4 要介護度別の★サービス未利用の理由(その他世帯)



(2) 認知症自立度別・世帯類型別のサービス未利用の理由

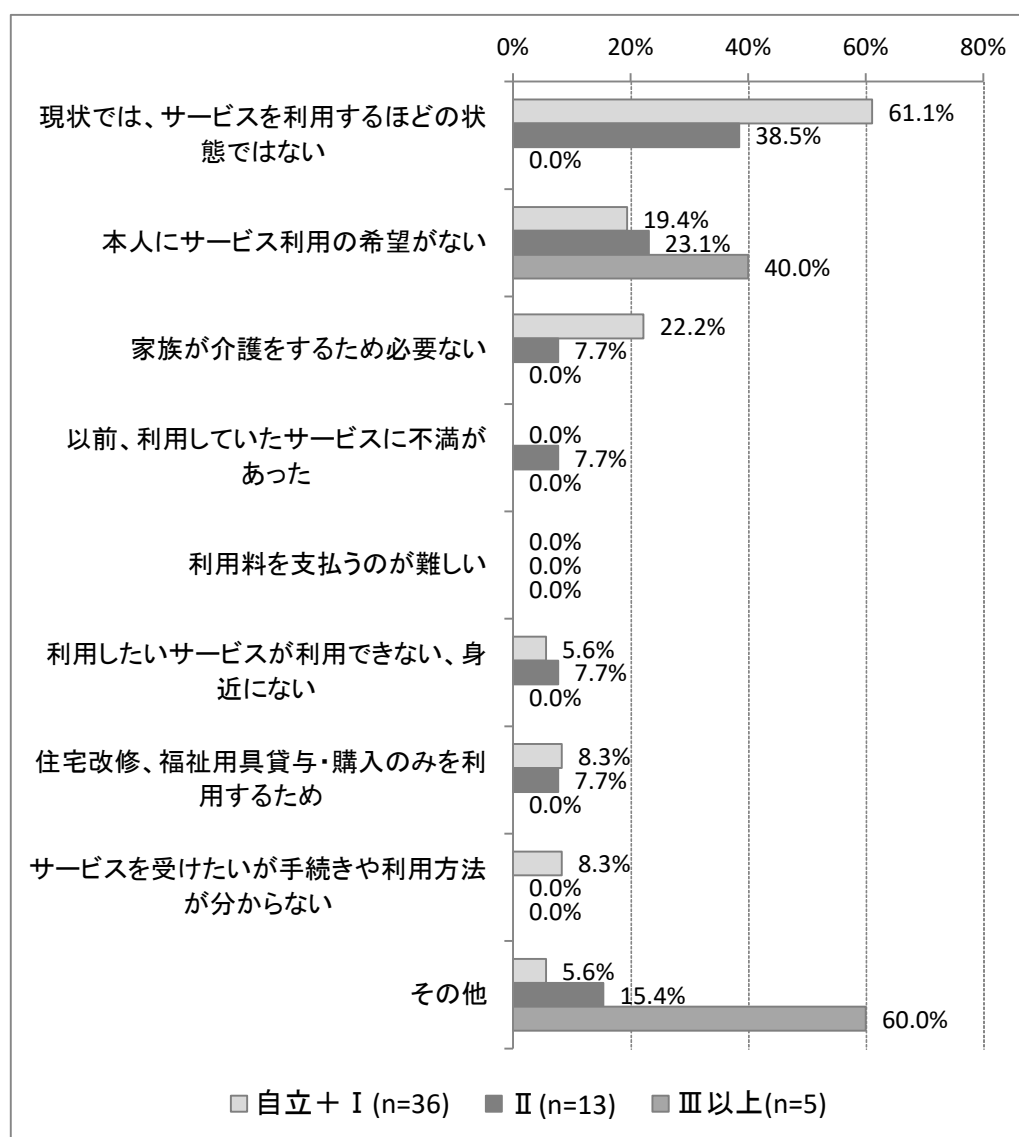
【認知症自立度別の★サービス未利用の理由】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が61.1%と最も割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が22.2%、「本人にサービス利用の希望がない」が19.4%となっている。

「Ⅱ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が38.5%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が23.1%、「その他」が15.4%となっている。

「Ⅲ以上」では「その他」が60.0%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が40.0%、その他の項目はすべて0.0%となっている。

図表 6-5 認知症自立度別の★サービス未利用の理由



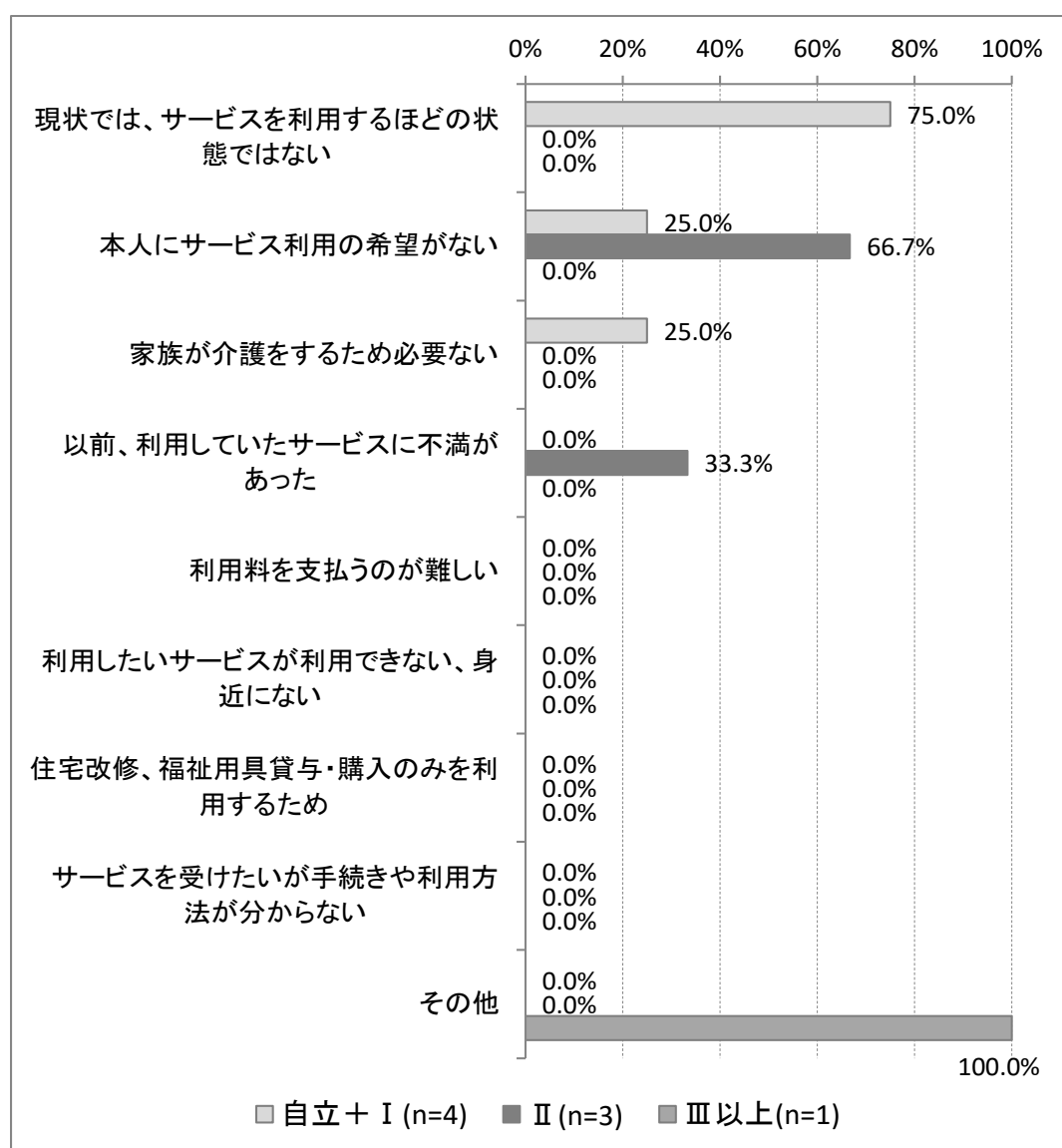
【認知症自立度別の★サービス未利用の理由(単身世帯)】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が75.0%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」、「家族が介護をするため必要ない」が25.0%、その他の項目はすべて0.0%となっている。

「Ⅱ」では「本人にサービス利用の希望がない」が66.7%と最も割合が高く、次いで「以前、利用していたサービスに不満があった」が33.3%、その他の項目はすべて0.0%となっている。

「Ⅲ以上」では「その他」が100.0%と最も割合が高く、その他の項目はすべて0.0%となっている。

図表 6-6 認知症自立度別の★サービス未利用の理由(単身世帯)



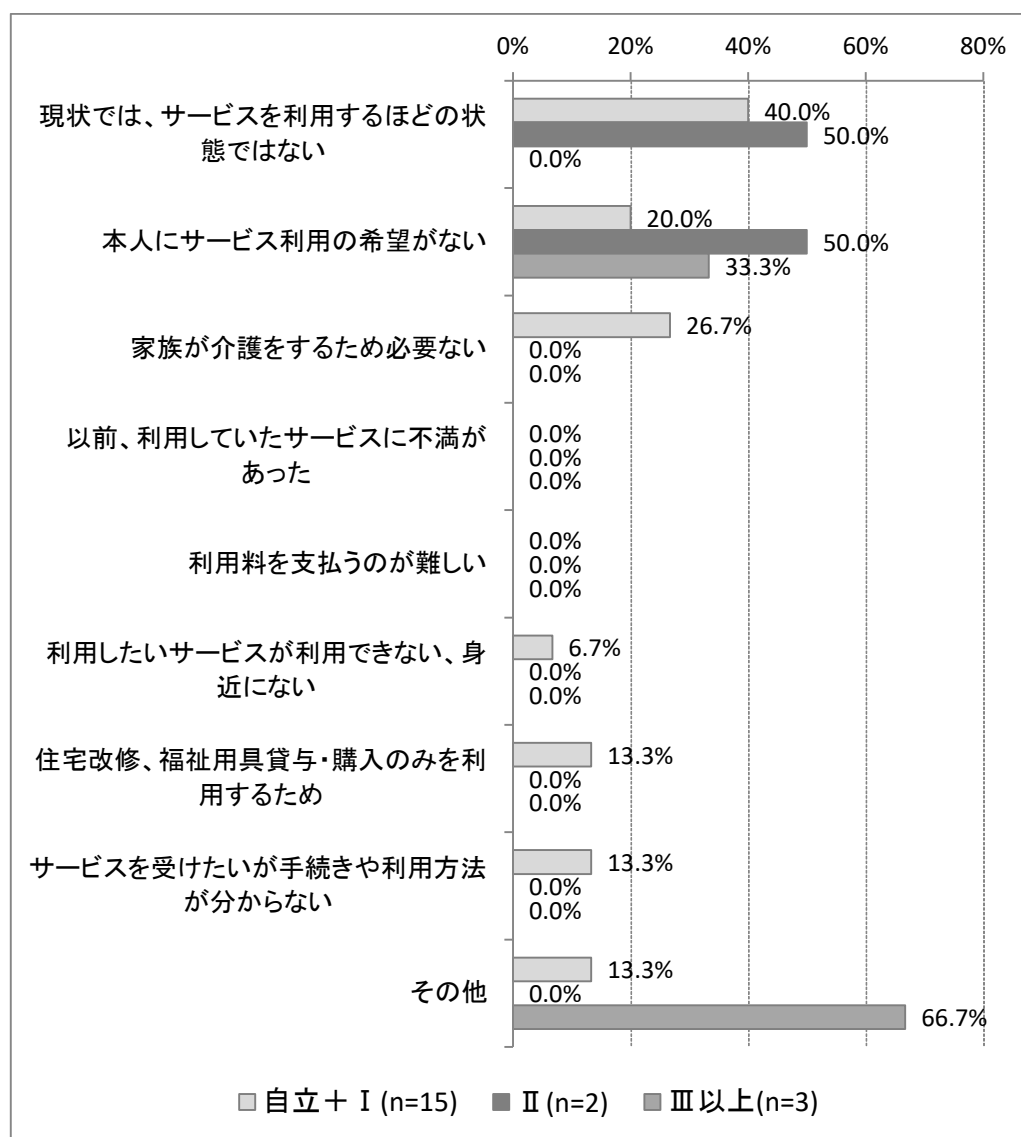
【認知症自立度別の★サービス未利用の理由(夫婦のみ世帯)】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が40.0%と最も割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が26.7%、「本人にサービス利用の希望がない」が20.0%となっている。

「Ⅱ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」及び「本人にサービス利用の希望がない」が50.0%と最も割合が高く、その他の項目はすべて0.0%となっている。

「Ⅲ以上」では「その他」が66.7%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が33.3%、その他の項目はすべて0.0%となっている。

図表 6-7 認知症自立度別の★サービス未利用の理由（夫婦のみ世帯）



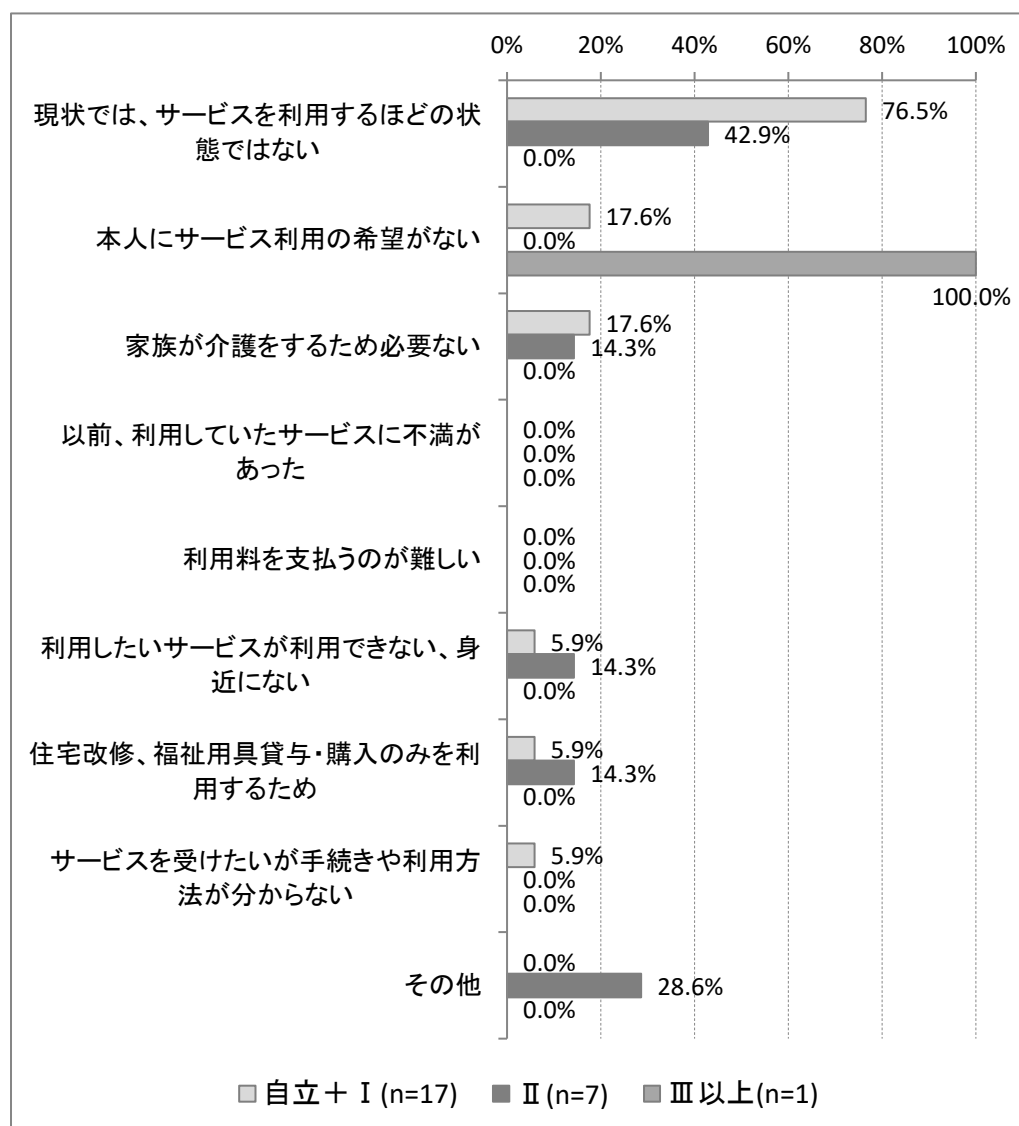
【認知症自立度別の★サービス未利用の理由(その他世帯)】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が76.5%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」、
「家族が介護をするため必要ない」が17.6%、「利用したいサービスが利用できない、身近にない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が5.9%となっている。

「Ⅱ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が42.9%と最も割合が高く、次いで「その他」が28.6%、「家族が介護をするため必要ない」、「利用したいサービスが利用できない、身近にない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が14.3%となっている。

「Ⅲ以上」では「本人にサービス利用の希望がない」が100.0%となっている。

図表 6-8 認知症自立度別の★サービス未利用の理由（その他世帯）



(3) 認知症自立度別の今後の在宅生活に必要と感じる支援・サービス

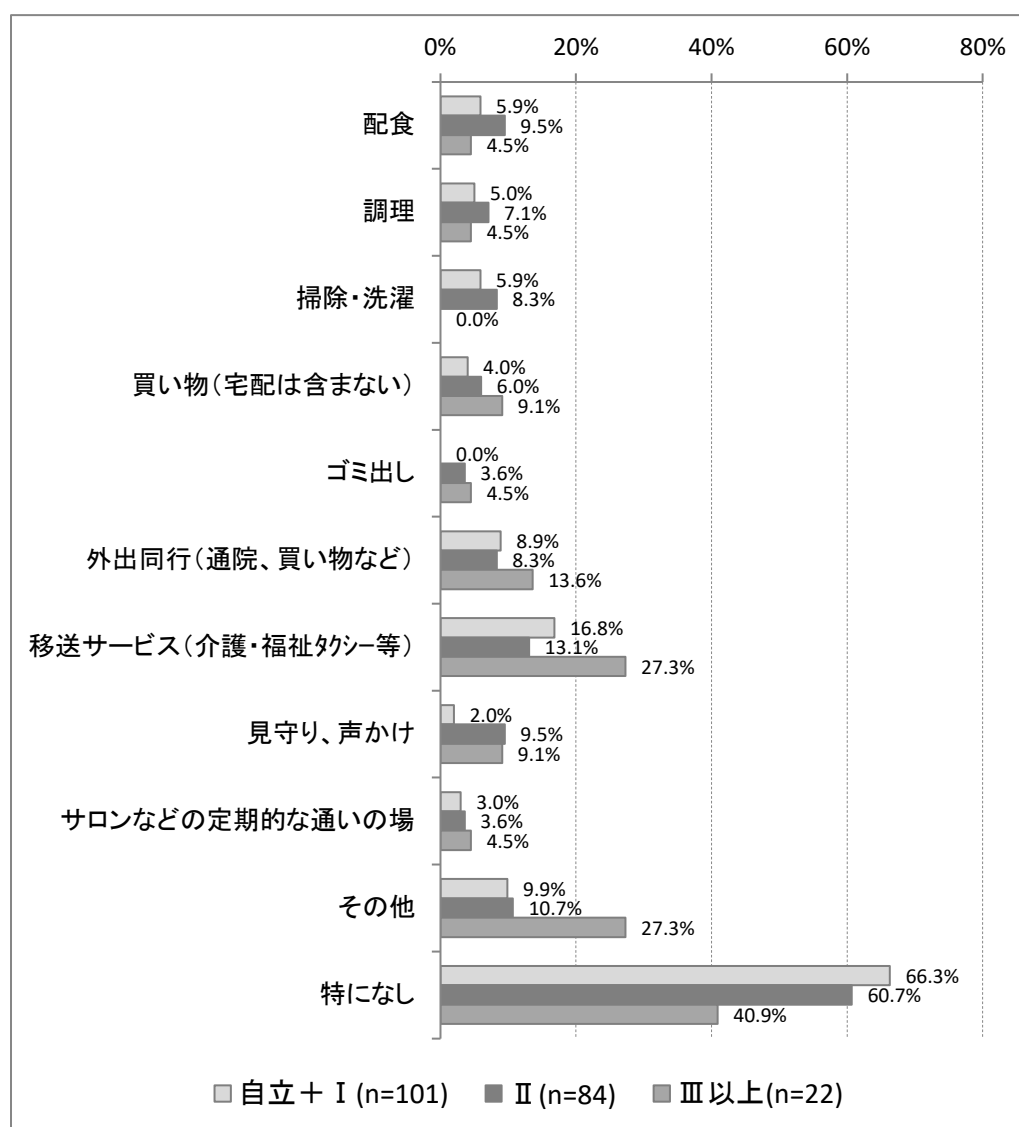
【認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「特になし」が66.3%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が16.8%、「その他」が9.9%となっている。

「Ⅱ」では「特になし」が60.7%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が13.1%、「その他」が10.7%となっている。

「Ⅲ以上」では「特になし」が40.9%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「その他」が27.3%、「外出同行（通院、買い物など）」が13.6%となっている。

図表 6-9 認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



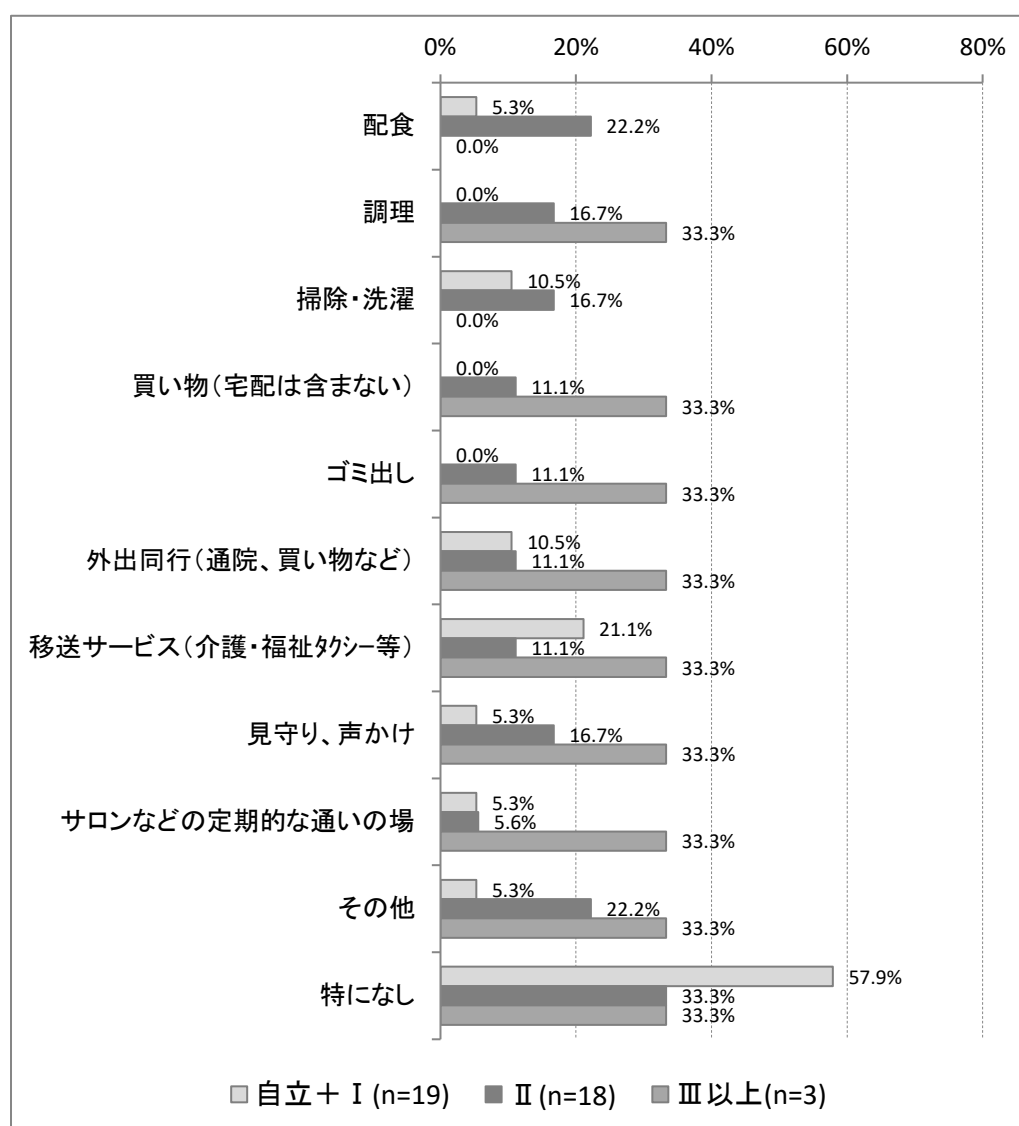
【認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(単身世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「特になし」が57.9%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が21.1%、「掃除・洗濯」、「外出同行（通院、買い物など）」が10.5%となっている。

「Ⅱ」では「特になし」が33.3%と最も割合が高く、次いで「配食」、「その他」が22.2%、「調理」、「掃除・洗濯」、「見守り、声かけ」が16.7%となっている。

「Ⅲ以上」では「調理」、「買い物（宅配は含まない）」、「ゴミ出し」、「外出同行（通院、買い物など）」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「見守り、声かけ」、「サロンなどの定期的な通いの場」、「その他」、「特になし」が33.3%と最も割合が高く、その他の項目はすべて0.0%となっている。

図表 6-10 認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）



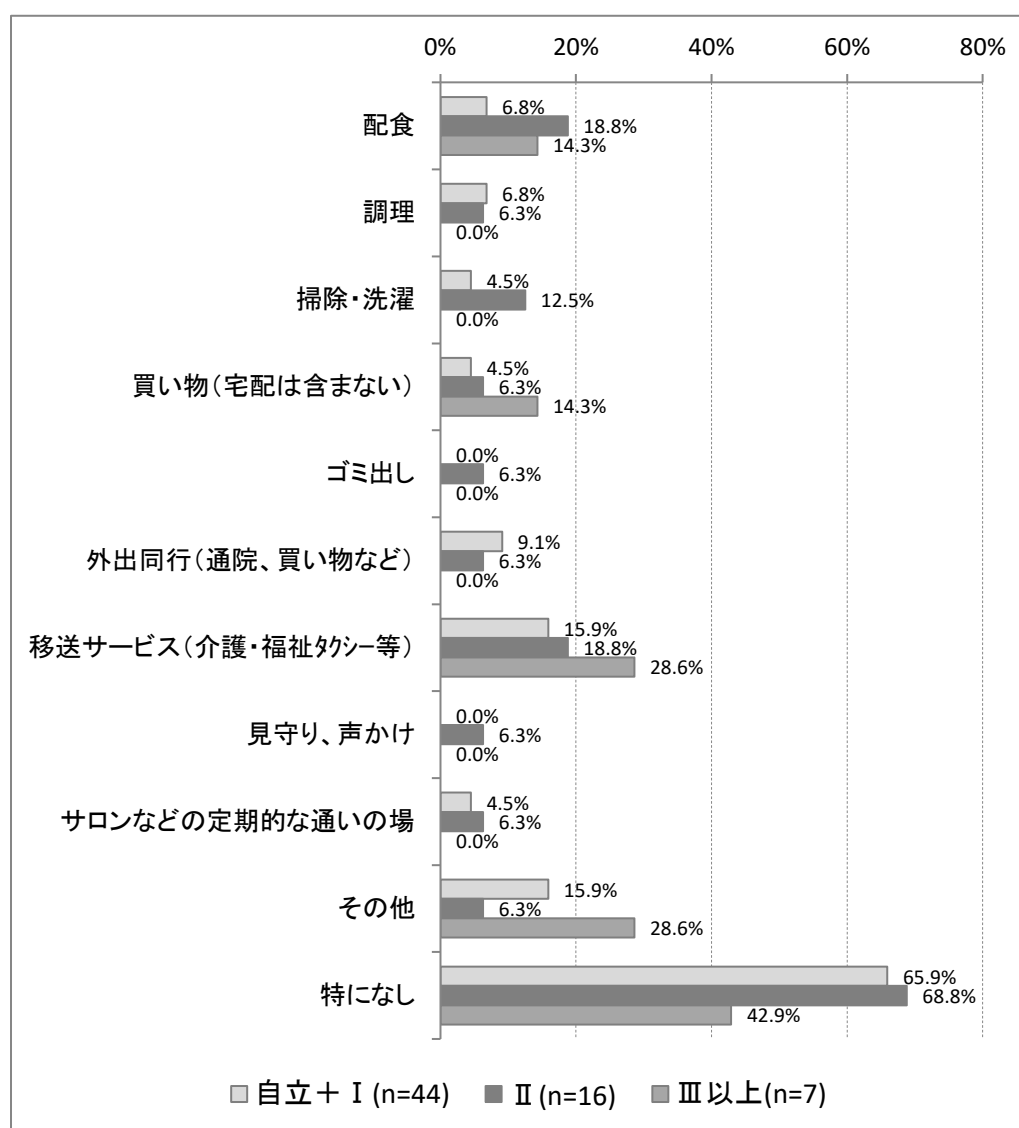
【認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(夫婦のみ世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「特になし」が65.9%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「その他」が15.9%、「外出同行（通院、買い物など）」が9.1%となっている。

「Ⅱ」では「特になし」が68.8%と最も割合が高く、次いで「配食」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が18.8%、「掃除・洗濯」が12.5%となっている。

「Ⅲ以上」では「特になし」が42.9%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「その他」が28.6%、「買い物（宅配は含まない）」が14.3%となっている。

図表 6-11 認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（夫婦のみ世帯）



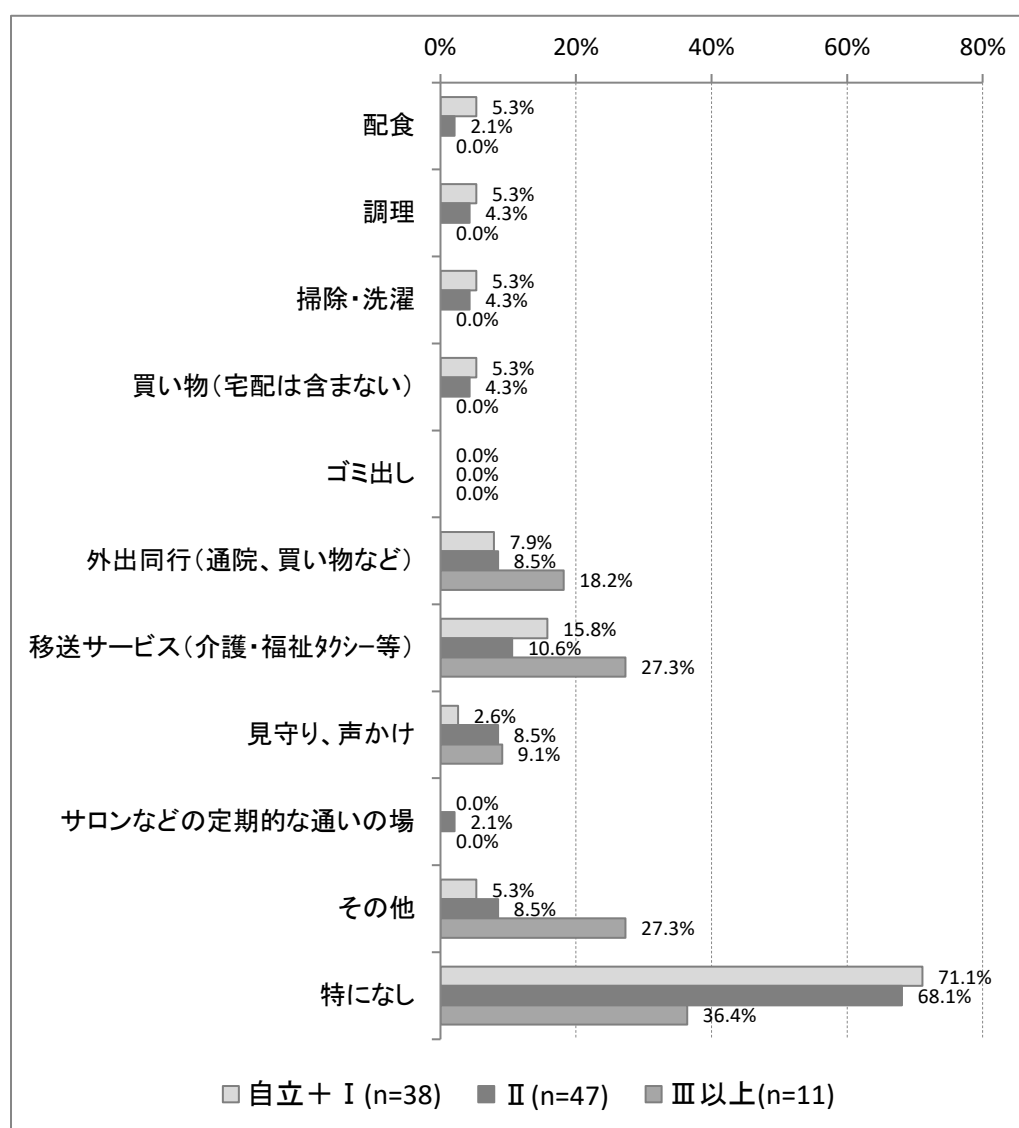
【認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(その他世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「特になし」が71.1%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が15.8%、「外出同行（通院、買い物など）」が7.9%となっている。

「Ⅱ」では「特になし」が68.1%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が10.6%、「外出同行（通院、買い物など）」、「見守り、声かけ」、「その他」が8.5%となっている。

「Ⅲ以上」では「特になし」が36.4%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「その他」が27.3%、「外出同行（通院、買い物など）」が18.2%となっている。

図表 6-12 認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（その他世帯）



(4) 本人の年齢別・主な介護者の年齢

【本人の年齢別・主な介護者の年齢】

介護者の年齢を本人年齢別にみると、「65歳未満」では「60歳代」が100.0%となっている。

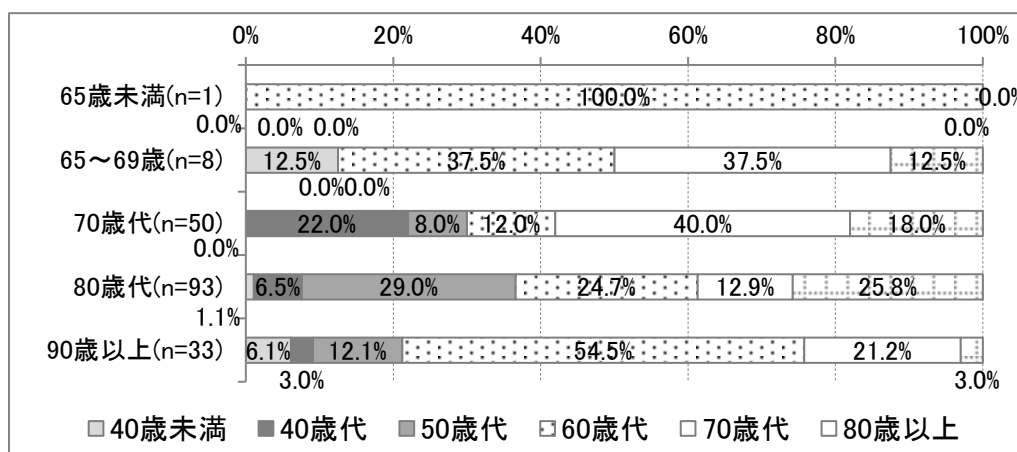
「65～69歳」では「60歳代」及び「70歳代」が37.5%ともっとも割合が高く、次いで「40歳未満」及び「80歳以上」が12.5%となっている。

「70歳代」では「70歳代」が40.0%ともっとも割合が高く、次いで「40歳代」が22.0%、「80歳以上」が18.0%となっている。

「80歳代」では「50歳代」が29.0%ともっとも割合が高く、次いで「80歳以上」が25.8%、「60歳代」が24.7%となっている。

「90歳以上」では「60歳代」が54.5%ともっとも割合が高く、次いで「70歳代」が21.2%、「50歳代」が12.1%となっている。

図表 6-13 本人の年齢別・主な介護者の年齢



(5) 要介護度別の抱えている傷病

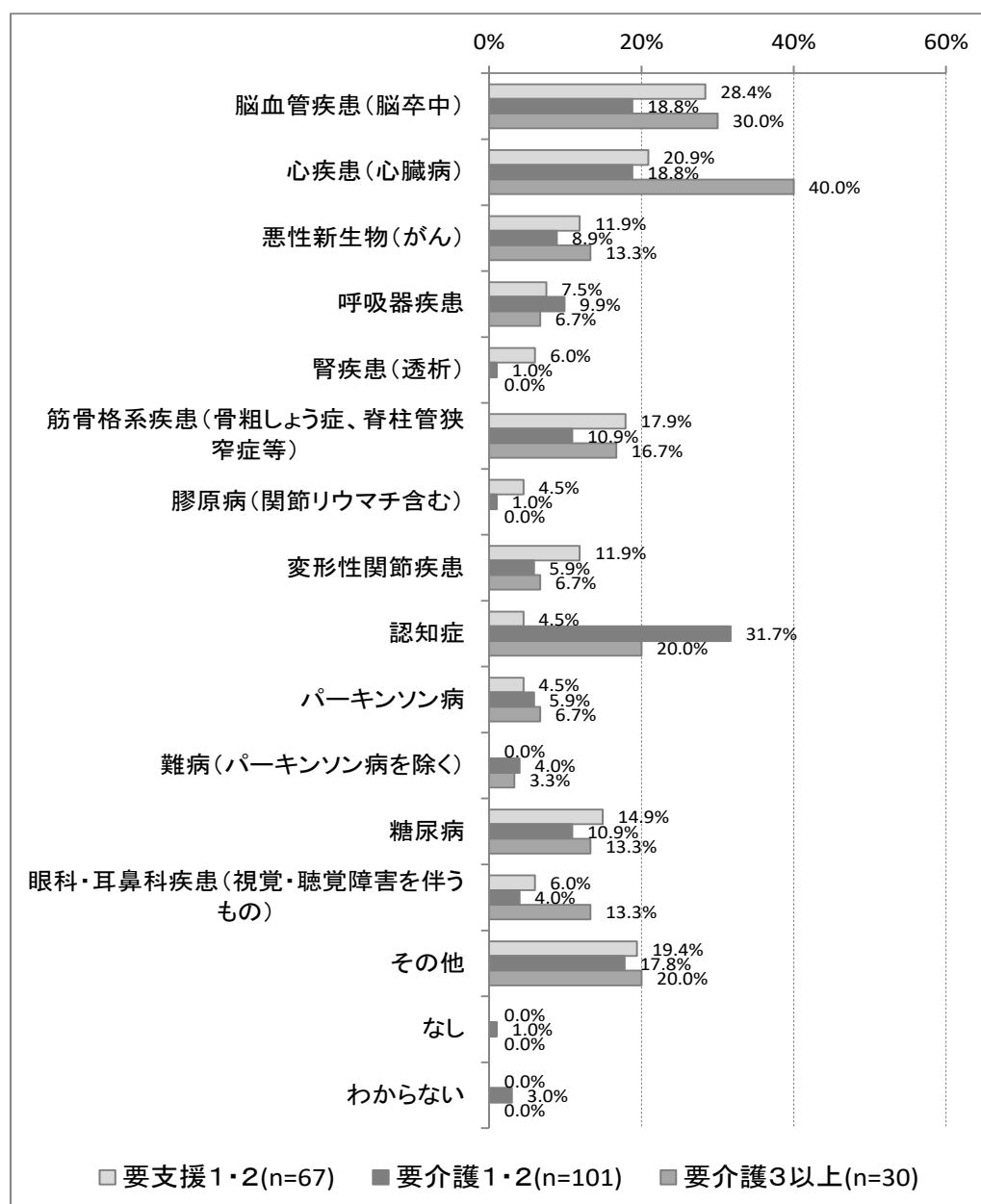
【要介護度別・★抱えている傷病】

抱えている傷病を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「脳血管疾患（脳卒中）」が28.4%と最も割合が高く、次いで「心疾患（心臓病）」が20.9%、「その他」が19.4%となっている。

「要介護1・2」では「認知症」が31.7%と最も割合が高く、次いで「脳血管疾患（脳卒中）」、「心疾患（心臓病）」が18.8%、「その他」が17.8%となっている。

「要介護3以上」では「心疾患（心臓病）」が40.0%と最も割合が高く、次いで「脳血管疾患（脳卒中）」が30.0%、「認知症」、「その他」が20.0%となっている。

図表 6-14 要介護度別・★抱えている傷病



(6) 訪問診療の利用の有無別の抱えている傷病

【★訪問診療の利用の有無別・★抱えている傷病】

抱えている傷病を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「心疾患（心臓病）」、「認知症」が42.1%と最も割合が高く、次いで「悪性新生物（がん）」が21.1%、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」、「糖尿病」、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」、「その他」が15.8%となっている。

「利用していない」では「脳血管疾患（脳卒中）」が27.1%と最も割合が高く、次いで「心疾患（心臓病）」が21.7%、「その他」が18.7%となっている。

図表 6-15 ★訪問診療の利用の有無別・★抱えている傷病

